

2008.11.22  
「教養」って何だ?

東京大学立花隆ゼミ  
「教養と教育」班

東京大学第 59 回駒場祭 立花隆 特別講演

# 6・3・3・4 制の制度疲労と 瀕死のリベラル・アーツ教育

## 参考資料

1	東大教養学部の履修システム	3
I	教養学部前期課程での学修 . . . . .	5
II	各科目の履修について . . . . .	7
III	履修の手続きと成績の評価 . . . . .	12
IV	進学振り分け . . . . .	13
2	東大の今, 東大生の今	17
3	教員にきく	43
4	「教養」を語る	57
5	インタビュー集	79
1	篠原一氏 . . . . .	80
2	水高満氏 . . . . .	84
6	発見のためのリンク集	89
7	南原繁にとっての「教養教育」	93
8	「教養教育」の沿革	95
9	学校系統図	99
10	年表	103
11	ゼミ生による「私の教養観」	105
12	文献一覧	111



# ごあいさつ

## ——「教養」って何だ？——

「教養」、この言葉にはどことなく不思議な雰囲気漂う。上品なような、奥深いような、それでいてなにか胡散臭いような…独特の響きを持っている。

東大には、今や珍しい「教養」の名を冠する学部があり、1・2年生の全員がそこで学業を修めることになっている。立花ゼミも、教養学部のカリキュラムの中で開講されている授業の一つだ。

その「教養学部」の、「教養」ということに何度も言及してきた立花隆のゼミであるから、「自らの好奇心のおもむくままに調べて書く、発信する」という活動の根底には、何か「教養」に通じるものがあるのかもしれない。だが、「教養」そのものを正面から扱う企画はこれまで存在しなかった。

今回「教養教育」企画が誕生したきっかけは、立花先生に駒場祭での講演依頼が舞い込んだこと。テーマは「リベラル・アーツの可能性」。まさにこのゼミに「お似合い」のテーマだったようで、論じたい内容や読みたい本は次々出てくる。しかし、読めば読むほど、考えれば考えるほど、この問題の根深さを痛感させられることとなった。現代に関して言えば、受験や就職など、社会全体のテーマともぶつかってくるのだ。

「教養」って何だ？ 答えは、時代によって個人によって本当に様々かもしれない。そんな問いを、まさに今、「教養課程」に学ぶ東大生が考える。

「教養」ってだれが決めるのか？ どこにあるのか？ そもそも本当に必要なのか？

…そんなことを考えていくページにするのが目標だ。

駒場祭の講演会を機に立ち上がった企画だが、扱う内容の幅を考えると、駒場祭後も続けるだけの意味はあると思う。

学生独自の視点で、「教養」の姿を捉えてみたい。

東京大学立花ゼミ「教養と教育」班

## 立花隆の考える「教養」とは？

——先生の考える「教養」とはどういったものですか。また、なぜ私たちには「教養」が必要なのでしょうか。

教養とは、他者があなたを判断するとき、それがないとバカにしたくなるような一連の知的属性。それがあるからといってリスペクトしてもらえないわけではないが、それがあればたいいていの人から、「こいつはいちおうつき合う（対等に言葉をかわす）価値がある」と思ってもらえるだろうような知的属性。その内容として具体的に何をカウントするかについては、個々人の判断基準があり、それがあまりにちがうから、一概に論ずることはできない。教養を身につけるメリットは、標準的知的水準にある人々からバカにされず、いちおうの付き合いをしてもらえるということだ。別のいい方をすると、あなたが、教養がないと思う人間に対して、『お前ホントに教養がないやつだな』と平気でいえるようになれることにある。そこにメリットを感じない人には、特段努力して身につける必要があるというものでもない。ある程度の知的水準にある人は、成人するまで普通の社会生活（学校生活）を継続するだけで一定の教養は自然に身につく。また自分に圧倒的な自信がある人は、教養の必要性など特に気にせず、好きなように生きていけばよい。

——先生ご自身が大学生だったとき、東京大学に限らず大学の教育についてどのような考えをお持ちでしたか？ また「教養」というものをどのように考えていましたか。

昔、東大に入ると、まず、『学問と教養』という本を読むことが義務づけられていた。東大の各分野の教官たちが、学問とは何であり、教養とは何であるかについて分担執筆した本である。これは基本図書のブックガイドにもなっていた。読めば読むほど、新入生たちは、自分たちが学問においても教養においてもゼロに等しい存在であることを思い知らされた。この本を通して、新入生たちは学問と教養の何たるかについてほしいイメージを持ち、それを自分も身につけたいと思うのが普通だった。このようなガイドブックはいつの時代も必要だと思うが、いまはどうなっているのか。

——東大では「教養教育」を掲げ、前期2年は教養教育、後期2年は専門教育とする特徴的なカリキュラムが組まれています。このカリキュラムの下で、「教養教育」は成功していると思いますか。

他校の悲惨な状況と比較すればそれなりに成功していると思うが、改善の余地は大いにある。

——東大の教養課程に関して、「ここがダメだ」「ここを変えればもっと良くなるのに」などと感じている不満や要望を教えてください。もしご自身の手で大学の教育システムを改善するならば、どのような点に着手したいですか？ ビジョンがあれば書いてください。

変えるべきところ（制度とカリキュラム）は多々あるが、東大だけで変えられない側面が多すぎる。詳しくは本日の講演で論じたい。

※講演の様子は、「教養と教育」企画 Web ページでお伝えしていく予定です。

# 1 東大教養学部の履修システム

「進振り」「必修」「総合科目」「A系列」「優3割規定」…。この先100ページ以上にも渡る本冊子において、冒頭に挙げたような「駒場独特」のキーワードが幾度となく登場する。ここでは、“瀕死の”リベラルアーツを請け負う東大駒場2年間の教育システム（主として履修システムや専門課程への進学）をざっくりと眺めながら、同時にそのシステムの中で学習生活を組み立てる学生の実感と実態にも触れてみたいと思う。

ここで参考にするのは『履修の手引き』なるA4版100ページ程度の冊子である。この冊子は、東大に入学する4月頭の登校日のガイダンスで配布され、駒場の2年間を通して授業の履修において学生が知っておくべき事項や「進学振り分け制度」に関する詳細な説明が記されている。

ガイダンスは入学したての希望にうち満ちた学生がひしめき合う大教室で行われ、冊子の説明以外にも諸事に多くの時間拘束されうんざりした、という記憶が筆者の中に残っている（実際は周囲をキョロキョロしてあらぬ想像を巡らしていたのだが）。そのようであるからこの手引きがどんな言葉を添えて配布されたかはよく覚えていないのだが、「とにかく大切だからよく読み込め」とは言われた記憶がある。そう、実はこの手引き、「読むべきは教科書より履修の手引き」という驚きの言い伝えがある程、東大での学生生活にとっては重要なものなのである。

まず手始めに、教養学部長小島憲道先生による「はじめに」を引用しつつ、“メニューを広げるお店”側のモチベーションを検討してみたい。

東京大学における修業年限は4年間で、うち始めの2年間は、全ての学生が駒場の教養学部（文科一類から理科三類）に籍を置いて学修する。これを「前期課程」という。また、後の2年間は法学部や医学部といった専門課程に籍を置いて学修し、これを「後期課程」という。さらに、前期から後期へ進学する際、学生が前期どの科類に所属していようと便宜的には希望した科類へ進学できるという仕組みを持ち、これを「進学振り分け制度」（通称「進振り」）という。このような仕組みを持つ大学は、日本の総合大学には他に例がない<sup>1</sup>。このことについて小島先生は次のように記す。（『履修の手引き』p.1）

豊富に提供されている科目を履修する中で、自分の適正や将来設計をよく考えた上で後期課程（専門課程）を選択し、進学していくことになります。

（中略）

東京大学に入学された皆さんには、まず、バランスのとれた教養を幅広く身につけ、自分が将来さらに究めていくべき学問や、社会の中での自分の生き方についての判断力を養っていただきたいと強く期待しています。

<sup>1</sup> この話に関しては冊子後半の資料を参照されたい。

(中略)

東京大学の特色である「進学振り分け制度」とは、後期課程（専門課程）での進学先を3学期（2年生）の時点で決める仕組みです。この進学振り分け制度も2008年度の進学振り分けから新しくなり、全ての学部にとどの科類からでも進学できる可能性を含めて一層柔軟な仕組みに改善されました。

すなわち、入学時に学部・学科を決定してしまう他の大学とは異なり、東大は前期2年間の幅広い教養教育を用意して、己の志す道に限らず社会全体への大きな視野を育むと共に、自己の志望をもう一度見つめ直して、ある程度の自由度を保障した進路選択を許容しているのだ。

筆者の手元にあるデータを参照すると、平成20年度の新入生全員を対象としたアンケートの「東大に入学した理由」という設問において、実に全体の47.55%もの学生が「入学後の新路選択の幅が広いから」を挙げている（『2008 東京大学入学記念アルバム』p.95）。

実際、筆者も「たかだか18のガキに人生決められるはずはない！」とあって、この進学振り分け制度に魅せられて入学したクチだ。

同アンケートでは「教養学部前期課程のカリキュラムに期待しているか」という問いに対して86.4%の学生が「期待している」と回答し、「進学振り分けにおける全科類枠<sup>2</sup>についてどう思うか」で全体の76.34%の学生が「望ましい」と回答している（同書p.96）。

学生は、この前期の幅広い教養教育と自由な進学振り分け制度に大きな期待を抱いて京王井の頭線駒場東大前駅に下り立つのである。

では、その前期課程の実態はいかなるものなのだろうか。『履修の手引き』のコンテンツは大きく以下に示す7つにわかれている。

- I 教養学部前期課程での学修
- II 各科目の履修について
- III 履修の手続きと成績の評価
- IV 試験に不合格となった場合、または欠席した場合
- V 第3, 4学期に開講される各学部専門科目
- VI 教職科目
- VII 進学振り分け

以下、この順序で解説を進めようと思うが、IV, V, VIは論旨や大筋から少し逸れるので割愛し、I, II, III, VIIについて、適宜注釈や学生の捉え方なども差し挟んで語ることにする。この内容を大雑把にでも把握することで、アンケートでの学生の声を理解する助けとなれば幸いである。

<sup>2</sup> 後述。要するに、すべての学生がどの学部にも進学できる可能性がある。

# I 教養学部前期課程での学修

## 1 科類

前にも少し触れたが、東大は他の大学と異なり、入学時に学部・学科の決定を課さない。では、全学生が一律の括りで入学してくるかというところ、それも間違いで、以下の6分類のいずれかを選んで受験・入学することになる。大学が提示する科類毎の特徴は以下の通りである。

**文科一類** 法と政治を中心にして社会科学全般の基礎を学び、関連する人文科学と自然科学の諸分野に渡って理解を深め、人間と社会について広い見識を養う。

**文科二類** 経済を中心にして社会科学全般の基礎を学び、関連する社会科学と自然科学の諸分野に渡って理解を深め、人間と組織について広い見識を養う。

**文科三類** 言語、思想、歴史を中心にして人文科学全般の基礎を学び、関連する社会科学と自然科学の諸分野に渡って理解を深め、人間と文化的・社会的営為について広い見識を養う。

**理科一類** 数学、物理、化学を中心にして数理科学、物質科学、生命科学の基礎を学び、自然の基本法則に関する探求心を養い、化学や技術と社会の関わりについても理解を深める。

**理科二類** 生物、化学、物理学を中心にして生命科学、物質科学、数理科学の基礎を学び、自然の諸法則に関する探求心を養い、科学や技術と社会の関わりについても理解を深める。

**理科三類** 生物学、化学、物理学を中心にして生命科学、物質科学、数理科学の基礎を学び、人間についての探求心を養い、生命と社会の関わりについても理解を深める。

似たような解説が並ぶが、数点の言葉の入れ替えによって科類間には雲泥の差が生じている。学生の実感から科類の特徴を捉えると以下ようになる（ちなみに呼称も学生風に略記にしてある）。

**文一** 文系の中では入るのが一番難しく、みんなあまり勞せず法学部に進学する。

**文二** 「猫文二」<sup>3</sup>と言われるほど暇で（現状は変化しつつある<sup>4</sup>）、多くが経済学部へ進学する。

**文三** 他より簡単に入ったは良いが、軒並み定員割れの文学部以外へ行こうと思うと厳しい競争に晒される。特に後期教養学部への進学は一つのステータス。

**理一** 千人を超える大所帯集団。主に理学部や工学部へ進学。多いだけあって競争は厳しい。

**理二** 主に農学部や薬学部へ進学。医学部への道も他よりはある。

**理三** 言わずと知れた日本最難関。進学振り分けでは、比較的得点が低くともほとんどの学生が医学部医学科に進学できる。

競争云々に関してはIV進学振り分けのところで詳しく触れる。ここで覚えていて欲しいのは、「入試で大まかな進路分けが為されており、入試の問題は同じだが科類間で採点

<sup>3</sup> 駒場キャンパスには野良猫が多く住みつく。この言い回しは、あまり授業に出ない（出なくても進路に差し障りがない）文二生を指して『猫の方が多く見かける』と揶揄したものである。

<sup>4</sup> 経済学部の需要が「数学のできる理系」へと移り始め、それに気づいている文二生はしっかり勉強している。

基準や受験生のレベルは異なってくる」ということである。決して全学生が平等な進路選択権を持つのではなく、入試で入った科類によって行きやすい学部・行きにくい学部が存在するのだ。この件についても IV で詳しく言及したい。

## 2 科目と単位

前期課程で解説されている科目は、「基礎科目」「総合科目」「主題科目」の3種類に分類され、学生は「各科類の履修プログラム」の規定のもと、文系は合計70単位、理系は76単位を取得しなければならない。

前期課程の2年間は半年毎4学期に分かれており、各学期は、「1学期」「2学期」（ここまで1年）、「3学期」「4学期」（ここまで2年）と呼ばれる。

大体の科目で1週間に1コマ90分の授業が展開され、科目ごとの認定基準（試験やレポートや出席）をクリアすると1科目につき2単位が与えられる。故に、例えば文系であれば2年間の内に35コマ（ $= 70 \text{ 単位} \div 2$ ）の授業を履修すれば良いわけで、それはつまり一個学期に約9コマ（ $\div 35 \text{ コマ} \div 4 \text{ 学期}$ ）を履修すれば間に合うという話になり、「東大もかなり楽勝ではないか」とお思いかも知れないが、そんなに単純な話ではないことは、先ほどの「履修プログラム」の定めるところを見れば瞭然である。科類や学期によって差は（大きく）あるようだが、例えば文三のWさんは以下のような履修の仕方をしている。

1学期 17コマ / 2学期 15コマ / 3学期 10コマ / 4学期 19コマ : 合計 61コマ

大幅に多いと思うだろう。いくら東大生勉強熱心だからといって何もこんなに、と。もちろん、自分の興味で授業を選んではいいるのだが、実は私たちもとりたくてこんなに多く履修しているわけではなく、とらざるを得ない理由がそこにはあるのだ。

蛇足ではあるが、『手引き』（p.8）にはこんな記述がある。

1コマの授業を履修するためには講義・演習の場合は週4時間、実験・実習の場合は週1時間の自宅学習が必要とされている。

これを忠実に遂行している学生を、筆者は未だ知らない。

## 3 科目の概要

### 基礎科目

前期課程において最低限身につけておくべき基本的な知識・技能などを習得するためのもの。文系は「外国語」「情報」「身体運動健康科学実習」「基礎演習」「方法基礎」（以上、必修<sup>5</sup>）、「社会科学」「人文科学」（残りは準必修<sup>6</sup>）。理系は「外国語」「情報」「身体運動健康科学実習」「基礎実験」「数理科学」「物質科学」「生命科学」（以上、必修）が課されている。

5 必ず単位を取得しなければならない科目であり、落としてしまうと留年の可能性もある。

6 必修に準ずる科目で、ある程度の幅の中から定められた数の科目履修が必要。科類によってその数は異なる。

### 総合科目

現在において共有すべき知の基本的枠組みを多様且つ最先端な角度・観点から習得するための科目。下記の6系統がある。

- A 思想・芸術    D 人間・環境
- B 国際・地域    E 物質・生命
- C 社会・制度    F 数理・情報

文系・理系ともに16単位の取得が必要なのだが、文系は理系分野(D, E, F)へ、理系は文系分野(A, B, C)への越境的な履修が必要条件として課されている。

### 主題科目

文系理系ともに2単位以上の取得が必要。以下大きく3種類のタイプがある。

**テーマ講義** 領域横断的な教員リレー式の講義。

**全学自由研究ゼミナール** 教員各自が関心に応じて主題を設定し少人数で行うゼミ。

**全学体験ゼミナール** 教員が学生に体験を通じて学ぶ機会を提供する授業。

以上、「基礎科目」「総合科目」「主題科目」の3つに分類された科目から東大生の時間割は構成される。必修のほとんどは教務課が時間・教官をクラス毎に割り振る形で与えられるため、学生は必修のない空き時間に自己の裁量で総合科目・主題科目を入れて時間割を構成していくのである。

## II 各科目の履修について

ここでは各科目の履修について、Iで見た科目3分類からさらに詳しく各教科ごとの履修の方法や必要単位数が記されている。冗長にはなってしまうが、アンケートを読むのに必要な知識であるため資料として要約する。

### 1 基礎科目

#### 既習外国語（主として英語）

学生は受験の際に第1, 第2外国語を選択する。組み合わせは「既習+初習」もしくは「既習+既習」とされているため、ほぼ全ての学生が「英語+初習」を選択する。故に英語に関しては超大人数の授業となってしまう、公平化を図るため現在進行形で様々な模索が為されている。驚くべきことに(少なくとも筆者は驚いた)、3学期になるとどの科類でも英語は1コマに、4学期になると0になってしまう。

1年次の英語は「英語一列」(通称:英I)と「英語二列」(英II)に分かれる(文三のみ3つ目があるがここでは割愛)。

英語一列では、視聴覚設備を利用した一斉授業で足並みを揃える努力が為されている。内容も文理越境の多様なもので、東大教授が専門の分野を英語で解説している読み物教材

を使用している。ビデオ教材など様々な工夫が見られるのだが、普通に精読すれば面白い教材も、予備校のような解説授業を挟めば抵抗を感じる学生も多く、なにより、マークシートを利用した期末試験はセンター試験を喚起させ、反感の的である。

英語二列では、比較的少人数での授業が展開される。1, 2 学期には R (Reading, 読解基礎) と P (Presentation, ライティング・発表・討論) を、3 学期には C (Comprehension, 聴解・読解) を履修する。なお、2008 年度より、理系の P は特別プログラム ALESS (Active Learning of English for Science Students) により実施されている。これは、理科系の学生に早い段階から英語で科学論文を書く経験を積ませる、という目的のもとに始められたもので、学生は、簡単にでき、しかも多くの“数字を生む”ような実験を各自で考えて行い、得られた結果を解釈したり、データの有意性を議論したり、さらにはその実験の“科学に対する貢献”まで主張したりすることが求められ、最終的には一編の論文擬き<sup>7</sup>を作成して提出することになる。このように、どう見ても理科系の教員が担当した方が良さそうな内容であるが、英語系の教員組織だけで運営されている感拭えない。また、純粋な語法的誤りの範疇を外れた科学的事項を、いかにも科学に明るくなさそうなネイティブ教員<sup>8</sup>に指導されることの意味は、全く問題にされないようである。結局のところ、「英語を学びたい」という理科生の意欲は、毎週のように出される課題の対処に追われる中で少なからずすり減らされることになる。

7 小島教養学部長も言う通り、“英文報告書”の域を出ない。

8 ALESS プログラムの開始にあわせ、ネイティブスピーカーの“特任”教員が大量に雇用されている。

## 初習外国語（通称：2 外）

第二外国語と呼ばれ、ドイツ語（ドイツ語）、フランス語（フラ語）、中国語（チャイ語）、ロシア語（ロシ語）、スペイン語（スペ語）、韓国朝鮮語（コリ語）、イタリア語（イタ語・文科三類のみ）が開講されており、受験時に選択する。学生の生活基盤となるクラスも基本は語学毎の組み分けである。文系は一列・二列・演習の3種類、理系は一列・二列の2種類が開講される<sup>9</sup>。「フラ語とる馬鹿、チャイ語落とす馬鹿」とはよく言ったものである。

9 分かれてはいるが、同じ教員が担当することもある。

## 情報

全科類の必修で、1 学期のみ 1 コマ開講される。共通の教科書を使った授業で、主に情報教育棟というコンピュータ設備の整った建物で行われる。コンセプトは、実用的なパソコンの使い方かと思いきや、シラバスの言葉を借りれば

情報の技術面だけでなく、その人間のおよび社会的な側面の正しい理解が必要である。これは情報社会人の基本的素養であり、(中略) 本科目の目的は、このような素養を、講義と演習とを通じて身につけることである。

とされている。「やるのならば実用をやって欲しかった」という不満は多々あり、授業も眼前にネット環境があるためか、逃避行するシーンも見慣れたもの。

## 身体運動・健康科学実習（通称：スポ<sup>しん</sup>身）

全科類の必修で 2 単位必修。但し、これに限っては 1 コマの履修につき 1 単位である。この科目は高校の「体育」を想像してもらえばよい。スポーツをしつつ、学期 3 回程度

の健康科学実習（人工呼吸法や筋肉細胞の観察など）が行われる。基本的には欠席やレポート未提出さえなければ「優」の成績（後述）がつく。

### 基礎演習・方法基礎

基礎演習は文系のみ、方法基礎は文三のみ開講される。前者は、人文社会の諸領域の基本的なトピックを扱い、資料収集や調査方法、口頭発表、論文作成の能力を養う。が、クラスごと割り当てられる教官で内容や“重さ”に若干のズレは生じる。1学期の1コマ必修の科目である。

後者は、文三の2学期で2コマの必修である。「哲学演習」「資料論」「データ分析」「テキスト分析」から重複可で2つを履修する。

### 人文科学・社会科学

文系の準必修科目である。ある程度の幅の中から科類毎に決められたコマ数以上の履修が必要である。

社会系では「法」「政治」「経済」「数学」「社会」が開講され、文一、文二は5コマ以上、文三は2コマ以上の履修が必要である。尚、文一は法か政治から2コマが必要で、文二は経済か数学から2コマが必要である。

人文系では「哲学」「倫理」「歴史」「言葉と文学」「心理」が開講され、2コマ以上の履修が必要。

基本的に900番教室や13号館など大教室・大人数での授業が多く、出席もとらないため、熱心に聴講する学生から、教官の顔がわからない学生までピンキリである。

### 数理科学

いわゆる「数学」を指していると考えてよく、自然科学的要素はない。1年生で履修するのは「数学I」「数学II」の2つがあり、前者で微積分の基礎、後者で線形代数学の基礎を学修することになっている。しかし、教員によって扱う内容の量・順序にかなりのばらつきがある。講義はほとんどの場合、教員が黒板に「定義」「定理」「証明」「系」などを順々に板書していき、学生は黙々とそれをノートに写す、というスタイルであり、「教科書の内容を書写する」と言った方が適切かもしれない。教員が途中で説明を挟むことがあったとしても、学生にしてみれば、講義中に深く考える時間的余地はほぼない。扱う量に比して講義の時間が短すぎると見るか、学生側の予習が足りていないと見るかは人それぞれであるが、いずれにしても忙しい時間である。

また、数学I・数学IIの講義とは別に、「数学I演習」「数学II演習」の時間が隔週で設けられている。

第3学期の科目は総合科目のF系列（後述）で開講され、「数理科学」と名を変え、学生が任意に選択できる。具体的には、「数理科学I」～「数理科学V」がある。

## 生命科学

理科生の必修授業で、分子生物学の基礎を学ぶ。特に理二・理三では、「生命科学Ⅰ」「生命科学Ⅱ」をそれぞれ1, 2学期に履修することになっている。なお、理科一類で生命科学が必修化された背景には、大学入試（センター試験・2次試験）において「理科」の科目選択（「物理」「化学」「生物」「地学」のうちから2科目を選択）に際して、「物理」と「化学」の組み合わせを選択する学生が圧倒的に多いという事実がある。入試の出題内容から見ると、「物理」や「化学」では数式の利用が主であり、自然現象の定性的理解が直接問われることが少ないのに対し、「生物」は実験的要素・記述式の解答が多くなっている。

## 物質科学

理一は「力学」「熱力学」あるいは「化学熱力学（Bコース）」（以上1学期）、「電磁気学」「構造化学」（以上2学期）、「物性化学」（3学期）、また理二・理三は「力学」「化学熱力学」（以上1学期）、「電磁気学」「構造化学」（以上2学期）、「物性化学」（3学期）が必修科目に指定されている。このほか、2学期に総合科目E系列（後述）で「振動・波動論」（クラス指定<sup>10</sup>）が開講される。

必ずしも教科書どおりの内容・順序に講義が進むわけではなく、教員によってある程度内容の取捨選択もなされる。式演算などにおいて結果をいち早く求めるために、数学の世界では決して許されないような独特の“割り切り”や“テクニク”が次々と披露され、学生はその洗礼を受けることになる。

## 基礎実験

理一は「基礎物理学実験」「基礎化学実験」、理科二・理三は「基礎物理学・化学実験」（理一の2つの実験をそれぞれ半分ずつ行う）、「基礎生命科学実験」がそれぞれ必修とされ、2・3学期は週1回の割合で午後を実験棟（6号館）で過ごすことになる。

以下では、例として「基礎物理学実験」について述べる。

実験室には予め装置が準備されており、学生は1つの学期に12種類の異なる実験を、指定された部屋で、教科書に書かれた手順に沿って行う。教科書の内容は実験装置や手順に関しては至れり尽くせりであるが、やるべき実験の量も多く、実験時間中に熟考する時間はあまりない<sup>11</sup>。

各自の「実験ノート」に測定値・グラフ・考察などをすべて記入し、最終的に別の部屋で、担当教員による「試問」を受ける。実験装置の工夫を問われたり、教科書のように“うまく”いかなかった場合はその理由を訊ねられたりする。試問が無事終了し、実験ノートに教員が印を捺したのちは、装置の後片付けなどをして実験終了となる。本来は3・4限の枠に入っている科目だが、実験の内容が盛りだくさんで、試問の担当教員が一人で多くの学生を抱えていることもあって、5限まで突入してしまう場合がほとんどである。つまり、色々な意味で“要領”がよくないと、手早く終わらせることはできない。例えば、教科書（計算にあたって使うべき“公式”などもすべて教科書に記されている。）や付属のDVDの説明を頭に入れておかなければ、非常に手間取ってしまうことになる。

10 総合科目の枠で行われる授業（すなわち任意選択）ではあるが、多くの学生が履修することを想定し、クラスごとに講義の曜限・教室・担当教員が予め割り振られているもの。学生が「皆が取るから」という安易な理由で選択し、そのまま必修科目の“やらされる”感覚を引きずってしまうのを助長しているという側面がないわけではない。なお、過去のカリキュラム改定で、それまで総合科目のクラス指定で開講されていた科目が“必修化”された例がいくつかある。

11 それも「予習のうち」ということだろうか

成績は実験開始とともにとられる出席と、学期末に提出する「実験ノート」によってなされる。他人の実験ノートやデータを利用するなどの「不正行為」を犯した学生に対する処分は、年々厳しくなっているようである。

## 2 総合科目

幅広い分野の学問にバランスよく触れることを掲げる東大の教養教育において、その役割の多くを担っている。総合科目はIIで挙げた6系列から、以下の指示に従って8コマ16単位の履修が必要である。

**文系** A～Cまでの2系列以上に渡り4コマ、D～Fまでの2系列以上に渡り4コマ

**理系** A～Dまでの2系列以上に渡り4コマ、E・Fの2系列に渡り4コマ

文理の違いはD系列の扱いである。Dでは主に「人間」「環境」に関する授業が開講されており、環境問題や倫理、情報といった内容を扱う。これが文系にとっては「まだ文系でも歯が立つ」内容、理系にとっても「まだ理系でも歯が立つ」内容であるので、文系がD、E、Fの“理系単位”を、理系がA、B、C、Dの“文系単位”をそれぞれ取得するために履修が集中する傾向がある。

## 3 主題科目

2単位以上の履修が必要。成績は点数化せず、合格・不合格のいずれか。内容的にも拘束時間的にも重いものが多く、テーマ講義の聴講で済ませるか、2年になって時間ができたところでゼミに入り活動するかというところである。が、立花ゼミのように他の何を投げ出しても学生生活の全てを注ぐに値するものもあり（少なくとも筆者はそう考えている）、本冊子編纂に関わる学生のように熱い思い入れをもって望む学生も少ないとは言えない。

以上が各科目の大体の説明である。学生は以上の履修の決まりや内容をふまえ履修登録を行い自分だけの時間割をつくる。学生の自主性次第で科類や文理を越境した学修が可能で、大きな可能性を秘めたシステムであることは確かである。

蛇足かも知れないが、ここで『<sup>ぎゃくひょうてい</sup>逆評定』「シケプリ」<sup>たい</sup>「シケ対」等、学生による制度への“抵抗”について触れておきたい。

まず『逆評定』であるが、これは東京大学のサークルのひとつ、時代錯誤社が発刊する冊子であり、同サークルの言葉を借りれば「教養学部1、2年生に対し授業を行っている教員を学生のアンケートによって評価しようというもの」である。主に単位の取りやすさや得点の期待度が主眼であり、それによって教員は「<sup>おおほけ</sup>大仏」「<sup>ほとけ</sup>仏」「<sup>おに</sup>鬼」「<sup>おおおに</sup>大鬼」の4等に分類される。学生はシラバスとこの逆評定（もはや逆評定のみか？）を片手に履修科目を検討するのである。それほどに学生は単位と点数に固執している。しかし、学生の名誉のために言うと、今回学生に向けて行ったアンケートの回答（次章に掲載）で「学生が単位と点数に固執している」という旨の指摘は多くなされており、学生が「わかってはいるの

だけれど、そうする他ない」という苦境に立たされていることが読み取れる。

これまで述べてきたようなシステムのもとで、学生側も効率よく勉強し単位点数を取得する術を発達させてきた。それが「シケ対」「シケプリ」なるものである。東大には高校と同じようにクラス制度が存在し、必修科目等の授業はクラス単位で受講することになっている。またクラスの友人と相談して履修科目登録をする場合が多いため、大概の授業はクラスメイトの複数人が受講しているという状況になる。この状況を利用し、クラス毎に非公式に決められた「試験対策委員長（通称：シケ長）」がクラスメイトの1人ないし2人につき1科目を割り振り、期末試験に向けての対策委員に任命する。これを「試験対策委員（通称：シケ対）」といい、シケ対は担当する授業に欠かさず出席してノートをとり、「試験対策プリント（通称：シケプリ）」を作成する。シケプリには、授業の要点まとめや予想問題・過去問などが掲載され、最小限の勉強時間で単位を取れるような出来が要求される。ごくまれに「これを見て勉強すれば必ず優<sup>かみ</sup>がとれる」というような「神プリ」も存在するが、シケプリの出来はシケ対によってまちまちであり、クラス毎に成績差が激しくなることがしばしばある。シケプリはWeb上でやりとりされ、各クラスで非公式に設置されたページにログインするためのIDとパスワードを交換して多くのシケプリを入手し、良いものを選んで利用することも多い。いずれにせよ、このシケ対制度があるために、それに依存して必修以外の授業に出席しないという態度が見られるのも事実である<sup>12</sup>。

12このような制度がいつから始まったかは定かでない。

なお、教養学部も、数年前から、各学期末に「授業評価アンケート」なるものを実施している。これは、教養学部のほぼすべての講義ごとに、すべての履修者に対して、講義に対する率直な感想<sup>13</sup>を尋ねる大々的な調査である。

13科目の難易度、教え方の巧拙、教員の熱意、週当たりの学生の自習時間など。学生が自由に意見を記述する欄も設けられている。

厳密に言えば、回答者の母集団は「学期の終わりの方の特定の日の講義に出席した学生」ということになり、授業への不満が高いあまり出席を辞めてしまった学生の声は学部へ届きにくい仕組みになっている。これは、紙に回答する形式であることの弱点であろう。UTask-Web（後述）にはアンケート機能があるにも関わらず、不定期・任意回答のものがわずかに実施されるのみで、十分に活用されているとはいいがたい。この調査のために使用される紙の量<sup>14</sup>（及び経費）が膨大なものになることは容易に想像できるのだが、金よりも柔軟性が必要であるということあまり理解されていないのだろうか。

14簡単に言えば、サンプル数は（講義数）×（学生数）ということになる。

### III 履修の手続きと成績の評価

学生は教科の履修にあたり「<sup>ユータスク</sup>UTask-Web」とよばれるオンラインシステムを利用して科目登録を行う。ワンクリックでシラバス（各授業の説明）を参照できる、非常に便利なシステムである。

駒場生にとって最大の関心事である成績評価について言及したい。

履修登録を行った授業に関しては何らかの成績評価が必ず行われる。主題科目は「合格」「不合格」の全か無かの法則をとるので点数がつくことは無く、単位の有無のみが問題である。しかし、基礎科目と総合科目に関してはそう簡単ではない。

評価	原評価	判定
優	80-100	合格
良	65-79	
可	50-64	
不可	0-49	不合格

評価の方法は教官によってもマチマチであり、試験・レポート・出席のいずれかもしくは複数であり、授業での学修達成度が点数化される。

成績の評価は上記の基準により「優」「良」「可」「不可」の4等の評価で行われる。そして、『履修の手引き』には太字で記されているのだが、成績評価については「原則として優を受験者数の3割程度とする」という申し合わせがあり、これが学生を大いに苦しめる。この、通称「優3割規定」があるためにどんなことが起こるのだろうか。

例えば30人の授業で15人が90点以上を叩きだしたとする。この場合、原評価によるとその15人は文句無しの「優」をもらえるはずである。ところが優3割規定がある。15人全員に優をつければ教授会に“始末書”を提出しなければならない。教官は止む無く点数の上位10人に優、残り5人には良をつけることになる。すると悲劇はここからで、良をつけられた5人は原評価90点以上にも拘らず、進学振り分け用の平均点に加算される公式な点数は良評価の最高点である79点となってしまうのだ。

「別に科目の理解度の問題だから点数などどうでも良いではないか」とお思いかもしれない。しかし、駒場生の大半は「点数など」と言い放つことができない。

次節では、進学振り分け制度に言及する中で“点数・単位至上”という状況の根幹に触れてみたい。

## IV 進学振り分け

この「履修の手引き」の最終章で遂に「進学振り分け制度」が登場する。といっても、制度そのもののがかなり複雑であり、この「履修の手引き」の他に2年次に配布される「進学振り分けの手引き」なる冊子が存在することからもその「重さ」は理解できるだろう。可能な限りわかりやすく説明していくつもりである。なお、筆者自身、文科三類という過酷な競争の世界に身を置いており、進学振り分け制度の影響を直に受ける立場にあるため、以下の解説に多少のバイアスがかかっている可能性も否めないが、これも一学生の実感として受け止めていただきたい。

前述の通り、駒場の1, 2年生は文一から理三までの6つの科類に分かれて籍を置いている。そのため入学した時点では後期課程でいずれの学部・学科に進学するかは決まっていない。第3学期の終了時点で、学生の志望と、それまでの学生の学修成績によって、学部・学科等の進学先ごとに定められた人数になるよう学生の進学先を内定させる手続きを、「進学振り分け」と呼ぶのである。東大を志望する高校生に多い考えに「志望の定まらない僕でも進振り制度があれば2年間はいろんなことを勉強して自分の進路を選択し、それから学部を決められる、なんていい制度なんだ！」というものがあり、あながち間違っているとも言えないのだが、そんなに甘いものでもない。

まず第一に進振りは、次に例を示すような、前期課程の科類と後期課程の学部の基本的

対応関係を前提として行われる。学部への進学の方法は2通りあるのだが、そのうちのひとつで、より基本的且つ確実なものがこの「指定科類枠」と呼ばれるものだ。

例 文一⇒法学部，文二⇒経済学部，文三⇒文学部・教育学部 など

つまり、例えば法学部にとっては文一が「指定科類」であり、具体的には定数415名のうち395名を文一から進学させる。では残り20名の枠はどうなっているのか。法学部の指定科類は理科や文二・文三からも若干数あり、理科6名、文二・文三2名分が確保されてはいるが、やはりいかにも少ない。法学部に進学するには、指定科類である文一に行くのが手堅いのである。

さらに残った12名はどうなるのか。これが指定科類枠以外のもうひとつの進学方法、「全科類枠」である。全科類枠は総ての科類に対して開かれた進学枠であり、2008年度より導入された仕組みである。この仕組みのよって学生は基本的対応関係にない科類からも多めに学部へ進学できるようになった。大胆な話で言えば、今年の進振りでの全科類枠を利用し文一から医学部へ進学した学生が存在した。

しかし、基本的対応関係がない科類からの進学は一定のハードルを伴い、進学先の学部が指定する「要求科目」を履修しておく必要がある。要求科目は特に理系学部によく設けられているため理転には骨を折る。例えば、医学部に全科類枠で進学しようと思ったら、理系必修の基礎科目である生命科学を届け出を出して受講しなければならない。そうすると、1年1学期から履修の組み方を一考しておかなくてはならない場合もあり、駒場の教養教育を受ける中で進路選択をするには無理が出てくる場合すらある。他にも、法学部の専門の授業は3学期から開始され、この授業は進振りの要求科目ではないため、必ずしも履修しなければならないわけではないのだが、受講していない場合、3年になってから再度駒場に通い、本郷での専門の授業と平行して受講しなければならない。これらが曲者であり、“進路選択のモラトリアム”としての駒場時代という印象はだいぶ薄くなる。

さらに、点数という問題がある。学生全員が各自の志望した学部に行ければいいのだが、生憎、定員というものが存在するわけで、志望が集中した学部には必然的に競争が生じる。ここで学生を選別する際に用いられるのは、試験でも面接でもなく、それまでの“学修成績”，すなわち1～3学期の履修科目の平均得点のみである。その意味で駒場の学生に対して“高校4年生”という揶揄があるが、言い得て妙である。人気の学部へ進学するために試験勉強に狂奔する姿は、大学受験の悪夢を彷彿とさせる。

点数の計算に関してはやや面倒な方法がとられる。普通、平均点と言えば「全科目の合計得点÷科目数」ではじき出されるのだが、進振り分けの場合はそう簡単ではない。これも近年変更のあったシステムだが、以前は総合科目を規定単位数の16コマ以上履修した場合、平均点に使用する得点は得点の良い順に上から16番目までで、残りは数値に反映されていなかった。そのため、学生は最初多めに履修登録をしておき、点数が望めそうにない科目と判断するや出席をやめてしまう傾向にあった。得点に反映されないのであれば何も怖くはない。ところが、数年前に規則が改定され、履修した科目が16単位を超えると、成績順に16番目までの平均のみをとるのではなく、17番目以降からも比率0.1で成績に反映されるようになった。故に「学期末試験を受験しないまま0点を取ってしまってもいい」と言う考え方はできないのである。

このようにしてはじき出された点数を持ち点として進振りが行われる。反映されるのは3学期末までの成績である。学生は教務課に希望を提出し、夏休み中に成績をもとに振り

分けが行われ、学部・学科が内定してゆく。進振りに臨む学生が参考にできるのは、せいぜい学部学科毎の底点表くらいなものである。

進学振り分けは2段階で行われ、第1段階では定員の約7割が確定される。第1段階で第2段階で何が異なるかといえば、それは振り分けに利用する点数の計算方法である。

第1段階では素直に平均点数が多い順に指定科類枠・全科類枠ごとに予定数内定をだす。第1段階で内定しなかった学生は第2段階へ進み、全科類枠からは素直に点数順にとるのだが、指定科類枠からは「学部・学科で定めた特定の科目を重視した」点数によって進学者を選抜する。

『手引き』を引用すると、

リベラルアーツ教育の理念を生かしながらも、学生の適性にあった進学を可能にすること、学生の志望をなるべく生かそうとすること、一元的な評価尺度による序列化の弊害を少なくすること、一発勝負による投機性を少なくすることなどに配慮した

ということだ。リベラルアーツと専門両者における学生の成績を評価して進振りに反映しようということと共に、点取りゲームとしての要素を除こうという気概は何えるが、試行錯誤の余地はまだまだありそうだ。

そうして振分けが完了し、めでたく進学が内定<sup>15</sup>する。そこをクリアすれば、(後期教養学部生を除いて)いよいよ、“高校4年生”時代を過ごしてきた、時に「遊園地」とさえ形容される駒場キャンパスを卒業し、感慨とともに赤門をくぐり、かの安田講堂を仰ぎ見るわけである。

ここまで読めば、駒場の教養教育の実態をある程度把握していただけたと思う。検討の参考にして欲しい。

15 「内定」というのは4学期の必修授業を落としてしまう可能性を加味した表現である。

## 《必要最低取得単位数》

前期課程で各科類の学生が取得すべき必要最低単位数を以下に示す。

			文科一類	文科二類	文科三類	理科一類	理科二類	理科三類
基礎科目	外国語	既習外国語	10	10	12	10	10	10
		初習外国語	14	14	16	8	8	8
	情報		2	2	2	2	2	2
	身体運動・健康科学実習		2	2	2	2	2	2
	基礎演習		2	2	2	—	—	—
	社会科学		10 <sup>*1</sup>	10 <sup>*2</sup>	4 <sup>*3</sup>	—	—	—
	人文科学		4 <sup>*3</sup>	4 <sup>*3</sup>	4 <sup>*3</sup>	—	—	—
	方法基礎		—	—	4	—	—	—
	基礎実験		—	—	—	4	4	4
	数理科学		—	—	—	12	12	12
	物質科学		—	—	—	10	10	10
	生命科学		—	—	—	2	4	6
総合科目	A 思想・芸術		2 系列以上にわたり 8			2 系列以上にわたり 8		
	B 国際・地域							
	C 社会・制度							
	D 人間・環境		2 系列以上にわたり 8			2 系列以上にわたり 8		
	E 物質・生命							
	F 数理・情報							
主題科目	テーマ講義		2					
	全学自由研究ゼミナール							
	全学体験ゼミナール							
他に取得しなければならない単位数 <sup>*4</sup>			8	8	6	8	6	4
合計			70	70	70	76	76	76

<sup>\*1</sup> 「法 I, 法 II」 4 ないし 「政治 I, 政治 II」 4 を含めて取得する必要がある。

<sup>\*2</sup> 「経済 I, 経済 II, 数学 I, 数学 II」 の中から 4 を含めて取得する必要がある。

<sup>\*3</sup> 2 分野にわたって取得する必要がある。

<sup>\*4</sup> 「基礎科目・総合科目・主題科目の必要最低単位数の他に取得しなければならない単位数」には、他科類の必修科目などの単位を含めることができる（理系学部の要求科目の単位を取得した文科生のみ）。社会科学・人文科学の各科類の最低単位数を超えて単位を取得した場合は、各 4 単位まで含めることができる。

## 2 東大の今，東大生の今

駒場における「瀕死のリベラルアーツ」を考える上で、学生の生の声は外せない。日々銀杏並木を往来する中で、学生はこの前期課程の教養教育をどのように捉えているのだろうか。

今回、私たちは駒場の学生に対してアンケート調査を行い、約 100 名から回答を得た<sup>1</sup>。学生の実感を通じて、教養教育の実像が描き出せることだろう。

なお、さほど一般的でないと思われる語については注釈を付したが、その多くは前章で詳述してあるので、適宜参照してほしい。

以下の 11 問がアンケートの内容である。

<sup>1</sup> 今回のアンケートはゼミ生を通じてその知人へと配布・実施してもらうという方法をとったため、有効回答数が科類間で大きく偏っている。そのため、数値としては「東大生全体の意見」として一般化しにくい。しかし学生の記述回答のひとつひとつは正真正銘学生の生の声であるから、数値よりもそちらに注目して頂きたい。

### 問 1

東大では「教養教育」を掲げ、前期 2 年は教養教育、後期 2 年は専門教育とする特徴的なカリキュラムが組まれています。このカリキュラムの下で、「教養教育」は成功していると思いますか？

### 問 2

東大の教養課程に関して、「ここがダメだ」「ここを変えればもっと良くなるのに」などと感じている不満や要望を教えてください。進学振り分け制度についてや、授業、教官についてなど、とにかく何でも OK です。

### 問 3

「この人は教養がある！」とあなたが思う人は誰ですか。(何人でも書いてください)

### 問 4

教養を身につけるために、大学以外で自ら行っていることはありますか。(例えば、博物館に行く、読書をする、Web ページを活用する、など)

**問 5**

「ためになる」「何かを学べる」という理由で利用している WEB ページはありますか。あれば具体的に挙げてください。

**問 6**

東大で履修した授業の中で、「単位をくれた」「大仏だった」などの評価ではなく、「身になった」「なんらかの教養がついた」と感じたものはありましたか。あれば授業名や教員名を挙げ、その授業の良かった点を書いてください。

**問 7**

逆に、この授業をとったが（成績は別にして）自分の中に何も残らなかったという授業があれば授業名や教員名を挙げ、その授業の良くなかった点を書いてください。

**問 8**

授業に関して、「こんな授業があったら受りたい」という希望があれば書いてください。どんな無茶な希望でも良いので書いてください。

**問 9**

もし自分が東大総長になったら、教育分野においてどのような改革を行いますか。ビジョンがあれば書いてください。

**問 10**

最後に、東大に入って良かったですか。期待していた教育を受けられていると思いますか。お書きください。

**問 11**

その他何かあればご自由にお書きください。

## 回答者数

	文一	文二	文三	理一	理二	理三	その他	不明	総計
1年	7	7	18	11	3	3		2	50
2年		1	24	17			1	1	44
その他					1		1		2
不明				1				2	3
総計	7	8	42	28	4	3	2	5	99

## 問 1

東大では「教養教育」を掲げ、前期2年は教養教育、後期2年は専門教育とする特徴的なカリキュラムが組まれています。このカリキュラムの下で、「教養教育」は成功していると思いますか？

### 成功していると思う

1年/文二 自分の興味にあわせて幅広い分野のことを自由に学べるから。

1年/文三 理系の授業を取れるようにちゃんと組まれている。文系でもついていけるように配慮されている。

2年/文三 自分の専門に関係なくいろいろな分野を学ぶことができ自分としては楽しかったから。

2年/文三 学生本人のやる気さえあれば、多様な学問分野にふれられることになっているから。

1年/理一 様々な分野の最先端の講義を学生に提供することで、モチベーションの高い学生には、いくらでも自分の興味のある学問に触れることができ、自分の進路を探することができるから。

2年/理一 自分が専門としない分野のことが勉強できる。勉強する中で自分が専門としたい分野が見えてくるから。

2年/文三 ある程度、55%くらい。

2年/理一 前半楽だから。

1年/理二 無いよりは良いと思います。

1年/理三 だってずっと専門だったらつまらないじゃん？

2年/文三 少なくとも高卒時点で専門を決められなかったため、東大文三に入った。そして希望とあきらめを持って進振りで専門を決めた。しかし生活に関してはただの高校の延長だと思う。

1年/理一 そもそも、高校を卒業したての18くらいの間が、将来どの分野に言って何をするかを決断するのは難しい。その点最新の知見からの情報を聞きつつ進路をゆっくり考えられる教養の在り方は、悪くはないと思う。

1, 2年以外/理二 理系において研究において視野狭窄に陥らないために教養教育が必要。

2年/理一 文理横断で幅広く学べる教養教育は国内最大規模の総合大学である東大の強みを活かせてると思う。

1年/文三 教養で、将来きつと学べないことで専門では学べないことを学べているから、専門だけでいると、人としての幅が狭くなると思う。

学年不明/所属不明 メニューは豊富だが客が来ないお店状態だと思う。

1, 2年以外/その他の所属 柔軟性があり、十人十色の大学生活が送れる。大学での勉強だけが教養ではないと思う。大学生ともなれば自己責任で良いと思う。

1年/理一 その方がみんな専門課程<sup>2</sup>にはいる前にいろいろなことに興味を持つ時間が与えられるから。

2 後期課程のこと。学部進学後の3, 4年を対象。

### 成功していると思わない

3 東大では主に4学期以降、それまで科類別に定められていた「必修科目」に替わり、進学振り分けによって内定した後期課程の進学先(学部)ごとに分かれた授業を履修することになっている。もちろん総合科目や主題科目も履修できるが、学部によっては3学期から「専門」科目の講義が本格的に始まるなど、時間に余裕がとれなくなるケースも多い。したがって、前期課程は実質的に1年半以下ととらえる方が適切である。

4 試験対策プリント。クラスの中で履修科目を割り振り、担当の科目の試験対策のレジュメを作成する。

5 東大のサークル「時代錯誤社」が発刊する履修参考冊子。単位や点数のとりやすさに特化している。

1年/文一 2年生になると専門科目<sup>3</sup>が始まり、前期2年を教養教育と称している割には感覚的に1年間しかないと感じるから。

1年/文一 教養教育の理念には賛成だが、形式主義すぎてきのうしていない。

1年/文一 皆、教養をつけるぞ！なんて思っていない。

1年/文二 他大学に比べればカリキュラム自体は充実していると思うが、将来専門とする分野意外は専らシケプリ<sup>4</sup>のみというパターンの生徒が多く、成功しているとは言えないと思います。

2年/文二 自分の専門じゃないとやる気があんまでない。

1年/文三 くだらない。うちの親父は教養ではなく休養だとか言ってた。その休養すら文三にはない。

1年/文三 逆評定<sup>5</sup>

1年/文三 自らが好むところの科目を「教養」として学ぶのではなく、「教養」の名の下に、さして興味をもつことができない分野の科目をも履修することを余儀なくされているため。

1年/文三 得られる情報を十分に活用し、設備も十分に活用することができたらきつと教養はつくと思うし、その環境は十分に提供されていると思うために、カリキュラムや大学を批判してはいないが、私を含め、多くの学生がこの環境を活かしきれていないので成功とは呼べないと思う。

1年/文三 教養よりは単位や点数ばかり重要視されている。

1年/文三 教養をつけようと思って勉強している人は少ない。いかに楽しい点をとるかが中心な気がする。

1年/文三 進振り<sup>6</sup>によって高得点をとる、単位を取るということが目的になってしまっていて、教育としての価値が低くなっているように思うから。

1年/文三 進振りを考慮して授業を選ぶため、教養を得ることよりも得点を上げることに重きを置いてる人が多いから。

1年/文三 与えられることに慣れた学生に向学心は無く、モチベーションが制度の持つ気概に追いつけない。

6 進学振り分け制度。科類からの進学の際、学部へ人員を振り分ける制度。

- 1年/文三 みんな進振りの点数ばかり気にしているから。
- 1年/文三 「教養」がバランスよく知識を身につけることだとしたら、それは失敗だと思う。好きな科目を学べる反面、偏りがちだから。
- 2年/文三 自由すぎるから。
- 2年/文三 前半の2年は、行きたい所がある人にとって点数を効率よく稼ぐだけの期間になっており、勿体ない。(色々な授業を取ることで、興味の幅を広めようとする人にはありがたい制度ですが。)
- 2年/文三 ゆとりすぎるから。
- 2年/文三 身につけていないから。
- 2年/文三 1, 2年次にやる気がでないから。
- 2年/文三 前期2年は「教養」と言いつついろんな事を浅く広くやって、結局あまり深い知識に巡り会わないし、進振りの点とかもあって、学生のモチベーションが低いし、教授のモチベーションも低く思える。
- 2年/文三 「幅広い教養を身につける」ということを目指すはずの教養課程だが、実際には進振りの影響で、得点/単位をとりやすい授業をとることになる上、授業内容も(同じ名前の授業でも)バラバラで、体系的に教養を身につけることは極めて困難。(それを自主性に任せているのであるなら別だが)
- 2年/文三 学生に学ぶ気が薄いのでは? 例えば物理や生物を知らずには世界を語れない…ってことにみんな気付いてない、とか。
- 2年/文三 何が教養だったのかわからない。
- 2年/文三 みんな試験前だけシケプリを見て勉強してるだけ。二年間教養教育をやらせるという試みは良いと思うがうまくいってないのでは。
- 2年/文三 教養じゃなくて、進振りのためのテストと化しているでしょう…。
- 2年/文三 教養の授業もそれなりに面白いけど、もっと専門につながる授業を充実させて、専修を選ぶ参考になるような授業を増やしてほしい。
- 2年/文三 もっと早く専門課程の勉強をしたいです。
- 2年/文三 2年じゃ教養が不十分!!
- 2年/文三 文三などは特に点数をとるために楽な授業をとり、テスト前だけ勉強するような勉強方法の人が少なからずいると思う。
- 1年/理一 2年間の教養を身につけたいと思う人がいればそう思わない人もいて、その中間を取った結果が今の基礎・専門科目だと思う。中途半端です。もっと教養教育をしてほしい。
- 理一 そもそも教養教育の目的を知りません。教養って何?
- 2年/理一 自由選択制の教養教育を歌っているにもかかわらず、実状として履修する授業の大半が決定してしまっているから
- 2年/理一 多くの生徒が教養を身につけるという目標を忘れて生活しているから
- 2年/理一 後期課程の負担となる上、他大学に遅れる。皆、進振りの為の点を稼ぐことを優先して、教養を身につける為には授業を選ばないから。
- 2年/理一 教養の間に専門に必要な力がつかない
- 2年/理一 「コマバはユーエンチ」。この一言が全てを表している
- 1年/理二 前期2年が教養課程といっても実際進振りのために2年の後期はほぼ専門の内容でしかも1年の間に異常な詰め込み教育(必修のコマ数的に)がされているため、授

業で学んだことが定着しない。2年になると一転して必修のコマ数が少なすぎるので、1, 2年での授業の配分を考えなおすべきだと思う。

2年/その他の所属 高校3年間を教養教育, 大学4年間で専門教育にすべき。教育カリキュラムに関しては戦前のものでよいと思う。

2年/所属不明 専門的なことがやりたくてくるのに2年も好きではない科目をやれと言われれば、不登校になります。

1年/所属不明 学生が「教養教育」の必要性を感じていないから。また、教員の中に教える気がないと感じられる人がいる。公式の授業評価が公開されていないことが原因の一つだと思う。

1年/理一 個人差はあるものの、得点を学生が意識しすぎているから

集計の中での思いつきで、この「教養教育に関する」アンケートの中で「進振り」について言及しているものをカウントしてみた。全体のうち50%, すなわち学生の回答の2枚に1枚が進振りに触れ、そのうち92%が否定的な評価を下していた。教養教育という文脈においてこれだけの数値が出ることから、両者の関係は無視できない。

## 問 2

東大の教養課程に関して、「ここがダメだ」「ここを変えればもっと良くなるのに」などと感じている不満や要望を教えてください。進学振り分け制度についてや、授業、教官についてなど、とにかく何でも OK です。

### 進振りに関して

2年/文三 シケプリ制度と逆評定（を見て授業を決める）は東大が誇る悪しき風習。

2年/文三 入学時点で専修過程まで決めておいて教養教育を行うというのはどうなのでしょう？

2年/文三 進振りはいいいシステムだが、点数による順位付けはなくすべき。全員行きたい学科に行けばよい。（要求科目は仕方ないけど）出席取るとか愚の骨頂・本末転倒

1年/文一 2年生の冬学期（学部によっては夏学期）から専門科目が始まり、教養課程が実質的には行われないこと。／新不利で自分の希望の学部・学科に進むため、点数が取りやすいとされる授業を、興味があるわけでもないのにただ点数を取るために受ける人がいること。

2年/文三 科目が多岐に分かれ過ぎていて点数の付け方も曖昧。進振りが多少不公平なところ。

学年不明/所属不明 進振りのための勉強量、プレッシャーなどが科類間で差があると思う。

1年/文三 進学振り分けは結局、点数主義。だから、点数を過剰に意識している人が多いのは、せつかくの大学生活を無駄にしている気がする。大学は今までの「テスト何点だった？」とかいうのは必要ない。教員はもっとやる気を持ってほしい。せつかく授業をとっている生徒がいるのだからきちんとやるべき。

1年/文二 進振りの廃止または点数基準を下げる。「教養」という目標に対して、点数で進路が決まる結果は矛盾している。

1年/文三 進振り制度のひずみを感じる。東大は学生に熱意と能力の両方を求めているからいけない。だから学生が単位や点数を気にして上手に生きるようになってしまう。逆評<sup>7</sup>とか。そのスタンスは否定しないが、もっと学ぶ意欲をうまく活かすようにカリキュラムとか、進振りを考えてほしい。

1年/文三 進振りいらない。英Iいらない。英語授業多いけどいらない。やるなら会話やれ。

1年/文三 学生を競争の中にぶち込むことで、必然的に「学ぼう」という自発的な意志を失わせ、点数稼ぎ合戦や逆評定といった問題が生じてしまう。教科書をなぞるだけの授業は時間を取るだけ。「情報」<sup>8</sup>という科目の無駄な専門色の強さにやる気を失う。必修科目による縛りが大きすぎる。教員は進振りという縛りさえ無ければ、優をだしまくり、いくらでもおもしろい授業をしてやるのに、と思ってそう。学生は諦め過ぎ。探して自分から動けば面白い授業はたくさんある。

7 『逆評定』のこと。

8 文系・理系とも1学期に必修の授業。情報の人間のおよび社会的な側面の正しい理解を目指す。

1年/文三 進振り廃止（前期は意味なし）、募集人員の削減、募集方法の変更（根本的な身につけるべき知識や教養が欠落している人間が多い。小論文を課すべき。英語しかできないやつを排除すべき）

2年/文三 もっと学生が発言するようなディスカッションなどを重視した少人数教育を増やすべき。進振りのテスト本位の授業はやめるべし。

2年/文三 進振りのために、点数を上げるために特に興味のない大仏おおほとけの授業をとったりしたけど、無意味だなあと思った。進振り制度を改善して、こういう授業の取り方をする人が減ったらいいと思います。

2年/文三 座学だけなら他大のような般教で十分かと。進振りはどちらかということあまりいい制度と思わない。例えば、医学にしても建築にしても他の大学では一年生からバリバリやってるわけで、一年半ユウをかましてるのはある意味東大のおごりだと思う。昔はうまく機能していたのだろうが、今は進振りはただの点取り合戦に近い。

2年/理一 教授によって採点法が違うのに点数だけで進振りは気に入らない

2年/理一 進振りなくしてほしい。行きたい学科に行けるように。

2年/理一 優三割キテイ<sup>9</sup> 反対！

1年/文三 自分の不注意から来たミスだが、受験生に対してどのような進学振り分け先があるか、どの科類からどの進学先に行きやすいのかをわかりやすく提示してほしい。

<sup>9</sup> 優三割規定。「原則として『優』の成績を受験者数の3割程度に与える」という教員間の申し合わせ。

### 教員に関して

<sup>10</sup> 授業評価アンケート。学期末に実施される授業評価のアンケート。

1年/所属不明 授業アンケート<sup>10</sup> を行っているのに、その結果を学生側が見ることができない。講義内容が一方的なものが多い。教員にやる気が感じられない場合がある。

2年/文三 あまりにやる気のない教員が散見される。一昔前に比べればこれでもまともになったようだが、教員の授業の質が進路選択をも左右しかねない責任をもっと自覚していただきたい。

1年/理一 教員が適当。みんなが勉強せずに、点数を取るためのテクニックだけを身につけている。

1年/文三 文系生でもわかりやすいように、理科系の科目の講義をしてほしい。興味があってもついていけないかな、とためらってしまうので。

2年/文三 なんかお互い（教員と生徒が）「授業」をする形式をとっているだけな感じが多い。熱心な教員もいるけど。

### 授業・カリキュラムに関して

2年/文三 割と難しいレベルの話をした方が学生はちゃんと聞くと思う。レベルを落とした授業が多い。

2年/理一（理系の）必修は、授業がつまらない率が高い。先生とのつながりが非常に弱い。（一部のゼミを除く）

2年/理一 数学、物理などの理系科目に関する授業。一方通行な講義で生徒が取り残される。教員も「わかる人だけわかれば良い」という態度。（そのおかげで理学部進学を断念

したのは正解でしたが。)

2年/理一 英 I<sup>11</sup> が無駄だと思う。英語の授業はもっと少人数でやらないと、本を読むだけで終わってしまい、対話やスピーチなどの実際に必要な英語のスキルが身に着かないと思う。

2年/理一 ABCDEF 系列<sup>12</sup> で二分してあるのを廃止しても良いのではないかと思います。

1年/理三 必修<sup>13</sup> がもっとフレキシブルに組めれば一のにね。

1年/文一 必修科目のためにとれない総合科目が存在するのはおかしいと感じる。

文 III 無理矢理いろんな科目をやらせるのはよくない。いろんな科目をとっていいような形にすべき。強制させるのはよくない。

2年/理一 必修科目があまりに多い。数英で4コマあれば十分。自由度を高め、広範な知識を。研究や論文制作を教える講座が必要。板書と net しか知らない学生に教養があるとは思えない。

1年/文二 第二外国語にかける時間が長過ぎるのではないかと思います。さわりだけで良いので、もっと他の言語や他分野の科目に時間をかけたいです

1, 2年以外/理二 必修を削減して、進学振り分けを専門カリキュラムの体験版的な講義の成績順に行えばよい。専攻とのミスマッチを防げる。

1年/文一 授業を受けるより、教科書を読んだ方が遥かに速い授業がある。大学生にもなればある程度の独学力がついていると思うので、それを前提に入れたカリキュラム構成があつていいと思う。

理一 授業数を増やしてもっとじっくり取り組める授業があつても良いと思う。1年/理一本当に教養, リベラルアーツならば、もっと自由に科目を取りたい。また、人気(?)科目が同じ時限にかたまりすぎていたり基礎科目のせいでとれない科目があるのが残念。

2年/文三 進学振り分け制度が無ければもっといろいろとれるのになあ。

1年/理一 1年生のうちに取らなければならない単位が多すぎる。また、勉強(予習や提出物)を無駄に多く強要する授業が一つでもあると、残りの勉強, 自分の学びたい勉強や活動を割かなければならなくなる。これでは有意義な学生生活とは言えない!

## その他のこと

2年/理一 教員のやる気がない。それ以上に生徒のやる気がない。人多すぎ。教員に教えようという気がない。教員とのキョリがある。シケプリ充実しすぎ。出欠を取らない。

1年/理一 語学留学の機会をもっと提供して欲しい。また、その情報を、英 I, 英 II<sup>14</sup>, 第二外国語等の授業で学生に流して欲しい。

2年/文三 高校の延長的なところ。人が多い。

1年/文二 科類を超えて総合科目の授業を受けられるのは刺激があつてよい反面、前提とされている知識の範囲に問題があると思う。

1年/文三 「教養」として或る一分野(例えば文学)を深く学ばせてください。

1年/理二 いずれは英語で論文, 議論をすることになるので理系科目をすべて英語でやってほしい

1年/理一 進振りの際, 不可の教科も平均点に加算するのは不満。本来教養は, 自分の

11 英語一列。全科類必修の授業。教科書や視聴覚設備を駆使して行われる。

12 総合科目の6つの系列分け。

13 基礎科目。単位を落とすと進級・進学に不都合を生じる。

14 英語の必修授業の一つ。主に会話・プレゼン能力を鍛える

興味を広げていくための期間であるため、「授業をとったからには結果を残さなくてはならない」今の制度とは矛盾すると思う。／一部の授業、教員については、生徒の能力をはかり損ねているので内容が身につかない。／一部の教員については、明らかに指導力（能力）不足／特に必修科目については、進度が遅い／テストやレポートなどの情報がほぼ開示されていないので、自分に関する情報はできるだけ明らかにしてほしい。

1年／文三 教科書が高い。次の授業がある人も多いから終了時間だけはしっかり守ってほしい。

1年／文一 形式主義反対！ 大学解体！ もっと自由にしろ！ 京都大学を見習え！

2年／その他の所属 遊ぶ暇すらないほど厳しくしてほしい（全体的に）。私語の多い生徒は追い出してほしい

2年／文三 英一が中高みたいなの。暗記というか…。教養が単位と点数になってます。皆教養ではなく受験勉強してます。生徒同士でなかなか深い話ができない。先生方、interestingな授業をもっとお願いします。

2年／文三 進振り制度と、リベラルアーツは別なものだと思います。進振り制度を改革してもリベラルアーツではなくなるという事は無いと思う。

2年／文三 「授業に出なくていい」という先生が少ない。全寮制じゃない。教員の趣味でやるような授業が少ない。進振りは希望で全員行けるよーに。

1年／理一 進振りや専攻を考える上で、各教員が好き勝手に自分の専門を熱く語ってほしい。

1年／理一 そもそも教養教育の意義を在学中に感じる事ができない。ただ好奇心を満たすだけでは教養にならないの？

### 問3

「この人は教養がある！」とあなたが思う人は誰ですか。（何人でも書いてください）

以下、回答の多い順に示した。（敬称略・原文ママ）

**[17票]** 立花隆<sup>15</sup> **[6票]** 太田光 **[4票]** 姜尚中 **[3票]** 宮台真司、伊熊幹雄、松岡正剛 **[2票]** 押井守、蓮實重彦、パパ（父）、内田隆三、遠藤秀紀、船曳健夫、高橋直樹、佐々真一、清水明、表三郎、北野武、茂木健一郎、廣松毅 **[1票]** Noam Chomsky、土田（u-turn）、中沢新一、小宮山総長、ゼミを開いてる先生、石破大臣、キャスターの小倉、橋本教員、三田宗助、二木哲孝、Amy Goodman、マーク・ユンゲルスマイヤー、ロバート・キャンベル、井上真、社会の市野川、英語の安西、タモリ、横山雅彦、加藤周一、加藤千洋、清水剛、宮崎哲弥、長谷部恭男、佐伯啓思、島田紳介、高松洋一、些細なことを学問につなげられる人、自分、小松清美、英一の授業を担当している英米文学の教授、辛坊次郎、桑田圭祐、石浦章一、桜井先生、川人博、内田樹、川端康成、全教員、霜栄、大島保彦、村田純一、大岸良恵、大江博、田崎晴明、小松美彦、湯川秀樹、池内了、藤原正彦、鈴木孝夫、夏目漱石、中島敦、福沢諭吉、樋口一葉、野口英世、石原慎太郎、麻生太郎、河合隼雄、木の実ナナ、マイケル富岡、さかなくん、田岡、朝倉、斉藤隆、与謝野、皇族、蔭山宏、原島博、平木敬、偉い教授、養老孟司、竹内薫、小田実

15 立花隆が17票と独走しているが、アンケートの回答用紙に、調査団体として「立花隆ゼミナール」と明記していたことなどから、このような結果になったのではないかと思う。

## 問 4

教養を身につけるために、大学以外で自ら行っていることはありますか。(例えば、博物館に行く、読書をする、Web ページを活用する、など)

### 読書

——回答者の約 75% が読書を挙げていた。「教養」と「読書」の結びつきを感じる。

- 1 年/文二 様々な分野の本を読むよう心がけている。
- 1 年/文三 教養とは本から得るものである。
- 2 年/文三 新書購読
- 1 年/文三 図書館でエスペラントについてかかれた書物を読む。
- 1 年/文三 只管読書をする。
- 2 年/文三 地元の図書館に通ってマス。

### Web 関連

- 1 年/理一 WEB で調べることは良くあるが、「教養を身につける」と言ったかたい気持ちはない。知的好奇心を満たす程度で。読書も同様。
- 1 年/文一 wikipedia google まわり
- 2 年/理一 NET サーフィン/Wiki めぐり

### テレビ

- 1 年/文一 朝ニュースは見るようにしている。
- 1 年/理一 TV の科学番組
- 2 年/文三 テレビ (うまく活用すれば)
- 1 年/文三 民放のニュース番組から NHK に変えた。
- 2 年/理一 ニュースを掘り下げる
- 2 年/理一 世界の TV ニュース

### その他

- 1 年/理一 「大学以外で」が「授業以外で」を指すならアルバイト、部活動
- 1 年/理三 あまりない (博物館に行くことや読書はするが、「教養のため」と言うわけではない)

- 2年/理一 いろんな人と話す。OBとか大学外の人とか。  
 1年/文三 シブヤ大学  
 2年/文三 ゼミを開く, 卒業生に話を聞きに行く。  
 2年/理一 テレビやWEB, 書物等の情報媒体に積極的に接している。  
 2年/文三 興味ある先生には突撃取材。WEBでもやっています。  
 2年/文三 思いついたら動くようにしている。  
 1, 2年以外/理二 自由なゼミ活動  
 1年/文三 当たり前のことだが, 興味のある話題, よく取り上げられる問題については調べている。  
 2年/文三 特にないけど人の話は真剣に聞く!  
 2年/文三 独学で政治学・経済学などを学ぶ。読書をする。  
 学年不明/所属不明 セミナー会  
 2年/理一 ネットサーフィン サークル 旅行 バイト 映画 テレビ  
 1年/文一 現場  
 1年/所属不明 美術館へ行く サークル活動で社会人に話を聞く。  
 2年/理一 友人に他大学の授業の話を聞く  
 2年/理一 専門の違う友人と話す  
 1年/理三 コンサートにも行くよ。  
 2年/文三 講演会とか  
 2年/所属不明 旅行をする  
 学年不明/文三 新聞(朝日新聞に連載していた加藤周一の「夕陽妄語」は面白かった)。  
 1年/理一 美術館へ行く, 芝居・映画を見る, 父やその友人に話を聞く

## 問5

「ためになる」「何かを学べる」という理由で利用しているWEBページはありますか。あれば具体的に挙げてください。

回答の全体として, Wikipedia と Google は多数挙げられた。他に複数挙げられたものは mixi や動画系サイト (youtube やニコニコ動画) などがある。以下はその他の意見である。

- 2年/文三 ファショコン通信  
 2年/理一 2ch  
 2年/理一 ニュース系  
 2年/文二 きっこのブログ  
 2年/文三 内田樹の Blog, Socius  
 2年/文三 千夜千冊  
 1年/文二 Economist  
 2年/理一 R25  
 2年/文三 ADPF

- 2年/文三 さらに怪しい人名事典  
 2年/理一 担当教員の研究室  
 2年/その他の所属 アンチ・バベルの塔  
 1年/理一 WIRED VISION  
 2年/文三 カカク.com  
 1年/文三 ほぼ日刊イトイ新聞, JanJan (市民の市民による市民のためのメディア)  
 2年/理一 「ためになる」から見るというより、見てから「ためになった」方が多いですが。Yahoo!ニュースとかニュースにリンクされてるページとか。  
 1年/理二 Reuters  
 1年/文三 無し。インターネットの言論は総て虚偽だと考えている。  
 1年/文三 そのテーマによって活用できる WEB ページは異なると思う。  
 1年/理二 最新の生物の知見を得るために東大の CSLS を利用している。  
 1年/理一 MSN や Yahoo!の質問箱, Wikipedia, その他各種研究室のページなどは、レポートや学習の際によく利用する。ただ、論理的に破綻した説明やでたらめな情報も多いので、その後自分で検証するようにはしている。

## 問 6

東大で履修した授業の中で、「単位をくれた」「大仏だった」などの評価ではなく、「身になった」「なんらかの教養がついた」と感じたものはありましたか。あれば授業名や教員名を挙げ、その授業の良かった点を書いてください。

【以下、教員名は敬称略、コメントは原文ママ】

- ・ALESS (Robinson Peter) 「若干難易度設定が高すぎた気もするが、くらいつけば得るものが大きい」
- ・ジェンダー論 (瀬知山) 「面白かった。自分に無い観点だった」
- ・スペイン語一列 (石橋純) 「第二外国語であるスペイン語をわかりやすく教えてくださり、その他の教養となる話もして下さったから」
- ・テキスト分析 (方法基礎) (小森陽一)
- ・ドイツ語 (教員名回答なし)
- ・トルコ語 (高松洋一)
- ・トレーニング科学実習 (身体運動科学研究科のオムニバス) 「東大の身体研がやっているスポーツサイエンスに触れられてとても面白かった運動部員はぜひ受けるべき」
- ・バルカン史 (教員名回答なし) 「純粋に面白い授業だった自分にとって縁のうすい土地でもわが国と同じ (似た) ような歴史があったことに感銘を受けた」
- ・フランス文学のエチュード (オムニバス)
- ・フラ語演習 (中級?) (杉山) 「杉山先生はフランスのこととかいろいろ話してくれてよかった」
- ・フィリピン人 (中西徹)

- ・英Ⅱ〈井上健〉「口語なども含めながら生活で役に立つ英語を中心に扱い、英語以外の一般常識や雑学などでの周辺知識も教えてくれた」
- ・英語Ⅰ〈秀樹〉
- ・中級英語 LS〈クウォック〉「Introductin to Western Humor」
- ・英語二列〈教員名回答なし〉
- ・英語二列〈斉藤兆史〉「英語に対する考え方が変わった」
- ・演劇論〈内野儀〉
- ・化学史〈小松美彦〉「とにかくすごい」
- ・科学史〈小松〉「一つの物事を多くの切り口から考えられるようになった」「他人のために真剣に問題に当たる心構えが良かった」
- ・学術俯瞰〈教員名回答なし〉「学術俯瞰は何となく実践的だと思う」
- ・韓国朝鮮語初級〈根元理恵〉「進度がちょうど良く、無理無く学習できて、身になった」
- ・基礎演習〈廣松毅〉
- ・基礎演習〈教員名回答なし〉「自分で考え調べてまとめるところ」「好きなテーマを調べる自発性が問われててよかった頭を整理できた」「基礎統計や人間行動論は興味を持てた」
- ・記号論理学〈野矢茂樹〉「表面的な知識や技術だけでなく根本的な問題点を扱った」
- ・教育原理Ⅰ〈山名〉「ビデオ教材を駆使しながら面白く、かつ考えさせられる授業が毎回展開されていた」
- ・教育臨床心理学〈前田基成〉「自分や友人の行動の背景にある心理が分かって面白かった」
- ・近現代史〈伊熊幹雄〉「現役ジャーナリストのジャーナリズム、世界情勢がわかった」「普段見る機会が少ない海外ドキュメンタリーを多く見ることができたから」「国際ニュース理解に役立った」「映像を見せてくれるので、文字だけでは伝わらないものを学べた」「映像が豊富で面白かった」
- ・現代教育論〈那須〉「ビデオなども活用し、体験談などを混ぜ、教えている内容を教授自身も興味がある感じが」
- ・現代国際社会論〈平野克己〉「高校の授業の延長でなくてよかった」
- ・現代史Ⅰ〈伊熊幹雄〉「国際関係や外交に興味をもつようになれた」
- ・現代生命科学〈石浦〉
- ・現代生命科学Ⅰ（文科生）〈石浦〉
- ・江戸文学に関する授業〈ロバート・キャンベル〉
- ・高山博ゼミナール〈教員名回答なし〉
- ・国際関係史〈川島真〉「国際関係や外交に興味をもつようになれた」
- ・国際関係論〈大江博〉「国際情勢を現実的に理解できたから」「国際関係や外交に興味をもつようになれた」「外交の臨場感と倫理を感じた」「外交について深く理解できた」
- ・国際政治と国際報道〈教員名回答なし〉
- ・資本論〈教員名回答なし〉「理系の人間が文系の教科を勉強できたので」
- ・自分が興味を持ったものすべて〈教員名回答なし〉
- ・社会Ⅰ〈市野川〉「社会学の基礎から分かりやすく、かつある程度体系的に学べた」

- ・ 社会思想史〈柴田寿子〉
- ・ 情報〈丹波〉「専門的な技術でなく、利用の仕方を教わりました」
- ・ 情報メディア伝達論〈姜尚中〉「全く知らなかったグローバル化の一面について知れた」「先生がひたすらグローバリゼーションについて語りかける」
- ・ 心理〈教員名回答なし〉
- ・ 心理 I 〈村上先生〉「わかりやすいし楽しい」
- ・ 人と木の共生〈教員名回答なし〉「様々な先生が自分の研究の最前線の話をして下さった」
- ・ 人間行動基礎論〈教員名回答なし〉「内容が面白かった（心理学）」
- ・ 人間行動論〈教員名回答なし〉「基礎統計や人間行動論は興味を持てた」
- ・ 数 II 〈町田〉「工学で重要なベクトルの概念に触れた」
- ・ 数学 I 〈白石潤一〉「単純に教えるのが上手かったので苦手な数学も興味を持って学べた自分の独立では数学の面白さに気付かなかった」
- ・ 数学 IA 〈斎藤〉「数学 IA らしく厳密な議論を行い、今まで感覚に頼っていた部分を論証するのが面白かった」
- ・ 数理・情報一般〈坪井俊〉「力学と数学の関連を多く学べた」
- ・ 政治 I 〈高橋直樹〉
- ・ 生命倫理〈小松美彦〉
- ・ 全学ゼミ医学に接する〈教員名回答なし〉
- ・ 全学体験ゼミ『森に学ぶ』〈教員名回答なし〉「自然の大切さを学んだ」
- ・ 相関社会学〈教員名回答なし〉「様々な先生が自分の研究の最前線の話をして下さった」
- ・ 地球温暖化と経済学（ゼミ）〈山口〉「地球温暖化について詳しく学べた」
- ・ 地球環境論〈丸山（NEDO 所属）〉「エネルギーに関して最新の、グローバルな状況が分かりました」「理想と現実のバランスが良い授業だった」
- ・ 中級英語〈教員名回答なし〉
- ・ 超高速ロボットゼミ〈石川先生〉
- ・ 庭に関するゼミ〈安西〉「こういうことが大学に入ってしまった」
- ・ 哲学 II 〈植村恒一郎〉「面白かった。自分に無い観点だった」
- ・ 日本語テキスト分析〈品田悦一〉「一貫した主張のある体系的な授業だったので（古今和歌集の国家による利用を扱いました）」
- ・ 日本国憲法〈渋谷〉「日本国憲法について体系的に学べた」
- ・ 日本文化〈船曳建夫〉
- ・ 認知脳科学〈村上郁也〉「目の錯覚について、実例を意識しながら授業を受けられた」「わかりやすいし楽しい」
- ・ 熱力学〈佐々〉「物理に必要な緻密な論理構造とか気構えが少し分かった」
- ・ 脳の構造・機能と疾患〈教員名回答なし〉
- ・ 農学の挑戦〈教員名回答なし〉「様々な先生が自分の研究の最前線の話をして下さった」
- ・ 比較社会論（消費社会）〈間々田（上智からの講師？）〉「内容が具体的で現実に落とし込んで考えやすかった」
- ・ 美術論〈三浦〉

- ・美術論〈小林康夫〉「思想が生まれる場に立ち会えた」
- ・物質生命一般〈森〉
- ・物理最前線〈オムニバス〉「量子力学がどのように応用されているかがほんの少し分かった」
- ・法と社会〈岩田太〉「医療の抱える諸問題、特に医療訴訟について深く学び、多くの視点を持つことが出来た」
- ・法と社会と人権ゼミ〈教員名回答なし〉「実際に社会で活躍している人達の話やフィールドワークは参考になった」
- ・立花隆ゼミナール「大人と話すのはためになる」
- ・量子論〈米谷一〉
- ・力学〈風間〉「授業が楽しかった」
- ・歴史Ⅰ〈桜井英治〉「一貫した主張のある体系的な授業だったので（室町の社会制度の意味を扱ってました）」
- ・歴史Ⅱ〈桜井〉「室町時代（義満～義教）について面白い小ネタを披露してくださって興味深かった」
- ・惑星地球科学Ⅱ〈磯崎〉「地球温暖化の反対意見を紹介していた」
- ・科目名回答なし〈コリンズ〉「英語でのプレゼンに慣れた」
- ・科目名回答なし〈石浦章一〉
- ・科目名回答なし〈野崎歓〉
- ・科目名回答なし〈パジェス〉
- ・科目名回答なし〈荒井先生（地理学科）〉「フィールドワークの大切さを教えてくれた」
- ・科目名回答なし〈小松美彦〉「興味深い授業だった（テレビを見たり）」
- ・科目名回答なし〈瀬知山角〉

## 問7

逆に、この授業をとったが（成績は別にして）自分の中に何も残らなかったという授業があれば授業名や教員名を挙げ、その授業の良くなかった点を書いてください。

- ・「挙げにくい。ただ、文系に理系の単位をあげるためだけのような授業は確かに多かった。大学生になってやる事かは疑問。」
- ・「全てそれなりには為になっている気がするが、逆に言えばどの授業も何も身につけていない」
- ・〈大江博〉
- ・「900番<sup>16</sup>でやる授業（全部とはいわないが）」
- ・オムニバス講義<sup>17</sup>全般
- ・「ぜんぶ」
- ・テーマ講義〈加藤道夫〉「内容が専門的すぎてわからなかった」
- ・テーマ講義（歴史Ⅰ）〈並木頼寿〉「授業内容に面白みを感じられず、出席すること

<sup>16</sup>900番教室（講堂）。大教室で準必修などの大人数の講義が行われる。

<sup>17</sup>各回毎にテーマや教員を変えて行う講義。主題科目の中に多い。

が目的になっただけだった」

- ・ ベトナム語初級「自分に語学の適性が無かっただけ」
- ・ ほとんど
- ・ 英 I 「教員のやる気が無くて生徒に伝えようとするものが感じられなかった」「大教室で一方的な講義で、授業内容は自分で学習できるものだった。授業をする意味が分からなかった」「授業の意味がなかった上に、テストの必要性がなかった」「大人数のため」「なにも身につかない」「解説などが全くない、授業に出る必要性が感じられない」
- ・ 英 II 〈堀越〉
- ・ 英 I (English Only) 「教員が日本人で英語がへたくそだった」
- ・ 英語関係
- ・ 科学哲学「なんだか『ふーん』で終わってしまった」
- ・ 科学哲学〈信原〉「内容に関心が持てなかった」
- ・ 学術俯瞰「睡眠学習に費やした人、80%」
- ・ 基礎現代科学 「大人数のため」
- ・ 基礎統計「全く出てないから」
- ・ 現代教育論「出席する意味なし」
- ・ 現代生命科学 II 〈渡辺雄一郎〉「話がまとまっていなくて、ためになるものが無かった」「どのような授業か記憶に残っていない」「授業内容が断片的すぎて何が講義の目的なのかよくわからなかった」
- ・ 現代哲学「先生の自己満」
- ・ 構造化学（教授名失念）「板書してその文字を黒板に語りかけるだけの授業。本職が研究であるとはいえ、もう少し生徒側に視線を向けても…」
- ・ 構造化学〈橋本健郎〉「単位の為に取ったので何も覚えていない。化学者になりたい学生のことしか考えていなかった。教養を専門の準備だと思っているようだった」
- ・ 国コミの英語〈見上先生〉「ただ映画見るだけ。特に英語の勉強にもならず」
- ・ 思想・芸術一般〈高橋孝信〉「インドに興味がない」
- ・ 社会 I 「欧米の学者や学説を概観するのみでした」
- ・ 社会制度一般 「教科書の式を写して終わった。人数が多かったので指導が行き渡っていなかった」
- ・ 情報 「意味不明かつ非実用的。情報社会の現実には即した授業とは決して言えない」「無駄に専門色が強く、必修たる必要性を感じない「youtube を見ていたから」「なにも身につかない」「自分をふくめ、誰も授業を聴いていなかった」
- ・ 情報〈開一夫〉「全くパソコンのスキルがあがらなかった」
- ・ 情報〈関〉「何をやってるのかよくわからない 興味がわからない」
- ・ 情報〈中村政隆先生〉「本当に何も残らなかった。教科書にケチを付けてましたが、そもそも何を伝えたかったの？」
- ・ 人間行動基礎論〈今井久登〉「授業の内容に一貫性が無く、何を伝えたいのかいまいよくわからなかった」
- ・ 数学 IB 「教員が教え間違い過ぎ」
- ・ 数学 II 〈高山茂晴〉「ただ教科書とほぼ同じ内容をひたすら黒板にブツブツ言いながら書いていくだけ」

- ・「超高速ロボットゼミ (石川先生) の他全て」
- ・哲学I「行ってない」
- ・統計学「大人数のため」
- ・「日本史以外のほとんどの授業」
- ・熱化学〈清水アキラ〉「教科書通りの説明しか無く、『授業でなくていい』とまで言われた」
- ・「必修」
- ・文化人類学〈山下〉
- ・法I (夏学期)
- ・理系の必修科目「『教える』というよりは『紹介する』授業だった」
- ・理系基礎科目「一方通行な講義で生徒が取り残される。教員も『わかる人だけわかれば良い』という態度。(そのおかげで理学部進学を断念したのは正解でしたが。)」
- ・「立花隆ゼミナール・高山博ゼミナール・小松美彦・瀬知山角以外のほとんど」
- ・力学〈森松〉「本に書いてあることを写すだけの授業は無意味。真剣にやろうと思っている分野でだらだらした授業をされると非常に腹が立つ」
- ・歴史I「自分の本を読み上げるだけということがあった。もちろん本を読むことで教養はつくだろうけど、『授業』として成り立たせる意味が無い」「う〜んという感じ。本(教科書)のほうがおもしろかった」
- ・歴史I〈山内昌之〉「アラビア語ばっか書いていてわからなかった」「半ば単位を盾にとつてくだらないシンポジウムへの参加を強制し、当日やる気の無い学生聴衆の前に『やる気のある学生で大入り』と言う始末」
- ・物理科学I〈和田純夫〉「扱ってる範囲が広すぎ。さっぱりわからなかった。(私が理解できなかっただけかも)」

## 問 8

授業に関して、「こんな授業があったら受けない」という希望があれば書いてください。どんな無茶な希望でも良いので書いてください。

## 少人数

1年/理一 教授が自分達の名前を覚えてくれる位の少人数の授業があれば良いと思う。  
2年/文三 少人数プレゼン形式のもの、ディスカッション。

## 自分で研究

2年/理一 好きなことを研究する

2年/理一 授業をする授業。自分が教える側に立つ。ゼミではなくて、講義主題も自分で選ぶ。

1年/文三 基礎演習の延長で、東大生がどんなことを考えているのかわかるような各人の自発性に任せた研究発表型の授業。

## 講義する側

1年/理一 企業の人などが行う授業があれば興味がある。

2年/理一 小宮山都市史

2年/文二 有名人のリレー講演会

1年/文一 様々な分野の最先端で活動している方や、他の大学の先生に講演ではなく、実際に授業を担当してもらおう。

1年/文一 現役国会議員の講義があれば受けたい。

1年/理一 作家の人を招いて講義させる現代文学論。ものづくりをもっとふやせー！！

## フィールドワーク

2年/文三 全部フィールドワーク（ドヤ街体験，NPO体験+学問）／大岸（梅壇ゼミ）  
みたいな

2年/文三 旅費全額支給の集中講座（できれば海外）

2年/理一 ヨーロッパの建築物見学

1年/文三 フィールドワークをもっとしたい。

1年/文三 中央官庁や新聞社の見学

2年/文三 とにかく教室の外に出る授業を増やすべき。座学は高校までで十分。例えば「鉄道日本一周」なんかでもいい。地方分権とかそういう事を考えるきっかけにはなるかもしれない。例えば，だが。

2年/理一 フランスに研修にいけるフランス語の授業。

1年/理一 アウトドア体験。キャンプ／ヘラブナ釣り

## 授業内容

2年/理一 戦術史。古代，起因代の詳細な戦略とその結果から，理想的な用兵術を考察する。

2年/文三 漫画史概論

1年/文三 彼女の作り方講座

- 1年/文三 歌舞伎に関する講座。学者や歌舞伎役者を招いて授業を実施してほしい。
- 2年/文三 モードに関するもの。業界とか、変遷とか、メディアとの関わりとか。
- 2年/理一 古武道を科学する経済学入門
- 1年/文三 障害学/野菜を育てる
- 2年/理一 最新の研究紹介や、実験現場を実際にいけるような授業など。
- 2年/文三 1対1の英会話
- 2年/理一 外国人教師と1対1の英会話授業
- 1年/文一 政治思想系で濃いもの
- 1年/文一 ビジネススクールみたいなやつ。
- 1年/理三 THE 何でも実験。どれつかってもどの実験でもいいよーってやつ。
- 1年/文三 恋愛論
- 2年/理一 エスペラント（第三外国語）
- 2年/文三 純粹に古文を講読する授業がほしいです。
- 1年/文三 家庭科的なもの。
- 2年/理一 女の心理/お笑い
- 2年/所属不明 漫画を描く授業/武将の超オタク授業/美術の授業
- 1年/文三 ノードモデル呼んで鑑賞会する美術論
- 1年/理一 哲学というか、「人間とは何か？」を科学的にとらえるが、小難しくなく、教官にユーモアのある授業。

### 全般

- 1年/理一 では無茶な希望を。自分の現在の能力に完璧に則し、将来的にも有益と思われる授業。一流の物理学者としての素質を徹底的に身につけ、将来ひとり立ちするための布石となる授業。
- 1年/文一 90分寝ずに受けられるほど面白い授業。
- 1年/文三 出席なし、期末に出るだけで優くれる授業。
- 2年/文三 とりあえず大教室の講義は何も残らない傾向が強い気がするので、すべて小教室で良いです。
- 2年/文三 教授の専門領域や趣味に偏った授業ではなく、ある程度体系的にその分野の基礎が学べ、自分で学んでゆく足がかりになるような授業。
- 2年/文三 教員の趣味をたらたら語るような授業があれば出たい。船曳さんの授業はそんな感じだった。現代歌謡分析とか
- 2年/理一 興味を引くもの
- 1年/文二 東大生がエリート意識を養って、真剣に勉強し、国あるいは世界のために貢献したいと思わせるような授業（恐らく思想教育になる）
- 2年/理一 他の学生と仲良くなれるような授業
- 2年/文三 聞いている人の心を動かす授業なら何でも。
- 2年/その他の所属 テーマ自由（なにを授業しても良い）時間自由（いつはじめて、いつ終わっても良い）教員自由（授業やりたい人がやる）出席自由ってな授業を土日にでもやってくれないかな～。

2年/理一 「英語での授業」

1年/理二 90分間先生が質問を受け付けてくれる授業。

1年/文二 他大学の学生や外部の人々と交流しながら学べる授業。

## 問9

もし自分が東大総長になったら、教育分野においてどのような改革を行いますか。ビジョンがあれば書いてください。

### カリキュラム・進振り・進学

2年/理一 進振りをもうちよいゆるーく

2年/理一 生徒側には負担を強いることになるが、各学年での進級条件を引き上げる改革をする。卒業後は一生東大と言う肩書きを一人一人が背負わねばならないのであり、中途半端な学生の再教育は重要だと思う。

2年/文三 入学時点での学部学科の決定。

1年/文三 進振り廃止。必修廃止。ガリ勉排斥。

1年/文三 留年制度をなくす。

1年/文三 本郷キャンパスに移る<sup>18</sup> 三年次に進む前に学力試験を課して、学生を選別、落第者の欠員には他大学からの出願者を試験して充てる。

2年/文三 進振りの点数制を撤廃、学生の人数を1/3に削減、文理強制的に学ばせるシステム、図書館24時間開設

1年/文二 進振りの廃止。第二外国語が出来る人間が有利なのはおかしい。文学部以外ほとんど関係ないはず。

2年/理一 進振り制度を変える

2年/理一 進振り改革。ゆくゆくは廃止。教養課程を保持したままで、専門教育の深化(六年制大学を作る)。

1年/文二 進学振り分け制度を改めるシケプリについて、その有意制を考慮する。

1年/文三 優三割→五割くらいまでOKにする。

2年/文三 文理の廃止。かつ、前期教養の縮小。二次の入試で社会・理科をやらせる。その分上で挙げたような、文系に理系の単位をあげるようなレベルの低い授業は廃止。もともと文理どちらもできるはずだから。

1年/文三 自分のいきたい学部にはストレートでいける。(点数を課さない)。学生を積極的に学外へ追い出す。

1年/文一 必修科目を減らして最小限にし、減らした部分を総合科目などに回す。総合科目などを更に増やす。

1年/文一 必修単位を減らして生徒に単位中心の授業の取り方をやめさせる。

1年/理一 学生がゆとりを持ってキャンパスライフ(サークル活動やバイト)をすごせるようにさせたい。少し必要単位を減らし、かつ進振りが戦争にならないようにしたい。

18 三年次には後期教養学部の学生以外は本郷キャンパスへ通うことになる

### 科類・学部・入試

1年/文二 科類を撤廃, または文系と理系の区別のみの分け方で学生を募り, 教養課程を経た上で, どの学部も定員を除いて自由に選べるようにする。

1年/文三 科類なくして, 学部制にする。

2年/文三 入試の科目を理系文系問わず全科目にする。かわいそうに。

1年/文一 受験競争を緩和できるような制度をつくりたい。

2年/文三 受験制度の見直し受験勉強より, 大学はいつてからの勉強の方がはるかに大事。

1年/文三 試験全廃, 入試は小論文のみ, 定員 300 人, 進振り廃止 (教養は高校でどうにかしろ)

### 教養教育

2年/理一 前期教養をなくす。

2年/理一 教養教育を一年にする。

2年/文二 スキル的内容の教育の割合を増やす。

### 英語教育

1年/理一 もっと英語教育に力を入れる。進級者を減らし, 他大学にもっと門戸を開く。

2年/文三 強制的に speak & talk in English

2年/文三 英語の授業を重くする。

2年/理一 もっと世界に通用するように英語の能力 up

### 授業

2年/理一 面白い授業を増やしたいが, 結局は理系科目などに必要なことは難しくて大部分の人はつまらないだろう。

2年/理一 教養学部以外の教員をもっと 1, 2 年の教育にあたらせる。

2年/文三 少人数授業 only にする。テスト廃止意見をひたすら言わず。

1年/文三 英1をなくす。語学は自分がやりたいと思う中身, 量を各自でこなした方がやる気もあがると思う。やらされることほど嫌なことは無いし。

1年/理三 自分の意見を自分で再認識するような授業とか。

2年/文三 もっと授業を充実させる。理系教育には力が入ってる感じだけど, 文系の学問をもっと大切にしてほしい。

1年/文一 少人数の授業に重点を置く。

2年/理一 「発想力」を養う授業。

2年/理一 もっと東大生はコミュカ、人なつつこさを身につけるべき。その為、そういう必修を作る。

## その他

1年/文三 教授がすすめる本を学生に無理矢理にでも読ませる必要があると思う。レポートなどの課題のフィードバックを教授にさせる。

2年/文三 せっかく「頭のいい」生徒を集めてるんだから、もっと入学後も頭を使わせたい。

2年/理一 ノーベル賞が取れるように最新の研究の支援をする。

1年/文一 自由放任

1年/文一 ハーバード型全寮制

2年/所属不明 図書館の本をもっとおもしろい本に変える

1年/文二 教師をもっと増やします。

## 問 10

最後に、東大に入って良かったですか。期待していた教育を受けられていると思いますか。お書きください。

### 良かった

2年/理一 良かった。教育に期待することがなかったので、受けられているかはわからない。

1年/理一 良かった。ほぼ受験生の時に望んでいた学生生活を送っている。

1年/理一 他の大学よりは必ず良い教育を受けられてると思う。

2年/文三 これだけ言っておいて何ですが、入ってよかったです。教育以外の面も大きいかもしれません。受けられていると思います。でも、もう少し英語を話す授業が欲しかったです。

2年/文三 授業はもっと面白いと思ってたけど、別な点で入ってよかった。

2年/文三 学生のレベルが高くて刺激を受けます。

1年/文三 私は正直卒業後のことを考えて入学したので何ともいえない。しかいs、期待していた教育を提供されていると思う。そして、自分の興味のある授業もたくさん受けられているので満足している。

2年/文三 教養課程に関して少なくともいえば、あまり期待していた教育は受けられていなかったと思う。ただ、学ぼうと思えばいくらでも自主的に学べる環境ではあると思う(例えば、本、周りの人、教授、施設など)から、その面においては評価できると思う。

- 1年/文一 全体としては良かったと思う。授業によって期待していた教育を受けられていると思うものも、思わないものもある。
- 1年/文二 東大に入ってよかった。期待していた教育は受けられていない。(難しすぎたり、興味なかったり、教員のイデオロギーを感じたり)
- 2年/文三 希望すれば受けられるようになっているので良かったと思う。
- 2年/文三 ゼミに入ったから良かったです。これは期待していた以上のモノを得られました。
- 2年/理一 Best ではないが Better だったと思う。薄々と「意外と大したこと無いんじゃないかな」と思ってた割には良かった。
- 1年/文三 良かったです。でも期待していた教育ではありません。
- 1年/文一 良かった。なんだかんだいっていろいろできる。
- 2年/その他の所属 最初から東大の教育には期待していなかったのも、特に不満はない
- 1年/文三 良かった。なんだかんだ他ではもっと不満だったと思う。授業は面白いものがいろいろあるからその辺もっと利用すべき。
- 2年/理一 それなりに。もっと人と人の関係を大切にしたい。
- 1年/理一 後期過程が楽しみなので、東大に入ってよかったとは思いますが、教養過程の講義は期待していたものでは無かった。
- 1年/文三 入ってよかったと思っている。教育に期待はしていなかった。自分で何かをやる環境が欲しかった。
- 1年/理二 良かった。教授陣が非常にすばらしいので高度な授業(一部を除いて)を受けられる点で良かったと思う。

### 良くなかった

- 1年/文三 かわいい子いないから慶応に行けばよかった。
- 1年/文一 正直言って、期待は裏切られてると思う。
- 2年/理一 前期課程は入学前に期待していたような授業は受けられなかった。
- 1年/文三 今のところ、期待していた教育は受けられていないです。東大も普通の大学なんだなと思う。東大に集まる学生はなかなかいい人が多いけど。
- 2年/文三 あまり良かったと思ったことは無いかも。とりたて授業がそんなに無いので。専門に行ったら楽しくなるかなあと思います。
- 2年/理一 いいえ。これからに期待。
- 1年/文二 他大学と比較できないので何ともいえないが、思っていたよりも面白い講義が少なくてやや不満に思っている。
- 1年/文三 まだわからないが、期待していたほどではなかった。

### その他

- 1年/文三 微妙。ただ中国語に関しては大学の中でも水準が高いのでありがたい。
- 2年/文三 もっと大変なのかと思ったら意外と楽で怠けてしまった。専門がわりと大変。

- 1年/理一 少なくとも、物理を志す人間としては日本でこれ以上ない環境にいると思う。ただし、満足しきっているわけではないし、東大に甘んじるつもりもない。
- 1年/理三 質問6, 7のように良い点も悪い点もあるのでなんとも言えない
- 2年/理一 まだ教育課程の途中であり、回答できるレベルではない。ただ卒業するときにYESと答えられるだけの努力はしていきたいし、学校側にも求めて生きたい。
- 2年/理一 専門に入ってからに期待したい
- 2年/文三 東大に入ってよかったとは思うけど、今は毎日卒業するために単位をとっている感がある。学業的に充実してはいません。
- 2年/文三 期待以上のところ、以下のところ、両方ある。でも時間と金をかける価値はあると思う。学問をやりたいなら。面白い人は少ないけど。
- 2年/理一 留年さえなければ、良かった。
- 1年/文三 良かった。周りの人に刺激を受けられてるから。教育に関しては入学前特に何も思っていなかった。
- 1年/文三 どちらともいえないが、少なくとも悪いとは思わない。
- 2年/理一 現時点においては何とも言い難い。というのは他大学との比較ができないため。他大学に入ったとしても、結局同じような感じになっていたかもしれないし、もう少しまじめに勉強していたかもしれないため。とりあえずそこまで不満は無い。
- 1年/文一 よい悪いの二元論に疑問
- 2年/理一 まだ良く分からない。入ってよかったかは卒業してから分かると思う。
- 1年/文三 まだ分からない。卒業したらわかると思う。教育は授業によってマチマチ。
- 1年/文二 今はまだ分からない。自分次第。
- 2年/文三 よくも（悪くも）地元の大学では、体験できない点はある。一線で活躍する人に会える。ただし!! それは例えば慶応とかでも可能だろうから結局は自分次第でしょう。
- 2年/文三 これから専門なのでそれからだと思います。
- 2年/所属不明 本郷行けばよくなると信じてます。
- 2年/理一 まだ教養しかやってないので何ともいえない。
- 1年/文三 かわいい子がいなさすぎ/もともと期待してない
- 1年/文二 まだ分からない。
- 1年/理一 自分のやりたいことが、大変ではあるがかろうじてできている点では良かったが、未だに興味のわく授業が少なすぎることを考えると、期待していた教育は受けられていないと思う。むしろ高校や塾での授業の方が面白かった。あまりにも扱っている内容が漠然としているからかな？

## 問 11

その他何かあればご自由にお書きください。

- 1年/文三 教務課が時間に厳しすぎる。休み時間が少ない。人が多い。食堂のキャバが少なすぎる。7号館と11号館が汚すぎる。1号館のイスが座りづらい。教科書が高い。

(夏季は) 図書館が暑すぎる。東大前に店が何も無い (マックとトイレしか無い)

2年/理一 こういうアンケートに必死になる奴って何なの? バカなの?

2年/文三 東大生の多くは, 大学の勉強は最小の努力で最大の評価を得ようとする気がする!

2年/文三 学問の表現を求める人がいなさすぎ。自分の言葉で語れる教員・学生が少なすぎる。「それで満足か?」って思う。みんな良く頑張りますね。

1年/文三 食堂の席数を増やすべし。

2年/文三 教養とはともすれば自己満足に陥りがち。広く浅い知識は場合によっては思考の障害になることもある。持っている教養をいかに上手に外挿していくかが大切だと思う。その点でフィールドワークは大切だと思う。

1年/文三 こんなにふざけた回答をする学生がいるほど現場は崩壊しているのです。

1年/理二 理系の教養教育に必要なのはその分野の最先端の先生よりも, 「どうしたら面白く伝えられるか」に特化した先生だと思います。

1年/理一 アンケートの使用目的, このアンケートを用いてどんな問題を考えようとしているかを, アンケート調査を行う人自らの文章でこのアンケート用紙に書くべきだと思う。

2年/理一 そもそも教養って何ですか?

2年/理一 そもそも教養とは何かをアンケートの最初に明らかにしないと, データに揺らぎが生じるのではないのでしょうか。

1年/文一 個人的には充実した生活をしています。

1年/文三 「イカ東」(いかにも東大生) ということばがあるが, 東大生自身がそれを使うと, 結局自分に返ってくるため, 使用は自重すべきだ。

1年/文三 入試に面接を課し, きもいやつは入れない政策をとってください。

1年/文三 教室の設備が悪い。

1年/文二 リベラルアーツの推進をもっとしてほしいです。

1年/文一 東大生であることを明確に拒否する!

1年/理一 東大生は疲弊しています。

以上, 11 問に渡ってアンケートに対する学生の回答を見てきた。今回の回答者数は駒場生約 6000 人の 1.6% に過ぎない。しかし, ある程度まとまった形の記述式をとったため, 数値化され得ない「生の声」に耳を傾けることはできたと思う。駒場の現状を把握するヒントとなれば嬉しい。

## 3 教員にきく

前頁までの「東大の今，東大生の今」に続き、ここからは教養教育の名の下に実際に教鞭を執る方々の意識を考えてみたい。

「教養教育」班が，駒場の教員 100 名に対してメールでアンケートへの回答をお願いしたところ，15 名の先生方からお返事をいただくことができた。回答してくださった方々に感謝申し上げたい。

学生アンケートでは「教員にやる気がない」という所感も見られた。一体、教員はどんなモチベーションで教壇に立っているのだろうか。東大の教養教育をどう見ているのだろうか。そして、「教養」をどのように捉えているのだろうか。

以下は、教員に送付したアンケートである。

### 問 1

先生の考える「教養」とはどういったものですか。

### 問 2

ご自身が大学生だったとき，東京大学に限らず大学の教育についてどのような考えをお持ちでしたか？ また「教養」というものをどのように考えていましたか？ お書きください。

### 問 3

東大では「教養教育」を掲げ，前期 2 年は教養教育，後期 2 年は専門教育とする特徴的なカリキュラムが組まれています。このカリキュラムの下で，「教養教育」は成功していると思いますか？ また，その理由を教えてください。

### 問 4

東大の教養課程に関して，「ここがダメだ」「ここを変えればもっと良くなるのに」などと感じている不満や要望を教えてください。進学振り分け制度についてや，授業，教官，学生についてなど，とにかく何でも OK です。

**問 5**

もしご自身の手で大学の教育システムを改善するならば、どのような点に着手したいですか？ ビジョンがあれば書いてください。

**問 6**

「この人は教養がある！」と思う人は誰ですか？（何人でも書いてください）

**問 7**

ご自身の専門以外のトピックについて、「ためになる」「何かを学べる」という理由で利用している Web ページはありますか。あれば具体的に挙げてください。

こじまのりみち  
**小島憲道 先生**

総合文化研究科・教養学部<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 2007年より、総合文化研究科長・  
教養学部長を務める。

## 問 1

先生の考える「教養」とはどういったものですか。

「教養」とは西洋では「リベラルアーツ」という言葉で表現されてきました。「リベラルアーツ」の起源は、古代ギリシャ・ローマまでさかのぼれる概念で、「人を自由にする学問」という意味を持っており、教育の対象として文法、修辞学、弁証法、算術、幾何、天文、音楽という自由七学科を意味しておりました。ここで重要なのは、自由七学科を繋ぐ中心に哲学があったことです。近代ヨーロッパにおいては、実利性、職業性といったものから開放された自由な学問という意味で、教養のあり方を表す概念として使われて来ました。様々な知識を統合し、新しい価値観を生み出していく能力を涵養するための教育がリベラルアーツ教育であります。ギリシャの哲学者エピクロスが弟子に宛てた手紙の中に「未来を恐れないために若き日に哲学を覚えよ」と書いていますが、将来を予測することが困難な現代社会にあって、哲学を中心に据えたりベラルアーツ教育が若い世代に必要なのはここにあります。

教養とは、専門と一体となった時、真価を発揮するものと思っています。多くの企業のトップと話をする機会がありますが、教養教育の重要性を共通して主張しています。すなわち、大企業でさえ、路線を変更せざるを得ない局面にしばしば遭遇しますが、将来を見据えた組織の舵取りには幅広い知識と深い教養が真価を発揮することを述べています。

## 問 2

ご自身が大学生だったとき、東京大学に限らず大学の教育についてどのような考えをお持ちでしたか？ また「教養」というものをどのように考えていましたか？ お書きください。

私は、1968年に京都大学理学部に入学しました。1966年までは、京都大学理学部には進学試験制度があり、定員を超えた学科では2年生修了時に行われる試験で進学振分けが行われました。1967年には、大学紛争の影響もあり、進学試験制度が完全に廃止され、例え定員をオーバーしても希望する学科に進学できる仕組みになりました。私は、化学と物理学にまたがるマテリアルサイエンスの研究者になりたいと思っていましたので、化学と物理学を自由に学ぶことが出来、この制度の恩恵を受けたと思っています。京都大学理学部の教育制度のこのような改革はメリットもありましたが、勉強する学生と勉強しない学

生のスペクトルが余りにも広がってしまうデメリットがあり、社会に優れた人材を送り出す大学の使命という観点から教育制度の見直しが行われました。

「教養」という面では、1, 2年生の授業より、所属していたサークル（京大 YMCA）の先輩・同期生から得たものが沢山ありました。ケルケゴール、サルトル、ハイデッガー、シモーヌ・ヴェーユ、ボンハッフアーなどの読書会での議論は高校では殆ど体験することの無かった事で全て新鮮でした。京大 YMCA での議論では、自分の意見・思想がなければ議論に入っていくことはできなかつたので必死でした。ちなみに、聖路加病院の日野原重明氏は京大 YMCA の大先輩です。

前期課程での教養教育とは、リベラルアーツに関する種を蒔くことだと思っています。授業では、京都大学1年生の時に受講した「美学」が、私にとってリベラルアーツの種を蒔いてくれた授業でした。教材の「悲劇の誕生」（ニーチェ著）を通して、ニーチェ、ワグナー、フルトヴェングラー他を深く知るきっかけとなりました。

### 問 3

東大では「教養教育」を掲げ、前期2年は教養教育、後期2年は専門教育とする特徴的なカリキュラムが組まれています。このカリキュラムの下で、「教養教育」は成功していると思いますか？ また、その理由を教えてください。

#### 成功していると思う

絶対的な評価は難しいですが、旧国立大学の教養教育に関する会合が毎年開催され、それぞれの大学における教養教育の現状報告を聞いていますが、他大学の教養教育と比べると東京大学における「教養教育」は成功している方だと思っています。教養教育を担当している教員集団の熱意と創意・工夫が歴然としています。しかし、国際的に通用する教養教育を実践するには、更なる創意・工夫が必要であると思っています。このため、昨年と一昨年、初年次教育で高い評価を受けているハーバード大学およびペンシルヴェニア州立大学の視察のために、教職員を派遣しました。理系の基礎実験に関しては、MIT およびスタンフォード大学の視察のために教員を派遣しました。

### 問 4

東大の教養課程に関して、「ここがダメだ」「ここを変えればもっと良くなるのに」などと感じている不満や要望を教えてください。進学振り分け制度についてや、授業、教官、学生についてなど、とにかく何でも OK です。

- ・ 教養教育の重要な目的の一つは、広い観点から学問の多様性と奥深さを理解し、特定の専門分野に偏らない総合的な視点や柔軟な理解力を獲得することです。しかしながら、進学振り分け制度のもとで、希望する学部・学科に進学できることが最大の

目的となり、試験で高得点を取りやすい選択必修科目を履修する傾向があり、教育理念と現実のギャップが現状です。将来国際的に通用する人材として活躍するために、履修しやすい科目で選択するのではなく、深い教養を身に着けるために多くの総合科目を履修することを望んでいます。また、国際コミュニケーションの観点からヨーロッパの言語及びアジアの言語をそれぞれ1つずつ履修することを願っています。

- ・優れた授業は、優れた研究を行うことから生まれるものと思っています。すなわち、研究の情熱が教育への情熱に転換されてはじめて、優れた教育が出来るものと思っています。
- ・未知の事柄について飽くなき探求を行う姿勢が今の学生に欠けていると言われていいます。授業で質問したとき、「まだ教えられていません」という返事を聞いて驚くことがあります。これは、大学入学試験で出題される履修範囲が文部科学省によって決められており、大学入学試験で出題される履修範囲以上の知識を獲得する機会が乏しく、真理を探究する能動的な学びを促す環境が不十分であったことも大きな要因と思っています。教養学部では、小人数の環境の中で、ICT支援による能動的な協調学習を支援し、現代社会が求める課題発見／解決の基礎能力の養成を目指すため、理想の教養教育のモデル実験教室 (Komaba Active Learning Studio (KALS)) を2007年に設置しました。KALSを活用したICT支援による能動的な協調学習の実践は、現在、建設を目指している「理想の教育棟」のための重要な起点でもあります。

## 問5

もしご自身の手で大学の教育システムを改善するならば、どのような点に着手したいですか？ ビジョンがあれば書いてください。

- ・総合文化研究科・教養学部の特色として、「学際性」、「文理融合」、「国際性」を目指していますが、必ずしも十分とは言えません。理系および文系の教員と学生が参加する「教養学部金曜談話会」を開き、人文社会学の先端研究や自然科学の先端研究の情報を共有する仕組みが出来ればと思っています。
- ・2008年に、新カリキュラムを履修して専門課程に進学した学生に教養教育に関するアンケート調査を行いました。この中で、「幅広い知識の獲得」などの満足度は高かったですが、「他者との討議力」や「他者への発信力」などは不十分であることが分かりました。OECDが提唱しているPISA対応の学力（討議力、課題を見出し解決する能力など）を育成することが今後の課題です。幅広い知識と深い教養は決して個人の中にだけ自己沈潜するものでなく、それが組織の中で生かされることにより、組織そのものが向上していくことを社会が求めています。これを実践する仕組みを探索しています。2008年に、東京大学に入学した理系の全ての学生（約1,800人）を対象に、科学英語のライティング能力を養うため、外国人特任教員を10名雇用し、高度英語習得プログラム ALESS (Active Learning of English for

Science Students) を開始しましたが、教員と学生同士が討議し質の高い英文報告書を作成する ALESS プログラムは能動的学習を促す教育システムの第一歩と思っています。

## 問 6

「この人は教養がある！」と思う人は誰ですか？（何人でも書いてください）

- ・ ワイツゼッカー（元ドイツ大統領）：著書『荒野の 40 年』などから判断。
- ・ アマルティア・セン（1998 年ノーベル経済学賞）：著書『人間の安全保障』（集英社新書）などから判断。
- ・ 西周（にしあまね）：明治期、西洋から導入された多くの抽象的概念に対し、四書五経など中国の文献に基づき様々な漢語（哲学など）を創出し、中国はこれらの漢語を逆輸入した。西周なくしては、日本語の豊かな抽象的概念の言葉は生まれなかったことから判断。
- ・ 新渡戸稲造（元旧制一高校長，元国際連盟事務次長）：著書『武士道』（英文）および『一日一行』，生涯をかけたリベラルアーツの実践を通して判断。
- ・ 矢内原忠雄（初代教養学部長，元東大総長）：『失樂園』（ミルトン）の解説をはじめとする『矢内原忠雄著作集』，生涯をかけたリベラルアーツの実践を通して判断。
- ・ 南原繁（元東大総長）：『南原繁著作集』，生涯をかけたリベラルアーツの実践を通して判断。
- ・ 神谷美恵子（精神科医）：『生きがいについて』等の著書，ラテン語で書かれたマルクス・アウレリウス著『自省録』の翻訳などを通して判断。
- ・ 朝永振一郎（1966 年ノーベル物理学賞）：著書『物理学と何だろうか』（岩波新書）および『スピンはめぐる』（みすず書房）などを通して判断。

## 問 7

ご自身の専門以外のトピックについて、「ためになる」「何かを学べる」という理由で利用している Web ページはありますか。あれば具体的に挙げてください。

様々な事柄を確認するときに Google, Wikipedia をよく利用しますが、あくまでも取掛かりであり、引用された第一次資料（原典）に遡る姿勢を持ち続けたいと思っています。

さとうひかり  
**佐藤光 先生**

超域・比較文学比較文化

### 問 1

先生の考える「教養」とはどういったものですか。

自立した個人として社会生活を営むための拠りどころ

### 問 2

ご自身が大学生だったとき、東京大学に限らず大学の教育についてどのような考えをお持ちでしたか？ また「教養」というものをどのように考えていましたか？ お書きください。

「東京大学に限らず」というのが、なんだか。これが不要だ、ということがわかるぐらいの日本語力と「教養」を身に付けてほしい。18歳の私は、なんかおもしろくないやろか、とろろろしていたという以外、大学の教育について考えたことはありません。「教養」というものをどのように考えるものにも、そもそも考えるための「教養」がなかったんだから。

### 問 3

東大では「教養教育」を掲げ、前期2年は教養教育、後期2年は専門教育とする特徴的なカリキュラムが組まれています。このカリキュラムの下で、「教養教育」は成功していると思いますか？ また、その理由を教えてください。

あの分厚いシラバスをパラパラめくっていると、もぐってみたい授業が山のようにあります。いろんな人が言っていますが、引き出しは多いほうがいい。駒場はうろろろするのにいい所だし、そのまま居着くのにもいい所。リベラル・アーツはおもしろいもんだよ。斜に構えて、それっぽい不満だけ並べて、駒場を活用しないとすれば、とても惜しいことです。

#### 問 4

東大の教養課程に関して、「ここがダメだ」「ここを変えればもっと良くなるのに」などと感じている不満や要望を教えてください。進学振り分け制度についてや、授業、教官、学生についてなど、とにかく何でも OK です。

学校というところはビニールハウスみたいなもので、「オープン」とか「公平」とか「客観性」なんてものは、幻想にすぎない。もっとたくましく、ふてぶてしくなりたいものです。誰が？ さあ？

#### 問 5

もしご自身の手で大学の教育システムを改善するならば、どのような点に着手したいですか？ ビジョンがあれば書いてください。

会議と授業の準備で精一杯なのに、このアンケートに答えている私って、泣けるやん。

#### 問 6

「この人は教養がある！」と思う人は誰ですか？（何人でも書いてください）

なんか、いやらしい問いなので、答えない。

#### 問 7

ご自身の専門以外のトピックについて、「ためになる」「何かを学べる」という理由で利用している Web ページはありますか。あれば具体的に挙げてください。

あっても教えてあげない。

## 〈匿名〉

### 問 1

先生の考える「教養」とはどういったものですか。

悪くいえば，雑学，一般常識

価値や方向性の決定や議論をする時に背景となる広い意味での知識

### 問 2

ご自身が大学生だったとき，東京大学に限らず大学の教育についてどのような考えをお持ちでしたか？ また「教養」というものをどのように考えていましたか？ お書きください。

大学は専門知識を身につける場所と考えており，教養はそれ以外の場所で，例えば読書や議論を通じて身につけるべきものと考えていました。

### 問 3

東大では「教養教育」を掲げ，前期 2 年は教養教育，後期 2 年は専門教育とする特徴的なカリキュラムが組まれています。このカリキュラムの下で，「教養教育」は成功していると思いますか？ また，その理由を教えてください。

わかりません。上のように教養は教育されるものという意識がないので，何が教養教育の成功なのかわかっていません。ただ，教育を通じて，教養のロードマップというか何を自分で学べばいいかという俯瞰図が得られるように思われ，そのようなものを得る機会を積極的に与えられる環境はうらやましいです。

### 問 4

東大の教養課程に関して，「ここがダメだ」「ここを変えればもっと良くなるのに」などと感じている不満や要望を教えてください。進学振り分け制度についてや，授業，教官，学生についてなど，とにかく何でも OK です。

前期の学生の皆さんと深く議論する機会が少ないので、実際のところはわかっていませんが、進学振り分けに色々と問題があるのは伺っています。ただ一方で、改善案も思いつかず、またそういうジレンマは、どのような場面でもありうるような気もして、本当に「ダメ」なのかも判断しかねています。

### 問 5

もしご自身の手で大学の教育システムを改善するならば、どのような点に着手したいですか？ ビジョンがあれば書いてください。

ありません。

### 問 6

「この人は教養がある！」と思う人は誰ですか？（何人でも書いてください）

最近よくお話しする機会がある学部長の小島憲道先生は教養があるなあと思っています

### 問 7

ご自身の専門以外のトピックについて、「ためになる」「何かを学べる」という理由で利用している Web ページはありますか。あれば具体的に挙げてください。

特にありません。これがいけないのかも。

## 〈匿名〉

### 問 1

先生の考える「教養」とはどういったものですか。

提供されるさまざまな諸学を学んで、自分で再構築する場だと思っています。また、教養から出て専門へと移りますが、最終的には教養へと帰ってくる、そういう場だとも思っています。広い意味での哲学とほぼ同義だと捉えています。

### 問 2

ご自身が大学生だったとき、東京大学に限らず大学の教育についてどのような考えをお持ちでしたか？ また「教養」というものをどのように考えていましたか？ お書きください。

あまり変わっていません。

### 問 3

東大では「教養教育」を掲げ、前期 2 年は教養教育、後期 2 年は専門教育とする特徴的なカリキュラムが組まれています。このカリキュラムの下で、「教養教育」は成功していると思いますか？ また、その理由を教えてください。

理念はいいのですが、実際には問題があるかもしれません。1 つは進学振り分けですかね。点取りゲームに狂奔しているのであれば。

### 問 4

東大の教養課程に関して、「ここがダメだ」「ここを変えればもっと良くなるのに」などと感じている不満や要望を教えてください。進学振り分け制度についてや、授業、教官、学生についてなど、とにかく何でも OK です。

進学振り分け。もう 1 つは、各書類から進学を想定される学部に進む場合と、別の専

門となる学部へ移る場合とで、要求水準が違いすぎる点。たとえば、文 III から教養学部（たとえば、うちの言語情報学科）に進むには高い点数が要求されますが、他の科類から進むのは比較的容易です。文 III 生を気の毒に思うことがあります。

### 問 5

もしご自身の手で大学の教育システムを改善するならば、どのような点に着手したいですか？ ビジョンがあれば書いてください。

まだまだ考え中。

### 問 6

「この人は教養がある！」と思う人は誰ですか？（何人でも書いてください）

たくさんあって、書ききれません。

### 問 7

ご自身の専門以外のトピックについて、「ためになる」「何かを学べる」という理由で利用している Web ページはありますか。あれば具体的に挙げてください。

特になし。

## 〈匿名〉

### 問 1

先生の考える「教養」とはどういったものですか。

(教養教育という意味での教養について聞かれているのだと思って答えますが) 後から「あのとき勉強しておけばよかった」と思うものが教養なのではないでしょうか。

### 問 2

ご自身が大学生だったとき、東京大学に限らず大学の教育についてどのような考えをお持ちでしたか？ また「教養」というものをどのように考えていましたか？ お書きください。

自分にとって興味のある専門科目を勉強させてもらえるのが大学であり、いわゆる教養課程というのは全くの無駄だと思っていました。

### 問 3

東大では「教養教育」を掲げ、前期 2 年は教養教育、後期 2 年は専門教育とする特徴的なカリキュラムが組まれています。このカリキュラムの下で、「教養教育」は成功していると思いますか？ また、その理由を教えてください。

#### 成功していると思う

全く個人的に見た範囲でしかありませんが、東京大学の卒業生と、他大学の卒業生の両者を比べた場合、東京大学の卒業生の方がより教養があると思わされることが多い気がします。もちろんそれが教育の成果だと断言はできないのですが、そもそも教育の成功なんていう測りようのない尺度に対して YES/NO で答えさせるのだから、この程度の理由しか書きようがありません。

#### 問 4

東大の教養課程に関して、「ここがダメだ」「ここを変えればもっと良くなるのに」などと感じている不満や要望を教えてください。進学振り分け制度についてや、授業、教官、学生についてなど、とにかく何でも OK です。

進学振り分け制度が、学生に明確な目標を与えている点がダメだと思います。これのために、他の目標を探さないで済んでしまうわけですから。

#### 問 5

もしご自身の手で大学の教育システムを改善するならば、どのような点に着手したいですか？ ビジョンがあれば書いてください。

大学の定員を半分くらいに減らす。あるいは、半分くらいの入学者を落第・退学させる。

#### 問 6

「この人は教養がある！」と思う人は誰ですか？（何人でも書いてください）

ご質問の意図が分からないので答えにくいです。立花隆と書けばいいんですか？

#### 問 7

ご自身の専門以外のトピックについて、「ためになる」「何かを学べる」という理由で利用している Web ページはありますか。あれば具体的に挙げてください。

トピックというのは学問に限っているのでしょうか。そうでなければ、レシピ集のサイトは大変よく利用しています。

## 4 「教養」を語る

駒場の学生や教員を対象に行ったアンケートの回答<sup>1</sup>をうけ、立花ゼミ「教養と教育」班の学生が、企画のテーマとして設定した「教養」や「教育」について自由に語り合った。

### 参加者<sup>2</sup>

- W 脇田 佳幸（文科三類2年。都立高校出身。教養学部後期課程に進学予定。）
- E 遠藤 駿（文科一類1年。道立北陵高校出身。駿台予備校で一浪。）
- Y 山本 遼（理科一類1年。福岡県立小倉高校出身。）
- L 李 太喜（文科三類1年。大阪府私立建国高校出身。馬術部所属。）
- N 内藤 拓真（文科三類1年。山梨県私立駿台甲府高校出身。駿台予備校で一浪。）

<sup>1</sup>なお、発言中の「問X」は、学生向けアンケート（前々章）のX番目の設問に対応している。

<sup>2</sup>本資料内「ゼミ生による『私の教養観』」の章も参照。

### 「教養教育」？

- W 問1の「思う」「思わない」の割合は出てる？
- N 70%くらいが「思わない」。
- L みんな、教養教育は成功していない、と。
- W 理由は？
- L 基本的に進振り、得点ばかり。で逆評定で点の取りやすいのばかり。
- N 僕が集計した感じでは、まず根底に進振りの批判があって、もうちょっと書いてくれた人はそれが点取り合戦になってるとか、点数化されてるのがいけないとか。さらに書いてくれた人は、「生徒<sup>3</sup>にも教員にもやる気がない」と。
- Y アンケートに「進振りそのものがどうか」という質問はない…けれど、進振りについてみんな書いてくれてるの？
- W 悪の権化のように（笑）。進振りがいけないっていうのは、点数をつけて行うのがいけないってことでしょ？
- N 一年半の教養のあと、振り分けすることには不満はないけど、今のシステム、平均点の高い順に選んでくってというのがイヤだと。
- L 基本的に批判が多い。
- W 一つ目の質問、うちらがどう思うのかっていうことを喋ってみる？
- N 成功していると「思わない」人！  
（多数が手を挙げる）
- N 成功していると「思う」人！
- W はい！もっと良く出来るとは思うけど、ある程度は出来てるんじゃないですか？

<sup>3</sup>この「生徒」という表記はアンケートの原文ママ。一般的に、中学生・高校生を「生徒」、大学生を「学生」と呼ぶことを考えると、非常に興味深い。駒場は大学なのか？

- Q その点では僕も成功してると「思う」。他の大学よりは成功してる。
- A 「教養教育」って難し過ぎる言葉じゃないですか。教養教育が成功しているかどうかって…「教養」の「教育」ですよ（笑）。
- W 何段階も投げてるよね（笑）。
- N ただ、教養課程にいるわけで、教養とは何たるかを知らないで学んでいる、というのには問題がある。
- Y そもそもアンケートでは「教養って何？」とは聞いてないんですか？
- W 聞いてないんだよこれ。
- N 学生に聞く際に、ためらったんだよね。最初にこの質問を持ってくると重すぎるんじゃないかって。
- Q たぶんみんなが漠然と抱いてるのは、雑多な知識というか、そういう感じじゃないですか？ 何でも知っているというか。イギリスの社交パーティーとかで、「ナツメソウセキガ…」とか言われたら、「そうです。…」って答えられるような（笑）。
- N 幅広い知識、ではダメだっていう意見が教官アンケートにあった。
- Y なぜ？
- N 教養イコール幅広い知識って思ったらダメだって。考える力とかあげてる人いたね。
- Y 個人個人のレベルではそれは良いかもしれないけど、教養を測ろうとしたら、どうしても知識にならなくちゃいけないし。立花先生も「知識だけじゃない」と言っておきながら、最終的には知識になってたり（笑）。今の東大生はこんなことも知らないんだ！ っていう話とか。
- W 「ポパー<sup>4</sup>も知らないの!？」みたいな（笑）。
- Q ソロス<sup>5</sup>とかね。「歴史を知らないやつはただのブタである」（笑）。
- Y だから結局知識なんじゃないかという話になる。
- Q 教養とはなにか…？
- E まずは幅広い知識。
- W 「教養」と「教育」ってなんか噛み合わなくない？
- E 教養なんて教えられるものじゃないよ、っていう…。
- W そうなんだよね。
- Y それも一つの答えじゃないですか。
- N じゃあもう全否定ってことで（笑）。
- Q 教養教育なんてありやしない（笑）。
- N 誰かの解答にあったよね？ 教養は本を読むことによってしか身につかない。教えられるものじゃないって。
- W 教育って何なんですか？ ちょっと聞きたいんだけど。
- E 教育ですか？ 教育ってのは…。
- Y 洗脳ですか？
- E それ俺も悩んだんですよ。小学生中学生ならまだしもですよ、大学生になっても先生が900番講堂<sup>6</sup>でずっとしゃべってるじゃないですか？ その話を聞いていることに何の意義があるのかって。
- W 今ぼそっと、洗脳という言葉が出たんだけど（笑）。
- Y でも結構辞書とか引いたら、洗脳って言葉が書いてあるよ。
- E 方向付けを勝手にしちゃう…。

4 カール・ライムント・ポパー。イギリスの哲学者。純粋な科学的言説の必要条件として、反証可能性を提唱。主著『開かれた社会とその敵』。

5 ジョージ・ソロス。アメリカ人投資家。『ソロスは警告する』など。

6 正式には「900番教室」。600人を収容する駒場最大の講堂。準必修の授業や、駒場で先行して行われる法学部の授業などがよく開講される。

- Q そこを新たに考えさせるのが、大学生の時期なんじゃないんですか？ その方向づけに対して、大学生になったあたりで振り返れるからいいんじゃない？
- A 誰かさ、今まで積み重ねてきた知識を全部崩して立て直す力、みたいな定義してなかった？
- Q そもそも高校までの教育は教養教育では無い、っていう考え方で良いの？
- A 教養教育ではないでしょ？
- Q 受験教育ですね。
- A 基礎学力というか、国として認めた範囲で必要な知識を与えるという感覚で、カリキュラムが組まれてるから。
- Q 「国を成り立たせる」ため。
- A 高校までが義務教育と言っていい状況ですから、今は。高校までは基礎知識というか、社会に出て不足ない知識を伝えよう、みたいな。高校に96%行きますからね。
- Q 大学から教養教育、どんなものかよくわからないけど、それが始まって自分自身を見直すよ。
- A 見直す機会があるっていうのは、大学に自由な時間があるから…。
- Q なんで大学で「教育」をしてるのかっていう問題まで掘り下がって来ちゃったんですね。
- Q 「駒場は高校4年生」論（笑）。
- A そういう用語があるんですか？
- Q 僕は知らなかったけど。
- Q だって受験勉強してる感じがするでしょ？
- A 確かに受験勉強みたいですね（笑）。
- Q みんな点数取るために必死になって。
- Q そういうことに不満を感じてる人がアンケートで答えてくれた。
- Q 問2に行ってみますか。
- A 例えば、無駄に講義に時間を費やさなくなったとして何をするんですか？
- Q 人生を涵養する（笑）。
- Q 具体的には？
- A 謎なんだよ、教養って。
- Q 問2の答えを見ると、進振り、進振り、進振り…。やっぱりみんな自由に勉強させて欲しい。でもそうになったらそうなったで本当に勉強するのか？
- Q 授業の人数の問題もあるんじゃない？ 本一冊読めば充分だった、というような授業が実際にある。
- Q 900番が不人気ってことですよ？ 問8、「こんな授業があったら良い」っていうのにも、少人数クラスの希望が多い。
- Q 少人数でディスカッションをバンバン出来るような授業が良い、と。
- Q そこが結構重要な感じがして。教育が洗脳なんでしょ？ 要するに一方的な授業ってことでしょ？
- A さっきの話では高校までは、ってことでね。
- Q 高校までは一方的な授業だったけど、大学ではインタラクティブな授業が良い<sup>7</sup>。その時点で、洗脳的な教育から抜け出してる。そこで自己の確立というか、自分の価値観で全てを破壊して捉えなおす感じですよ。そこらへんが高校までと大学からとの違いだと

<sup>7</sup>この場合、「授業」という言葉は似合わないかもしれない。

思うんですよね。教養というのは、その姿勢を身につけること。

W ジャあ今こういうことをやってるのがまさに教養だと。

Y 見直しが教養ですか？

W 体制を批判する、というような？ 全共闘みたい（笑）。

Y 体制って言うと意味がちょっと（笑）。批判するっていうのは割とよく出てくる言葉ですよね。

L 本を読むっていうじゃないですか、教養をつけるために。でもそれは本を主体的に読むっていう意味で使ってると思うんですよ。だから本をただ読み続けるだけじゃ教養は身につかないと思うし…。

Y 数や量をこなすだけではダメ。

L そうそう。どう批判的に読むか。常に批判の心を持って読むとかそういうことがないと、教養は身につかない。

## 本 vs. Web

W 本に対して、Web がどこまで対抗できるかっていうのは分野によってだいぶ違うんじゃない？ どうなんだろう？

N それは問 4 あたり見ると良いんじゃないんですかね。

W でもやっぱり教養を身につけるためのツールとして読書を挙げてる人は多い。若者の世代でも多い。

N 教養と読書っていうのはセットな感じがする。

W Web って書いてくれた人います？ サイト上げてくれた人いる？

N あんまりいませんね、全部で 10 個くらい。他は「読書」という答えが多い。

W だからその本の世界に対抗するような Web ページを作ろうっていうのが、一つの方向じゃないの？

N 本と Web 以外で効率よく情報を得られる手段ってあるの？ テレビ？

W 効率悪そう。

N やっぱり活字を自分のペースで読めたら良い、って考えると…。

W 「教養」って考えた時に一番浮かんでくるのは、やっぱり本じゃない？ 違うのかな？

E 正直 Web 上で、本と同じくらい体系化された知識を得られるかって言うと、そんなことは無いと思う。本のほうが明らかに強いメディアだと思いますよ。

W でも Wikipedia なんかは…。

E それは体系化されてないじゃないですか。

W いや、でも「桑田佳祐」とか調べると、本を何冊も読まないといけないような情報がぱーっと出てくるよ。すぐわかりやすく。

E そういう項目は良いんですけど、「量子力学」とかは、なんですかこれはという感じで、わからない。

W 量子力学なんてどれ読んでもわかんないんじゃない（笑）。

Y それに、本は金がかかるという点がありますよね。

W そうなんだよ、高いんだよ本って。文庫一冊に 700 円は払えない（笑）。

N だから図書館がある。

- Q いや、本は買いたい。
- A 持っていたいでしょ？
- Q そう。それに哲学とかは一回読んだだけじゃ絶対理解できないから、手元にないと。
- A Web はタダのものが多から、そこに本に勝てる点があるかも。
- Q ただ現時点では、情報を仕入れるメディアとして考えると、本のコストパフォーマンスが一番良いんじゃない？
- A でも一冊ずつに関してはやっぱり高いと思うけど、そんなことない？
- Q そんなことないんじゃないですか？
- A でもこれ青空文庫<sup>8</sup> が上がったら買う？
- Q あれはあれで読みにくいんですね。パソコンの画面は光るし。ダウンロードしても、紙に印刷したいんですよ。
- Q 画面が読みにくいってのはいま改良されつつあって、専用の端末が開発されてるらしいですよ。紙媒体と同じような感覚で目に映る。だから画面がチカチカするっていうのは前時代的な考え方らしいですよ。
- A じゃあ本は無くなるってこと？
- Q 本屋のせがれとしては、それは言えないです（笑）。
- A 本 vs. Web ですね。この辺は“ユビキタス大学”にもつながっていく問題ですね。

<sup>8</sup> 「インターネットの電子図書館」を標榜し、著作権が失効あるいは放棄された様々な作品を公開しているサイト。

<http://www.aozora.gr.jp/>

## 体験すること？

- Q 博物館なんかはどうですか？ 大学パートナーシップ<sup>9</sup> があって、タダで入れたりするんですよ。
- Q タダなんですか？
- A タダのところも結構ある。
- Q でも箱モノはメインではないんじゃない？ 数の問題とか、そこまで行かないじゃないってこともあるし。ユビキタス感が弱い。
- A 博物館がデジタルになってしまえばいいと？
- Q それ結構もう Web にあるよ。
- Q いや、でも本物見たいんですよ、絶対違うと思わへん？
- A いや、もちろん違うでしょ。
- Q だってその美術館の照明であったり仕切る間合いであったりさ。
- A それもインターネットの中にあったらどうすんの？
- Q おおっと…でもパソコンの画面見ても、ふっと横を見たらギターなんかがおいてあるわけで。
- Q そういう『マトリックス』トークをしていますけど、帰ってきませんか？
- A それも、ある意味では教養の話だと思うんですが…
- Q まあ、でも確かに体験に従事するところはあって。例えば絵画展とかあって「俺はラファエロが見たいんだ」って行ってラファエロ展見に行って体験してくるのは良いと思うんだけど、そこで教養を得るって言ったら、そこで得られる知識の量としては少ないっていうか。

<sup>9</sup> 入会した大学の学生が、常設展は無料、特別展は割引料金になる制度。

- Y 要するにデータ量ではない，データにならないものってのがそこから得られるから，ってこと。
- W それってなんか教養と似た感じじゃない？
- N そうだよ，だから「ピカソはすごいよ！」って言った時に，その言葉の裏打ちが違うねん。
- E 「俺，ちゃんとルーブル行ってきたし」みたいな。
- N そうそう，実際に見た上で「すごいな」って言えるのは素晴らしいことだと思う。
- L あの，体験ってどうなんでしょうね？ パソコンが凄い進化したら体験ってもうここで体験できるのかな？
- Y それは五感の話？
- L まあせやねんけど，例えばな，今パソコンの画面見ると実際のところ行くのと一番大きな違いは何かっていったらやっぱ2Dと3Dの差やんか。でもだいたい次にホログラムが出てくるとするやん，するとここに3Dの世界が出てくるわけやん。
- W で，その触った感覚とかもできるようになったらって話でしょ？
- Y ああ，今それまさにバーチャルリアリティーって話で。
- L そう，ここですべてのことが起きようになったらすごいと思いませんか？
- W 総ての事象がこの中で起こってるってなったら，なんかもう変な感じ。もともとあの有名な話で，脳が培養液につけられて電極がささって，今自分が見ていることはその…。
- E それ，『マトリックス』の世界ですよ。人間の世界は第一義的に仮想的であるっていうのが前提なんですよ。まず総てが脳に電気信号に変換されて，それが情報として認識されているから，リアリティーってのはその変換された符号にしか過ぎない。
- Y 「物がある／ないってのは何だ？」「存在って何ですか？」っていう。
- L 知覚っていうのが空間と時間っていうのを越しちゃってるっていうか。確実性ってのはどこにも無いっていう。
- W でも，体験って考えると，例えばヒロシマのヒバクシャの話を知って追体験とかよくいうけどそれって体験自体とは全然違うでしょ。話を何も知らないのとは全然違うし，ほんとの実体験とも違う。なんか変なとこにいるよね。そういう体験ゾーンもまたあるんじゃない。
- L それが居ながらに体験できたら…怖い。匂いも質感もこの場で出てきたら。
- W 匂いとか全然やってるもんね。
- N 電話で匂いが伝わるっていうやつでしょ？ 何種類かの液体が組み合わせられてににおいが再現される，みたいな。
- Y 果物とか所詮なんかエステルだっただけいいもんね。
- W そうそう，博物館とかでボタン押すとバナナの臭いがでる。
- Y 香料の作り方も一緒じゃないですか。
- W 偽物，偽物論だね。
- E どっちかっていうと「揺らいだ本物論」ですけどね（笑）。
- Y 炭酸飲料のなんとか風味とか無果汁とか。
- W 「本物はあるものではなく，なるものだ」みたいなことを言ったのってだれだっけ。
- Y なるものってどういうことですか？
- W 本物は最初から本物なんじゃなくて本物になる，何かが本物になる。
- L なんとなくはわかりますね。

- Y 要するに教養ってみんなが思うものの中には、体験して得るものもあるし、体験をと  
もなわないものもある。両方教養のカテゴリに入れる人もいるし、入れない人もいる。
- W で将来たぶん十年とかのスパンで「体験」というものがかわっていくんじゃないか、  
という話。
- L 現場に出る、何が現場かわからなくなってきましたよね。すごい怖くなる。
- W 「昨日の日本シリーズ見た？」っていうのは、テレビで見たらもう「見た」でしょ、た  
ぶん。
- L そうですね。
- W …なんかもう筋を見失ったわ (笑)。
- E 『地下室の手記』<sup>10</sup> みたいな状況ですね。この5人の中で勝手にリアルが揺らいでる  
んですよ (笑)。
- W 外はとっくに日が暮れてましたっていう (笑)。

10 ドストエフスキーの著作。

## 駒場生の思う教養人

- N アンケートの方に戻って、飛ばした問3に行きましょう。「この人は教養がある！」  
と思う人を挙げてください、という設問ですが…。
- W これ、教官ウケが非常に悪い質問でして。みんな、「やらしい」とか書いてて。
- N 深読みのし過ぎですよ、ちょっと出してほしかったですね。
- W 素直に言ってくれば良かったのにね。
- L 「こんな質問は教養が無い」って…なんででしょうね意味わかんないですよ、あん  
まり。
- Y で一方、学生はいろいろ書いてる。
- W 学生はウケがいいよね、これ。
- N そうですね。集計した感じで言うと、まあ立花ゼミということもありますから立花隆  
と言う回答は多いです。まあアンケート右下に思いっきり書いてあるわけですし (笑)。
- W これ相当バイアスかかっているもんね、立花ゼミだっていう (笑)。
- N 二番目は太田光ですよ、爆笑問題の。
- W きましたね。
- L 太田は番組やってるからね。
- Y なんかamazon<sup>11</sup>とか見てもそれなりに批判は入っていましたよ。
- W いやでも批判されるぐらいになんないと、やっぱり。
- Y 「教養って何か」というコンセプトの番組をやっていろんな先生とかに話を聞いて  
いるけど。なんか、意見がかみ合っていないと言うか…なんか、その「インタラクション」  
になっていないよっていうレビューがあったんですよ。
- W 彼がなんで良くも悪くもすごい評価される人になっているかって言うと、彼のしゃべ  
る言葉に関して「自分の言葉率」ってのがものすごい高い、あの人は。
- Y 自分の言葉率？
- W 自分の言葉率、僕らの平均が10%だとしたら、それでも高い方だと思うけど、彼は  
99%ぐらい本当にあると思う。で、自分の頭で組み立ててしゃべる言葉ってのをめちゃ  
くちゃ大事にしている、彼の本とか読んでてもすごい感じる。それを組み立てる力ってのを

11 巨大インターネットショッピングサイト。

教養って捉えたら彼は今抜群の教養人だね。

Ⓝ わかります。俺太田が話してるの聞いてて、「西田幾多郎がね、これこれこう言ってるのよ、本で」って言って、でその西田幾多郎の語りを自分の言葉で言えるって、すげえと思った。

Ⓦ あそこまで自分の言葉を持つてる人ってのはそういないと思う。表現ていう力じゃないのかなあれは。それに教養的な評価を与える人にはものすごいウケがいいと思うけど、「だから何なの」という立場の人には「なんかガチャガチャ言ってるな」みたいな。そういう受けかたされるんじゃないかな。

Ⓝ あと多いのは誰ですかね。東大で教えてる人多いんですけど。あの、伊熊先生とか。

Ⓨ 授業受けてる人が多いんだよね。

Ⓦ あれでしょ、外部の先生が多いってのも着目しといた方がいいよね。ここの教授じゃなくてしゃべりにきてる人。非常勤と言うか。

Ⓝ 大江博さんとかも多いしね。

Ⓦ 外務省のね。現役の。あと小松美彦さんとかも入ってたよね。

Ⓝ あとは姜尚中ですか。

Ⓨ 学生は自分の受けた授業をもとに回答しているってことですよ。

Ⓦ そうだと思う。

Ⓨ でも、授業一回受けただけで「この人は教養ある」なんて、ようわかるなと思うけどな。

Ⓦ まあそれは別に個人の判断だし。そんなんで見抜けねえよって？（笑）

Ⓨ そりゃあだって、自分の専門で研究してることいっぱいしゃべれて当たり前やないかいって感じですけどね。

Ⓦ 「単なる博識の人」って問題だよ。

Ⓨ そう、だから結構親しく付き合ってる人じゃないと「この人教養あるな」なんてわからん気もするけどな。

Ⓝ やっぱ深く付き合ってる人じゃないとあれですよ。

Ⓨ じゃあその、誰でも深くつきあうようになればいろいろわかるようになるものなの？

Ⓨ でもよく知った人でも教養ない人はたくさんおるしな…。

Ⓝ じゃあ、「ない」ってのはわかるんじゃない？「ある」ってのは判断しづらいけど。

Ⓦ あ、それは言えてる、反対の概念がよくわかるっていう。

Ⓨ インプリシットな定義しかできない<sup>12</sup> なんだね。

Ⓦ そうそう、それって結構面白い定義かもしれない。

Ⓝ そう、バイトしててお店の良さってのはあんま伝わらないんだけど、お店の汚さとかマイナスの評判でどうしてもかなり伝わってしまうから。同じようにやっぱり教養無い方がよくわかってしまう、でしょ。

Ⓦ じゃあもう、「教養のある人」イコール「教養が無いな、って思う人以外」ってことで。なんだっけ、補集合だっけ（笑）。

Ⓝ すごくネガティブな発想ですけどね。だから、「Q. 平和とは何か」「A. 戦争が無い状態」とか。

Ⓨ 他にこの人教養があるってのは…茂木さんがあがってますね。

Ⓦ 茂木さん本出し過ぎだよ。

Ⓝ メディアに出ていますからね。知名度は高いですよ。姜尚中と同じように。

12 「教養とは〇〇である」というふうにはっきりと決めることが難しい、ということ。

- Q けど、前書いてる本読んで結構面白かったで。
- A 医学部と法学部だけ。
- Q 他には麻生太郎も挙がってます。
- A 中沢新一も挙がってるね。中沢事件とかをみんな知ってるのかな。
- Q 川人さんも挙がってます。内田樹さんも。
- A よく新聞にも書いてる人ですよ。ゼミを開いている人は、書かれている確率が高いんですかね？
- Q そう、回答として「ゼミ開いてる先生は」ってのもあったし。
- Q 宮崎哲弥。
- A テレビ出てますからね。
- Q このおっちゃんもあんまり好きじゃない。
- A すごい勉強家だと思うって人もいるらしい。古いところでは夏目漱石、中島敦あたりも挙がってますよ。
- Q アリストテレスとか書いてる人はいないの？ そこまでさかのぼる感じは？
- A ないですね、そこまでの。
- Q サイドとか挙げたい。オリエンタリズム難しすぎて読みこなせない。
- A 方や「さかなクン」とか挙げてるのもあります。
- Q それはなに、うちらに対する挑戦？ それともまともな発言？ (笑)
- A 教養の定義がすごく揺らいでいる (笑)。
- Q タモリってのはどうなんでしょう？
- Q 村田純一先生の回答に「ビートたけしって答える人がいるけど、特に何も感じない」ってありましたけど。
- A 「反対はしません」みたいな。

## 授業の好み

- Q 問6・問7を一気にやってしましましょう。
- A 何が多かったの？ この面白い授業ってのは。
- Q はい、やっぱり母体数が多い900番(教室)でやる授業なんかはイエスもノーも多いですね。
- A じゃあ評価が悪かった方ってのは？ 900の授業かなやっぱり。
- Q そうですね。あ、集計して気づいたことですが、批判にも良い面を挙げるのにも、僕が目立つなと思ったのは、「体系的」って言葉です。結構みんな「体系的」という言葉を使って批判してます。
- Q それは教える内容？ それとも教える体制？
- Q 内容の方です。この授業は先生が体系的な教え方をするというか、段取りというんでしょうか。「体系的に学べてよかった」とか。
- Q それは評価される方向で？
- Q にも使ってる人もいるし、逆に「授業が体系的じゃなかった」と言って。散漫だったとか。
- A 俺、散漫でも全然良いんだけど。

- N** あ、だから教授が自分の趣味をつらつらと語る感じでも全然良いつてことでしょ？  
**W** うん、俺そういうの大好きだから。そもそも俺体系立った授業なんてそんなに記憶にない。そんなにあったかな。例えばどういうのが挙ってるんだっけ？  
**E** 体系立った授業として認識して受けてるわけじゃないんですよ（笑）。  
**N** 演劇論とか、挙がってます（笑）。  
**W** 演劇論!?（笑）  
**L** 母体数が少なすぎる！（笑）  
**N** 古今和歌集の国家による利用を扱ってましたって書いてある。内野儀先生です。  
**L** 例えば歴史もカオスに学ぶよりも…。  
**Y** 歴史って最たる例じゃないんですか？“体系”が良いのか悪いのか、っていう。  
**W** でもあれは体系として整理しているわけでしょ。  
**Y** まあそれを歴史だと見ればしょうがないんですけど。  
**L** フランス革命やって、中国三国志やって、冷戦時代やって、つてのも楽しい気もするか。そういう勉強の仕方もありか。でも僕たち高校時代からは歴史は因果関係因果関係つていって『ドラゴン桜』でもやってたやん。  
**N** やってたね、後ろから歴史をさかのぼるやつでしょ。  
**L** うん。理由を見つけ出すのが歴史だっていうけど。  
**Y** それ、全部だいたい理由が見つかるか、あるいはこじつけられるものが出てくるんですか？  
**L** まあせやねんけどな。こういう事件があったからこうなって、でそんなときは国民がこういう不満を持っていたからこうなって…。  
**W** あれ嘘だよな。  
**L** そうすよね、何でお前国民の気持ちかわかんのやって。おまえナポレオンの気持ちわかんのかって（笑）。  
**Y** それはもう経済動向の解説も同じようなりアクションですよ。例えばなんかの株価でも良いけどいきなり値上がりしたとか値下がりしたとか、解説つきますよね。「ここはなんでこう動いたか」という風に。「後付けだろ」って感じもしなくはない。  
**E** じつはその日投資家が風邪を引いて、とか（笑）。  
**N** 桶屋が儲かった、とか（笑）。  
**W** 北京で蝶が羽ばたいた、とか（笑）。  
**L** そう考えるとおれも体系だった議論はあんまり好きじゃないのかな。  
**Y** だからなんか、「所詮後付けじゃないか」っていう感じを抱いてしまう。  
**N** 「良かった」って意見が多いのは、伊熊幹雄先生ですか。近現代史、国際政治と国際報道。  
**W** 伊熊さんの授業って俺も出てたんだけど、授業がめちゃめちゃ上手いよね？  
**E** 上手いです。  
**W** BSの特集とか結構多く使ってて、常に画面の上にBS1とか出てるよね。で、レジュメも新聞社だからめちゃめちゃ上手くてさ、あれ読売の寄付講座なんだよね。  
**N** つまり伊熊先生には伝達能力があったんすよね。  
**L** それがコミュニケーション能力ですよ。それがサッパリ無い人間がおるんですって。  
**N** その次点としては、大江先生の国際関係論。

- W そのふたつはさ、社会に出て求められる知識的なニオイがしない？ あの、本屋の就活コーナーの、なんだっけ、そう、SPI<sup>13</sup>とかの時事の問題とかに。
- N うんうん。他には国際関係と同じくらいの人数で基礎演習もあがっています。
- L 基礎演習メチャクチャ楽しかったですよ。
- N うん。自分で組み立てるのが楽しい。だから唯一、与えられるんじゃなくて自分からやって発表する授業ですよ。で、悪かった方の授業の代表が「情報」です。
- E いや、情報が嫌とは言っても、なんだかんだでみんなネットは使いますよね、パソコン。
- N だから、だったらそういう内容にすれば良いじゃん、ていう。
- Y そういう内容とは？
- N だから、メディアリテラシーとか…。
- W いやもう、俺メディアリテラシーとかいらんと思う。HP つくるとかそういうのが良いと思う。
- Y メディアリテラシーってどういうこと教えるの？
- L だから情報倫理やんか、それが正しいのか正しくないのかを見分ける。
- W え、そんなん習った？
- N 習いましたね、額面通り。まあ「YouTube 見てた」って意見もありますけどね (笑)。

13リクルートマネジメントソリューションズ社製の就職採用テスト。現在はSPI2が導入されている。

## 授業をする授業？

- W ちょっとじゃあ次、問8。これ楽しそうじゃない？
- L 「教室の外にでる授業」とか。あ、「立花ゼミ存続を求めます」これ (笑)。
- Y 「授業をする授業。自分が授業をする側に立つ」。
- W あ、それ面白い。授業をする授業いいね。
- Y 「フィールドワーク」「業界について知りたい」。
- W ああ就職志向ですな。
- N 「現役国会議員の講義があれば聴きたい」
- W 絶対聞かないわ (笑)。
- N みんな官僚になりたいんすね。まあ、方や「出席なし、期末テスト出るだけで優」とかっていう走り方もありますが。
- W いや、期末テストに書いたもの次第でしょ、それは (笑)。Lはどうなの？ どんな授業があったら受けたい？
- L 僕ですか？ そもそも僕はもっと研究室とか行きたい。いろんな人としゃべってるのが好きなんで。
- N だから少人数授業っていう意見は多いですよ。
- W ちょっとそれにするには3000人が多すぎる。無理な数字なんだよね、ちょっと。
- L まあそら限界はあると思いますけどね。ゼミはいい機会なんすけどね。
- E 一時期東大って最初ほとんどゼミにするみたいな雰囲気があったんじゃないかなかったですっけ？
- W 読んだ。俺も読んだわ、それ。「所属教員は全員ゼミ持て」って計画した時代があったんだけど。いつだっけあれ？

14 前章の教員向けアンケートに回答して下さった矢口祐人<sup>ゆうじん</sup>先生のこと。

- E 戦後すぐ、ですね。  
 Y それは人数が少なかったから？  
 E いや、人数があまりに多すぎたから立ち消えになった。  
 W あん時はどんぐらいだっけ？ 2000人ぐらい？  
 E そんぐらいじゃないんですか？ ハーバードは少人数教育でまわしてて。で言いかけてましたけど、コマ数が少ないんですよ。  
 Y それは必修の？ とりたければとれるんでしょ？  
 E そう。しかも必修系の授業が週に2コマとか3コマって。文系理系とかもそんなに関係ないんじゃないかという。専門に関する基礎的で幅広い体系的な知識を、四年間で身につけるっていうスタンスらしいんだけど、実際行ったことないから知らないです。というのがホントのところ。  
 Y その辺は矢口先生<sup>14</sup>に訊きたいですね。  
 N そう、矢口先生も「一年生で週20コマとるようなカリキュラムは論外。そんなに勉強できるはずがない。その意味でカリキュラムは失敗。でも、20コマの中でなにか考えるヒントになる授業が3つあれば、それは成功かも。」と書いている。  
 W その通り！  
 Y 要するに、「良いやつ3個あればあとはいい」わけだ。  
 W 3つあるってのは結構幸福な状態じゃない？  
 E 正直そしたら俺は残り17コマは出たくない。  
 W でなきゃいい（笑）。  
 L そしたら今俺は立花ゼミと哲学IIかな。  
 N それで充分ってことでしょ。その2つに終始したい。だからぶっちゃけ一週間に2コマでも学び続けることはできる。モチベーションが高いから。  
 W さすが立花ゼミ生だな（笑）。  
 N だから今の時期なんかはもう授業なんか出ないでずっとゼミのことしてたほうがためにもなるし…。  
 E 絶対それは自信がある感じ。  
 L でもそれは実際どうなんすかね、自分の好きなことを勉強してるだけだったら、例えば文系が理系科目をとらなアカンてのは僕たちにとってもジレンマですよ。  
 W それは面白いからやればいいんじゃない？  
 E 面白くなければやらなくていいというスタンスで？  
 W いいんじゃないですか？（笑）  
 Y だから、「ムリヤリ文系に理系の内容をやらせる意味はあるのか」という意見が出るわけですよ。その逆も然りですが。  
 L 生物を絶対勉強しやなという、立花先生の話は…。  
 W でもさ、そういうのやった人が「面白いぜ、ここまで来てみろ」みたいな風に語るのを感じない？ どう？  
 E 文系と理系の垣根を軽々と越えた方々が？  
 W 俺はそういうの感じるからすごくやりたいと思うけど。

## オールラウンダー

Q おれ一番モヤモヤしてんのは、自分の勉強したいことをしていいの？ ってこと。なんか、リベラルアーツって、理系のこともしながら、いろんな広い分野のことを勉強しなくちゃならないってことなんでしょ？

A しなくちゃ、というか「したきゃ、しな」みたいな。

Q それでいいんですか？ 例えば文系の人で文系のことのみを、哲学好きが哲学のみをずーっとやったらそれは教養って言っていいんですね？

A いや、たぶん歴史的にはちがうでしょ。3学4科とかそういう話が出てきて。

Q 要するにやっぱ、学びたくない教科でも多少はやんなきゃいけないということですか？

A まあ文系とか理系とかそもそも分けてるのがどうかって話もあるし。そういう一括りの言葉で全て言い表せてるわけじゃないと思う。

Q もちろんそうすけど。少なくとも今は、ABC 系列と DEF 系列でってこと。数学は誰がどう考えても理系やん。

A でもやっぱりある程度は強制してやらせないと見えてこないんじゃない？

Q そこら辺がよくわからないとこなんですよ。

A それが「駒場まで」なんじゃないですか？ 専門まで行けば「おまえの興味ないことなんかやなくていいし」みたいな。

Q だから、もっと履修の数を減らして自分で自由に勉強させていく、自分で勉強しようっていう雰囲気を作っていくかな。自分で勉強する力ってのが必要やと。ですよ。でも「教養とは幅広い知識のことを勉強することだよ」って言われたら、それすごい矛盾してるじゃないですか。どっちやねんっていう。

A まあ答えはどっちもなんじゃない？ (笑)

A でも個人的には専門馬鹿でもいいと思うけどどう？

A ていうか実質教養学部っていても、それをつくってる先生って全員専門の寄り集めでしかなくて (笑)。

一同 そうそう。

A それをつくってるのはお前らのくせに。

A 言葉は悪いですけど、教養学部、後期の教養学部でもそうですけど、なんかやってることは究極、理学部とかなんとかなんとか学部とか、中途半端なものを寄り集めただけだろうって。

A それなのに、学生にはオールラウンダーを求めるって言う奇跡のような願望を持っているわけですよ (笑)。

N オールラウンダーねえ。

Q 俺の意見としては、教養で出てくるの二つの意見「自分の学びたいように学ぶ」と「幅広く学ぶ」、その二つってどう考えても両立しないじゃないかって。

AEW うん。

Q 自分で学ぶ姿勢でありながら、すべてのことをオールラウンドに学ぶ。謎すぎるこの設定 (笑)。

A 適当に折り合いをつけてこなしていくのが正しい東大生の姿。

- ㊦ あー、適当に単位そろえて。
- ㊧ やりたいことはしっかりやとくと。
- ㊦ サークルとか。
- ㊧ 社会に出てから大事だし、みたいな。
- ㊦ そうそうそう。インターンシップに行ってきます！みたいな。
- ㊧ 就職の話もしなくちゃいけないんじゃないですか？ 絶対外せない大事なテーマでしょう、これは。

### 就職活動と大学

- ㊦ 3年生から就活するな、ってやつですか？
- ㊧ だってそこから就活始めたら2年の後半から3年の前半まで、一年くらいしか専門教育を十分受けられる期間がない。めちゃくちゃな大学だな（笑）。
- ㊦ え、就活している人って、ほんまにそんな就活ばかりに頭いっぱいになってるんですかね？
- ㊧ だってその後の何十年が決まるんだぜ。
- ㊧ 学業に専念できているか、って言われたら…。
- ㊦ そもそも大学生が就活するような社会でいいんかと。
- ㊧ そういえば立花先生が相当前に、企業が就活していい時期が決まってたって。
- ㊦ その決まり、いつ破られたかわかる？
- ㊦ 青田買いをしまくるわけだ。
- ㊧ 就職ってというのは教養に反することなんですか？
- ㊦ いや、全然そうは思わないけども。
- ㊧ 就職したら教養はなくなるか、いや、教養を得る手段はなくなるか？ というのも一つの問いでしょうね。
- ㊦ 極論すると、すし職人ですしのことしかやってない人だって教養はあるかないかって言われたら関係ないよね。この人教養ねーよって言えるはずがなくて（笑）。でも今の時点ではかみ合っていないんじゃない？ 大学の教養教育と就職活動。
- ㊧ 全然かみ合っていないです。何を学んでいたか、そんなに影響しない。
- ㊦ 東大がそういう場所であっていいのかってことですよ。それをその辺のブランド力だけでいい会社に入ろうとして東大に入ってくる人もいる。
- 一同 うん。
- ㊦ すばらしいじゃないですか。
- ㊦ それでええのんかと。
- ㊦ ㊦ 別にいいんじゃない??（笑）
- ㊦ 結局好きにすれば？ っていう結論になっちゃうから。俺が。

### アカデミックフリーダム

- ㊧ そもそも大学ってどうやって出来たかという、ほかの大学はユニバーシティの自発の理念からできたというけど、東大の場合は、立花先生が書いてたと思うけど、(天皇を

含めて)“お国のため”にできたっていうことがありますね。それは今どうなってるんですか？

Q 今って大学，自治…いや，なんていうか。

A 独立行政法人化？

W でもさ，アカデミックフリーダムの話，立花先生と企画立ち上げの時点が出てたよ。題名にアカデミックフリーダムを入れるかって話も結構あって，「アカデミックフリーダム」ってどういうことですかって聞いたら，学問をする自由だとか，発表をする自由とかって言うのを考えると，カリキュラムを決めるのは文科省でいいのか，ってところまでいくわけで。

Y 国でいいのかって。

W そうそうそう。だから，大学もまだ全然縛られてるわけでしょ？ そういうのはいいのかって話を結構して。最初これになるのかなって思ってたんだけど。

E そうですね。中央教育審議会には大学分科会ってというのがあって，大学の教育について相当の権力を持っていますからね。

## 進振り撤廃？ 科類撤廃？

W じゃ，問9に！ これ，今回の核じゃない!?

Y そもそも東大総長って何してるんですか？

W いや，何してるんだろ？ 知らないんだよね，俺。

E なんで書いたんですか？ これ(笑)。

N たしかにこれは雰囲気だね(笑)。

W つまりそう，一番伝えたいことが伝わるかなあって。

E つまり総長って言うのは美辞麗句みたいな。

W そうそう。

E 東大の教育をばっちり変えられるとしたらどういう，ってことで。

Y 総長…取材受けてることしか知らない。

W 取材と，あとハンコ押してる感じ？ どうなの，みんなの意見は？ アンケートでもいいし。俺はまず人数削減だよ。

N ありますねえ。

W ちょっと多いでしょ。

Q 3000人はねえ。

W 食堂とかやばいことになってるし。

Y これ，高校生に聞いたらどうなりますかね？

N 一年前の俺だったら絶対いやだな。

Q 俺たちが入る前に削減されてたら，そらおかしいやろって(笑)。

W 倍率があがっちゃうし(笑)。

Y だから，入る前の高校生は何も考えない，って言うのとあれですけど，内部のことを知らないね，ただ入りたいていう。

W そうそう。そういう人が多いでしょ。

Y まあ，自分で考えるか，他からそういう風に励まされてくるか。

- Q やっぱあれなんちゃいます？ 進振りで入りたいところに入らして、授業ついていけないやつは切るっていう。
- W アメリカ式。
- E 卒業できるのが3割，という。
- Q 少なくとも今の点取り合戦よりはええと思うんやけど。
- W じゃ，進振りで点数なし。
- Q そうです。ようするに行きたいところに行かせる。
- W なんで駄目なんだろうね？
- Q 教員の数でしょ？
- Y 柔軟性がないっていう。
- W だから進振りも基本希望通り。いいと思うんだけどな。そんなに乱れると思う??
- E どうなんですかね？
- N 泣くのはどこだ？ みたいな。
- E 最先端の少数精鋭みたいなところに駄目な学生が殺到すると，若干テンションさがりますよね？
- W 淘汰されればいいんじゃないの？
- E 最終的に残れるの20人だよ，5分の1に落ちるよ，みたいな。
- Q そうそうそう。
- W 文三から医学部行きたい人ってさあ，いないのかな？
- E たしか文一いましたよね。
- W だからもっと潜在的な母体は多いんじゃないかな？ どうなんだろう。
- Y 点数がこれだから諦めてる。
- W 点数もそうだし，要求科目も。
- Q もしほんまにそうになったら東大目指す人めっちゃ増えると思いますよ。文三からでもひとつとびで医学部いけるなら。
- W じゃ，二次の入試で理科社会全部やらせる，みたいなことをやったら，そんなに生物の知識がさ，欠落した人が医学部に行かなくて済むんじゃないの？
- N 「科類撤廃」っていうのもありますね。
- W あるね。でも今，後期入試<sup>15</sup>とか見てるとそういう流れがあるのかな？ どうなんだろう？
- Y もう文理を統一する方針じゃなかった？
- N そうか，統一するの。
- Y 今年も文系理系一緒ですよ？
- W あ，後期入試の話ね。でも，もし高校のときに，東大が，文一とかなくて教養学部だけだったら，すごい惹かれるわ。
- E どきっとしますね。
- W どきっとする。やるじゃんっていう（笑）。なんか粋な感じがするよね。

15 既存の国数英社理の枠にとらわれない入試問題で選抜し，理科三類を除く全ての科類に進学できる。平成20年度から新たな形式に切り替えられた。

## 入試に関して

- Q 若干みんな疲れてる感じが（笑）。

- E ここで絶好調のはずなのに (笑)。
- W 今日の出席者の幅広さ、北から南まで。なかなか面白い。
- N 面白いですね。みんな公立？ 私立？
- N 私立です。
- W 高校だけ？
- N うん。
- L うち、中高一貫。
- W じゃ、6・6・4？
- L そうですね。
- W でも、実際どうなの？ 二次の入試で社会理科やらせたら面白いとおもうけどね。
- N 負担増えるだろうなあ。もうやりたいことやらせればいいんじゃないの？
- W どういうこと？
- Y いや、だからやりたいこととか、やってきたこととか。
- N 面接やってしゃべらせればいいですよ。
- Y それか、今論文結構書かせてるから。
- N 東大も後期は書かせる書かせる。
- Y それを全部自由記述にさせて、好きなことを書けって。
- E お前の輝きを見してみろ!! みたいな (笑)。
- Y 表現する側からしたら一番やりやすいと思うんですけど。こいつは面白くないと言っ  
て切られる側は…。
- E (笑)
- N 当然文句は出るでしょう。でもねえ。
- Y 今ほどではない。
- N ま、不可能な話ではないんですけどね。だって AO<sup>16</sup> ってのはそれをやらせようとし  
たんでしょ？
- W いわゆるこういう座学の教科で選ぶのをやめようっていう。大胆だね。
- N それは、AO でしようとしたけど、はじめの1、2年は良いやつが凄く入ってきた。  
ただ、もう予備校が対策立てちゃって。で、高校も対策をし、いかにも僕は輝きを持った  
生徒ですっていうのを植え付けさせて、ぼーんと試験に送り出して、対策通り書くから、  
もう意味ない。
- W 大体自分で書いといて、「自分が輝いてる」なんて書くやつは絶対大したことない  
(笑)。
- L 僕だめなやつです、って書けば (笑)。
- E ニート地で行ってます、みたいな (笑)。
- Y 例えば、試験室に一日閉じ込めて、何万字って言う文を、何時間かけてもいいから一  
人で書けっていう試験をしたとしても、対策って可能ですかね？ 予備校なんかで。
- N 準備していけばいいんでしょ？
- W 絶対やるよ。それは絶対。
- E 例えば、フランスのバカロレア<sup>17</sup> ってあるじゃないですか。これって進学校の生徒  
なら有名な哲学者の文言を覚えていって、それを引用する形で書いて、文字数を稼ぐとか  
いろいろあるんですよ。
- W あ、そうなの？

16 「アドミッションズ・オフィス  
Admissions Office 入試」の略。

17 フランスにおける大学入学資格  
を得るための統一国家試験のこと。  
初日の哲学のテストは国家規模の注  
目行事。

- E そういう風に4時間ばーつと書き続けてバチつと10枚くらい綴じて、受かった！みたいな。  
 W 入試の科目って東大でも減ってきてるんでしょ？  
 E 元々理科必須でしたからね。  
 W だよね。  
 E 文系理系あんま関係なかった。  
 Y あ、そうなんだ。なんで変わったんだろう。  
 W しかも昔は時間も全部同じとかじゃなかった？全部まとめて何時間みたいな。  
 L そうだったんですか？そら知らなかった。  
 Y それ、体力勝負じゃないですか？(笑)  
 W だから、「数学をやりすぎて時間が後何分だった」みたいな話、小説とかに出てくるよね？  
 E そうですね。遠藤周作の本<sup>18</sup>とか。  
 W そうそう！

18 『灯のうるむ頃』にその記述がある。

### 「進振り」ふたたび

- W うちのコンセンサスとしては、「今の進振りはおかしい」ってのは打ち出しているの？  
 N とりあえず、進振りを変えるって書いているひとは多いです。ほんとに多いです。「進振り廃止！」  
 E これはコンセンサスを打ち出して、何らかの意見書をつくるんですか？それとも。  
 Y 「教養の何たるか」に関して、「コンセンサスはない」というコンセンサスが得られた気がします。  
 E 俺もそう思う(笑)。  
 W 建議で出せばいいじゃない(笑)。でも実質さ、おれが数学科に行こうと思ったら、もう一年の最初から、理系の科目をうまく組み込んでいかないといけないんだよ。  
 Y システム上ですか？  
 W そう。あそこはね、数学科なのに物理もやらなくちゃいけないから。  
 Y そうなんですか？  
 W そう。  
 N だから、ギャップがあるんすよ。入る前と入った後に。  
 W そうそうそう。だから大したことないんだ、この進振りのシステム。  
 N 入った後に2年間あって決められると思いきや。  
 W その、振り分けに関しては大したことないんだよね。  
 L どこに誰行くかは決まってる。  
 E 昔はもうちょっとかっちりしてたんですね。  
 W まあ今は全科類とかあるからねえ。  
 N ほか行ったらまた感じが違うんだろうな。  
 W そうだろうね。ほか知らないからね。  
 N 俺たちがいくら「腐っている」と言っても。

W まだ食べられるほどの腐り具合かも (笑)。

一同 (笑)

W どんだけ卑下してるの、うちら (笑)。

N 問9は他にもいろいろ意見が。

Y 「もう少し英語を話す環境が欲しかった」

N 「英I無くす」, 「語学は自分でやりたいと思う」, 「各自でこなした方がやる気が出る」。

L 一高の人から聞いたんですけど、第一外国語がドイツ語でな、第二外国語が英語だったって、なんかすごいことですよ。

W もう外国語がメインでしょ、旧制高校って。

L そうですよ。教養学部の初めっていうのもやっぱり外国語なんですよ。

W 外国語とリベラル・アーツっていうのをいまだに引きずる感じ。

N ひいては「理系の授業の授業を全部英語でやれ」っていう意見もありますよね。

W まあ、全部とは言わないけどねえ。英Iってちょっとそれに近い感じで、俺割合好きだったんだけどなあ。

### 6・3・3・4 制の組み換え案について

N どんな案があるの？

W 6・6・4。

E あとは、6・5・3・3。

W 6・5・3・3ってさあ、6・5・3で切って、その次は行きたい人は行く感じなの？

E そうですね。

L 最初の3で教養ですよ。

E 最初の3で学士課程っていうふうにして、最後の3で専門的なところをやっていくと。

N 6・5・3・3の特徴を述べると、教養(課程)が長い。

L だから、6・5までで、高校までを終わらせるってことですよ。

W でもかわいそうだよ。5年間はさ、受験に費やすわけでしょ、基本的な路線としては。

E その前に小学校の段階で受験勉強が生じるわけですよ。そこで選別が起きる。灘中学に入ろうみたいなことが全国的に起きることになる。

W かわいそうだな。

Y 中学校受験…どのくらいの市場なんですかね？

E 結構でかいんじゃない？

W 東京都は3人に1人は中学校受験じゃなかった？ 確か全国平均の3倍ぐらいじゃなかったかな。

L へえー。でもうちらはあんまり受験を体験してきた組じゃないから、何とも言えないんとちゃいます？ Nくんはどうやったの？

E 確か中高一貫のところには高校から入ったんだよ。

N そうだね。

- W じゃああんまり中学校受験を語るメンバーじゃないんだね。いや、でも、開成の人たちとかをうらやましいとは全く思わないでしょ？
- E それはないですね。
- W じゃあ6・5にしたいかっていうと…。
- E いやー。
- W だよな？俺は6・3・3で自分の行った高校でいいと思うんだけど。
- Y 6・3・3・4の何がいけないのかってことですよ。
- W まず、4の中に教養教育的なものと専門が詰まっているってのがあって。
- L ようするに6・5・3・3は、大学の教養の方を伸ばしたいから、下の方をくっつけて短くしたって話なんですよ。
- E そうだね。でも、あとの3年を加えなかったら、6・5・3で20歳で就職になりますから、ほぼ短大と同じになりますよね。だから、たぶん大学側のフォーカスは最後の3年に移りますから、教養課程の3年間はばっちり守られると思いますけど。就職活動はまた別の問題として…。
- W そうだよな。
- E 就活はばっちり最後の3カ月ぐらいでしっかりやれよ、とか思いますけど。大学側もその期間を設けるとかすればいいと思います。でもまあ、6・5・3・3はうれしくないなあ。5に行きたくないもん。
- N 行きたくないですね。
- Y 要するに受験が嫌なんですか？
- N 6・3・3を知っている人間だからそう言えるんですよ。
- W そうだね。
- E 韓国は中学から高校に移る時に受験がないから、大学受験が過熱するっていう問題があるんですよ。
- Y 「受験がない」というのはどういうことなんですか？
- E 地方の教育委員会みたいなのが、住んでる地域とかで自動的に割り振っちゃうんですよ。
- W じゃあ日本の小学校みたいな。
- E そうそう。
- Y じゃあ、韓国の小中学校はどうやって決められてるんですか？
- E え、それも住んでる地域とかじゃない？
- Y じゃあ、日本と同じではない、ということ？
- E うん、だから高校までは住んでる地域とかで勝手に割り振られて、まあ、成績で職業高校に移っちゃう部分もあるんだけど、そこまではだいたい競争なく進んでくる。
- Y じゃあ、みんな10年来の友達とかがいるんだ。
- E どうなんだろう、それは知らんけど(笑)。それで大学受験でようやく競争が起きて、そこだけでしか分ける部分がほとんどないから、すごい過熱する。
- Y 大学の受験しかない。
- E まあ、一部の高校はすごい選抜っていうか…。
- W 超エリート校だね。アイビーリーグ<sup>19</sup>に送り込むっていう。
- E そうですね。
- N 6・3・3・4じゃだめなんですかね。

19 アメリカ北東部に8校ある名門大学の総称。

- Q みんな常識的に6・3・3で楽しく過ごしてきたんですよね？ いや、たぶん6・3・3じゃなくても楽しかったとは思うけど。
- A そこに矛盾を感じるほどでもないよね。
- Q いやでも俺4には異議あるわ、確かに。6・3・3の次、3やっぱり教養（課程）で取って、そこでもう切っていいと思うんだけど、どうなの？ 就職組とちょっと学ぶ組に分けるってのは。
- A それは教養学部として独立しちゃってってことですか？
- Q そうそう、ジュニアのコースを作って、そこで卒業してもだれも困らないと思うんだけど。
- A まあ、専門何学んでたかは、あんまり就職には関係ないですからね。理系なら関係あるかもしれませんが、文系は特に。
- Q そうそう。それ以上やる人は後の3年に行けばいいんじゃないかな。
- A 教養（課程）は無しっていいのはいないんですか。
- Q どういうこと？
- A たとえば俺がこのアンケート見た中には、他大学に比べて教養（課程）がある分、専門課程が遅れて、一緒の所でコンペとかに出すと絶対に落ちてしまうと。まあ、これは建築なんですけどね。
- Q じゃあ東大来なければいい。ただ知らないんだよね、中のことを。
- A そうなんですよ。

## 「リベラル・アーツ」の実際

- Q 1年半のリベラル・アーツってどうなんですか？
- A まあ、全然「リベラル」ではないですよ。自由ではない。
- Q 入る前からリベラル・アーツってこういうもんだってわかってる人って、そういないでしょ。
- A 「リベラル・アーツ」というのは、東大の実態ってことですか？
- Q そういう意味。駒場の実態。
- Q ちょっとだけ質問なんですけど、たとえば僕たちがその、北海道大学の文学部とかほかの大学に行って、こういうリベラル・アーツは勉強できないんですか。「パンキョウ」で。
- A 「パンキョウ」って何？
- Q 一般教養のことをパンキョウって言うんだよ。ほかの大学にはあるんだよね。
- A そうなんだ。一般教養“コース”みたいな感じ？
- Q いや、普通の授業の中に一般教養の授業があるねん。
- A 自分でいろいろ選択できるの？
- Q 選択できるよ。
- A じゃあ、文系が量子論とかもできるの？
- Q できるんちゃう？
- A まあ、でもそんなになんないんじゃない？
- A 開いている教授がいれば取れますけど。

- Ⓔ ここまでメニューは豊富じゃないんだ。
- Ⓕ まあ、もちろん。
- Ⓖ メニューこんなに豊富なのに、なんでこんなに魅力ないんやろう。
- Ⓗ 形だけだからじゃないですか？
- Ⓗ アンケートにも、「メニューは豊富だけど結果が来ない状態」っていう意見あったよね。ただ、学生を見てよく思うのは、不満がありすぎるっていうか、不満に終始するやつっていますよね。授業は全部ひどいとか。あきらめすぎでしょ。探せばいろいろあるじゃないかと。学ぶ態度がないだろお前、って思うね。
- Ⓖ とりあえず活用しようという気概がないわな。
- Ⓗ そうそう。東大をもう少し活用できたらと思うな。もう少し単位どうこうとかじゃなくて、もうちょっと良心的に、学問的なレベルで会話ができたらよろしいんちゃうの？
- 

まだまだ話題は尽きない。「『教養』の捉え方や教育の“理想像”が人によって千差万別である」ということだけは、はっきりとしたのではないだろうか。

## 5 インタビュー集

## 1 篠原一氏

しのはらはじめ

篠原一氏：政治学者。

旧制第一高校を昭和19年9月卒業。その後、昭和25年に東京大学法学部政治学科を卒業。

現在、東京大学名誉教授。

### 一高時代の勉強

1 かつて駒場の地にあった旧制第一高等学校の通称。

——一高<sup>いちこう</sup><sup>1</sup>には何年からいらっしゃったんですか？

僕は昭和17年に入って、戦争のため卒業が繰り上げになって、3年間で2年半になったんですよ。だから僕は19年の10月には東大の法学部に入っていたわけですよ。僕の前から2年半になったんじゃないかな。

——一高のカリキュラムについて教えてください。

一高自体は、どういうカリキュラムかって言うと、元来は語学しかやらない所なんです。あとは自分で読めてことですよ。

僕の理解ではやっぱり一高のプリンシプルは自律（オートノミー）だと思うんですよ。だから自分が勉強したりなんかするために、語学をやっておくと。これは、ドイツ語ならドイツ語、フランス語ならフランス語をやって、自分たちで文学でも哲学でも読めという趣旨なんですよ。

だからこのカリキュラムを端的に言うなら、語学だけ。ただし2年ぐらいたつと、それだけやっていますから、文学や哲学は原書で読めるようになります。授業でも2年になるともうゲーテなんかやるんですから。

自分たちの勉強っていうのは自分でやる。そして教養についていえば教養エリート主義なんですよ。当時のヨーロッパ近代社会の教養っていうのは古典主義なんですよ。だからここでもですね、古典を読まなきゃいかんのですよ。古典の方は語学によって違うんです。フランス語の人はフランス語の本、ドイツ語の人はドイツ語の文学や哲学の本を読むといった具合です。

なんか強られるわけじゃないんだよ、学校とかに。ただ寮に入るとなんか読まなきゃいけない雰囲気になるわけね（笑）。さもないと軽蔑されるわけじゃない、話についていけないわけだから。

——そうですね。

僕らのころはいわゆる浪人が普通だったでしょ。僕らのクラスに浪7とか浪8がいるわけですから。その人たちは物事を深く知っているような顔をしているわけですよ（笑）。

——なるほど（笑）。

で僕は四修<sup>よんしゅう</sup><sup>2</sup>なんですよ。だから一番若造で軽蔑されてるわけ。そうするとますますね、これはいかなんという風になって、一生懸命みんなが読むようなものを、買ってきて読むわけ。

でも読んで分らないんだよ（笑）。

——身になったとかではないんですか？

2 旧制中学校（5年制）を4年で修了すること。

身にならないんですね (笑)。哲学とか、大作の文学とかっていうのはですね、読まなきゃいけないから読んでるんだけど、頭からどっか飛んでっちゃうんですよ。で、僕はそれでいいと思うんです、正直なところ。

## 若人の教養とは

要するに、自律した判断で選んだってことですよ。それで、わかんないわけでしょ。いまわかんないことがあっても、今度はわかんないなりに、わかる方へ自分なりに選んでいくわけですよ。

教養というものは、なんかこう一種の旅だと思うんですよ。自分で主体的に選んで、わからない。しかしそこで全部わかるなんてどうかしてるんで。自分でやって選択してるから、選択していくうちに自分に合うものがだんだんわかって行く。いまだって、自分で読んだものだって、全部理解しているわけではないですから。だからまたしばらく経ってから読むと、ぜんぜん違う読み方ができるわけですから。

僕にとって一高時代っていうのは、なんかそういう自分の知的な形成の入り口だったと思うの。内容じゃないの。プロセスなの。わかんないって言って選んでいく、永遠のプロセス、未完のプロセスだと思うんですよ。だから僕はいま 83 歳になるんですけど、いまでもこのプロセスを続けているわけですね。そういうもんだと思います。なにかを決めて、こういうもの読みなさいっていうのじゃないと思うんですよ。

## 教養科目と専門科目

どの程度専門科目を東大の前半期間のなかに持ち込むか、っていうことはいつでも学内で審議の対象になってました。その妥協案として、第四学期に中心科目を出して、重要なこと、基礎的なことはその第四学期で済ましてきてもらおうという風に妥協するんですよ。でもね、ほっとくとだんだんね、下のほうまでおりて行っちゃうんですよ。

でも、当時の先生たちは、やっぱりそれはまずいと考えていた。要するに一般の教養的な社会知識、人間としての智慧 *wisdom* を持ってないで、専門に入ると非常に特化しちゃって、まずいんだと。だから 2 年間はこっちの駒場に任せて、3 年間本郷っていう、5 年制にしようっていう案があったんですよ。

——へえー！

これはかなり有力だったんです。実行されそうな形になっていた。法学部の中では構想はほぼ固まっていたんです。僕が 50 代ぐらいのときじゃなかったかな。

でもちょっとエゴイズムなんですね。東大だけ 5 年制やったらどうなるかってことなんです。実現可能性も乏しいですしね。東大だけエリートだってことになっちゃってね。

この頃は専門科目が大きく入ってきちゃってるしょ。

——文一は第三学期から専門科目がはいりますね。

そうでしょ。三学期から入るようになってしまう。だんだんそうになっていったんだけど、元来は先生たちは旧制高校の出身者だから一種の哲学があるんですよ、あんまり専門科目が早くから入らない方がいいっていう。

今は、法科大学院ができて、要するに専門はそっち行ってやりゃあいいんだというこ

とになりつつ。4年間はリベラル・アーツ的でいいじゃないかっていう議論はあるんですよ。だから逆に今度はあまり踏み込めないんじゃないですか（笑）。でも僕は4年間リベラル・アーツ、より正確に言えば、現代社会の多元化に適応した、やや専門化した学部制でいいと思うなあ。

——へえー。

法学部出た人とそれ以外の学部出た人が法科大学院に行くと、片一方は2年で、もう片方は3年っていうことになってますね。

——そうですね。

アメリカだったらもっとはっきりしていて、日本学やっている人が、ボンと法科大学院やビジネススクールに行ったりするわけで。それが元来の趣旨なんじゃないですか今度の法科大学院の。

### 進学振り分けと大学院の拡充

——進振りに対する所感をうかがいたいです。今回東大の教養学部生にアンケートをたくさんとったんですが、進学振り分けに対する不満が膨大なことになってしまって。教養学部の自由が失われているっていう感覚があるんですよ。進振りのための勉強に汲々として…、旧制で言ったら、一高で受験勉強をしてる感じなんです。本末転倒ではないかと。

じゃあ全部やめちゃえば。東大に入ってから席次競争ほどあほらしいものはないね。

——ですよ（笑）。僕たちの中でも共通意見なんです。行きたいところに行ければいい。

しかし全く自由にしようと言ったって、本郷学部側が受けないでしょうね。

僕も名案ないなあ。一つ言えるのは、入る前からある程度決めておいた方がいいですね。

今は法律なんかそうなっているけど、ほかの学部でびっちりやって、それから大学院に来たっていいんですよ。大学院制度が確立してくれば、だんだんそうなりますよ。

先生達も「大学院教授」になって、「学部教授」とはいわない時代になっているのだからね。

だから、大学院がしっかりしてくれば、大学は4年間直接就職とは関係なく、自由なところでやって、自分の好きなところやって、それから大学院に移ればいいわけじゃない。今移行中なんです。

——ということは将来的に東大が向かうべき道としては、大学院を拡充して、4年間リベラル・アーツをできるようにするというで。

方向としては、それが一番いいと思いますね。社会が複雑化して、その全貌を把握することが難しくなっているから。勉学はより多面的で、また多くの時間が必要になっていますからね。

### Citizen としての教養

政治学者の立場から言うとね、6・3・3・4制の4の以前の6・3・3のところでは、イギリスみたいに、citizen教育みたいなものをやるべきだと思いますね。今の日本は社会科になっちゃうわけじゃない。愛国心を養成するとか。イギリスでの2002年のブレア改

革では、中学校と高校で citizenship っていう科目を作ったんです。これが大切なんですよ。市民としての教養ですよ。

— ということをやるんですか。

citizen として何をしたらいいか。例えば僕が言った自律性を尊べとか、市民的公共性をつくるとか、他者を尊重せよとか、あるいは権力に対しても批判力を持てとか。そういうことを教えたいんですね。

僕はやっぱり教養っていうものの原点は、やっぱり citizenship にあると思うな。非常に極端化して言えば。教養っていうのは基本は citizenship じゃないですか。エリート主義の教養なんて言うのは、今はもう流行らないですね。

citizenship っていうのは、市民権とか、権利と義務という風に訳しているけれど、だんだん最近は変わってきて、行動としての citizenship っていう風になってきているんですよ。status としての citizenship じゃないんですよ。行動者としての citizenship なんです。そのさい、市民的道德 civic virtue を持つことが必要になる。そういう風にだんだん発展してきてるわけです。で、そういう人を育てるのが、citizenship で、僕は教養っていうのは高度な citizenship だと思っています。

問題に直面した時に、人間としての総合的判断力ができるための知恵を養うということですね。

## 《旧制高等学校のカリキュラム》

大正末年における高等学校の1週間当たりの授業時間数を以下に示す。

### 文科

		修身	国語漢文	英語	独語	歴史学	地理学	哲学概論	論理学/心理学	経済学/法制学	数学	自然科学	体操
第一学年	甲	実践道徳1	6	9	4	日本史3	2	-	-	-	3	生物学/地質学2	3
	乙	実践道徳1	6	3	11	日本史3	2	-	-	-	3	生物学/地質学2	3
第二学年	甲	国民道徳1	5	9	4	東洋史/西洋史5	-	-	論理学2	2	-	物理学/化学3	3
	乙	国民道徳1	5	3	10	東洋史/西洋史5	-	-	論理学2	2	-	物理学/化学3	3
第三学年	甲	倫理学1	5	9	4	西洋史4	-	3	心理学2	2	-	-	3
	乙	倫理学1	5	3	10	西洋史4	-	3	心理学2	2	-	-	3

### 理科

		修身	国語漢文	英語	独語	数学	物理学	化学	動物学/植物学	地質学/鉱物学	心理学	経済学/法制学	図学	体操
第一学年	甲	実践道徳1	4	8	4	4	-	-	植物学2	2	-	2	2	3
	乙	実践道徳1	4	3	10	4	-	-	植物学2	2	-	2	2	3
第二学年	甲	国民道徳1	2	6	4	4	3	3	動物学2	-	2	-	2	3
	乙	国民道徳1	2	3	9	4	3	3	動物学2	-	2	-	2	3
第三学年	甲	倫理学1	-	6	4	4	3/実験2/初等力学2	3/実験2	2	-	-	-	2	3
	乙	倫理学1	-	3	9	9	3/実験2/初等力学2	3/実験2	2	-	-	-	2	3

## 2 水高満氏

(NHK プロデューサー)

現在、NHK で放送中の「爆問学問 爆笑問題のニッポンの教養」。漫才師である爆笑問題の二人が、様々な分野の研究者とトークバトルを行う「知の異種格闘技」である。「教養」というものにテレビ番組で迫っているこの番組に興味を持った「教養と教育」班は、そのチーフ・プロデューサーである水高満氏にインタビューを行った。番組についての詳細は番組の公式 Web サイト (<http://www.nhk.or.jp/bakumon/>) を参照されたい。

——本日はよろしくお願ひします。

番組は見たことありますか？

——もちろん。大ファンなんですよ。一番最初の東大スペシャルの頃から見てます。最初はなんで東大スペシャルをやろうと思ったんですか？

東大スペシャルというか、本当は一回限りの予定だったんですよ。東大の持つてゐる知識とか、研究のアーカイブって凄いものがあるじゃないですか。だけどもあんまり世に出てこないでしょ。だから、東大とNHKが組んで一般の人が見てもわかる感じで、東大の凄さを見せる番組をやれないかなって。知識の宝庫と言われてるところがあるじゃないですか、国会図書館とかNASAとか、色々ありますよね。東大も当然そうなんだけど、外の人間から見たら何をやってるかわからない。もしかしたら日々、世の中を変えるような研究をしてる理系の人とかいるのに、なんにもわからない。ノーベル賞とかをとったときだけわかったりする。なので、もともとは東大が持つてゐる知をNHKと組んで出せないかな、というのが大本にあったんですよ。それで出し方として、東大の持つてゐる力を引き出すために誰が一番良いかなと考えて、爆笑問題を選んだんです。爆笑問題っていう異分子を放り込んで、しかも太田さんなんか特にそうだけど、ものすごい知識欲の塊でしょ(笑)。子供の頃によく、「何で空って青いんだろう？」とか「何で花が咲いたら枯れるの？」、「何で私って生きてるの？」とか聞くじゃないですか。それをずっとやめなかった人っていうイメージがあるんです、太田さんには。実際、東大に行ってる人とか研究してる人でも、その頃の疑問に答えられるかって言ったら、答えられなかったりするんですよ。だから、本当に無垢で知識欲旺盛、そして毒舌な芸能人を、権威の象徴というか日本の最高学府に、敵としては充分な東大に、ぶつけたら良いなと思って、その話を東大に持っていったんです。そうしたら東京大学は教授会とか開いて大変なことになったわけ。

——そうなんですか？

そうなんです。大げさにいえば、東大という場が開かれた教養の場なのかを試されることでもありますから。でも、小林康夫教授という、受けて立とうとおっしゃってくれる方がいて、しかもテレビ番組として設定した「いかにも」な場ではなく、「新入生歓迎シンポジウム」として大講義室でやりましょう、という話になっていった。つまり、本気だったということですね。

趣旨説明として、一過性のバラエティーで終わらせるつもりは無いって言ったんですよ。当然僕も、東大の駒場のほうの偉い教授達の会議に出まして、趣旨説明をしました。

太田さんが質問攻めにして教授がそれに答えるというのでは無くて、異種格闘技です、っていう話をしたんですよ。爆笑問題さんだって、日本のメディア界でトップじゃないですか、20年漫才をやってきたスキル、話術で何かを聞くから、それに対して東大がどう答えるのか、がっぷり四つで対話したいと。東大の先生に一方的に教えを乞おうとは思っていないって話したんです。太田さんもそういう気持ちで来るからそれを受け止めてくれますか、っていう話をしたら、東大も意外と受けてくれました。懐が深い！

——大学教授との収録のときは、さわりだけ与えてやってもらうんですか？

収録はそうですよ。何にもやってないと思われると思われただけで（笑）。もちろん教授の研究の核っていうのはどんなに笑いがあっても伝えなきゃいけないと思っているし、ご出演していただいた教授に失礼なんでね、ディレクターはものすごい取材しますよ。わからないなりにね、めちゃくちゃ勉強してもらいます。そうしないと、何が肝かわからないんだよね。だからそれはやります。でも爆笑問題の二人に自分が調べたことを全部説明しちゃったら、ああいう風には撮れないんですよ。つまり異分野を背負っている大人の人間同士が本気で話すドキュメンタリーとして、という意味ですけど。先生の話の事前にかくさん聞いて、爆笑さんには話が転がるであろうポイントを三つしか与えない、っていうようなやり方でやってます。

——本もたくさん出てるじゃないですか。作ってる方に聞くのもアレなんですけど、何でこんなに受けてるんだと思われませんか？

僕らの中で自負しているのは、やっていることが視聴率をとる番組じゃないでしょ。来週は分子生物学、とか言ってるんだから（笑）。哲学とか語っちゃうし。あとタイトルにも関係するんだけど、「教養」って敢えてつけてるんですよ。教養ってほとんど死語でしょ。今時教養って。だけどすごい宝が詰まっているものを、太田さんと田中さんとスタッフで開けて、見せてるからじゃないですかね。それとやっぱりキャラもあるよね。その道で世界レベルまで行った人って、失礼な言い方ですけど、キャラが良いんですよ、人が魅力的なんですよ。それを凄く感じて、僕らがこの人に出てほしいと思う人、つまり研究が面白いとか文章が凄いていう本当に一流の突き抜けてる人は、お会いすると大抵個性的なんです。

——いま「教養という言葉は死語だ」という言葉がでました。この番組では「教養」というのをどんな感じで捉えているのですか？

もともと、番組をやるからには企画を通さなきゃいけないわけで、「なんで教養とは大切か」というのを問わないとテレビ番組にはなりませんよね、納得しないと。そのときに言っていて、また番組をずっとやってきて各教授と話してみて、なんとなくこういうことかなと思っているのは、教養って少なくとも知識ではないよね。知識をいくら詰めても、評論家にはなれても教養人にはなれないでしょう。つまり途中で止まってしまう人は「知識人」なのかもしれない。「違う目線」とか「違う世界観」とか「他者」をいつでも見られるようなフットワークを持って、それをひたすらやり続けていると自分なりの目線というのを獲得してくるでしょ。それが「教養」なんじゃないか、と思います。番組ではそれを模索しているという感じを持っていますよね。だから、異なる分野をぶつけて火花が散ったところをパッケージしたいなと思っているんです。この番組に出てくる先生って、一種のオタクでもあると思うんですけど、やっぱり話を聞いていくとすごい自分の人生観を持っていらっしやるんですよ。だからね、「東大の教養」の後で、太田さんが書いてくれた文章でも似たようなことを言っていて、例えば、立川談志にとっての落語、モーツァルトに

とっての音楽、ピカソにとっての絵というのは、単なる落語家、音楽家、画家として凄いのではなくて、何かもっと別のものを発しているじゃない。つまり、彼は「芸がある」という言い方をするんですけど。教養には芸が必要で、芸がないのは教養とは言いたくないという。ちょっと抽象的ですけどそういう感じですね。

——教養は必要だっているスタンスなんですか？

うーん、必要かどうかはその人次第かも。僕は間違いなく、あった方が人生楽しいと思うけど。

——僕もそう思います。この番組は視聴者に対するメッセージとしてはどのようなことを？

いま教養って言葉を聞いたら、思う教養のイメージってあるでしょ。それじゃない新しい教養の形っていうのを感じてもらいたいっていうのが一番なの。

——カビ臭い感じがしますもんね。

そうそう。難しそうとかさ。そういうことじゃないよね。その人その人にとっての教養っていうのはあってね、だけどそれって、たとえがうまくできないんだけど。たとえばみなさん今、学生で、おいしいものいっぱい食べてますか？たとえばフランス料理の最高級のとかが、食べてないでしょ？でも何か食べた時おいしいって感じられるわけで。各段階の教養っていうのは多分あると思う。僕らは、世界レベルでの教養がどのぐらいの考えを人間にもたらすのかっていうのを見せていければと思っている。やっぱり一番おいしいところを知らなきゃ、自分がどのレベルか分からないじゃない。別に教養を押し売りしているわけじゃない。楽しんでみてもらって、そういうヒントになればってぐらいのことですよ。テレビ番組ですからね、革命起こそうとしているわけじゃないから。

——でも若干起こってると思うんですけど、どうなんですかね。東大生にアンケートとると、教養人に太田さんが入りますね。東京大学の学生に今回アンケートをしたんですけど。その中で教養のある人は誰かあげてくれてやったら、立花先生の名前が多いんですけど、あとは太田さんの名前もたくさん上がって。

本当に!? 立花先生とどっちが多いの？

——立花先生の方が多いですね。まあ、それは「立花隆ゼミナール」って書いてありますからね、相当バイアスはかかっているとしますが（笑）。

——最後にテレビの話なんですけど、いままで教養っていうと本であつたりとか新聞であつたりとかそういうメディアが目されがちだったじゃないですか。で、テレビと教養っていうのがちと組み合わせているのはすごく斬新な気がするんですけど、しかもそれがめちゃくちゃ上手くいっていますよね。それはどう思いますか？

一億総白痴化って言われたときにさ、テレビが元凶というか悪者だったでしょ？でも、「一億総白痴化するほどの伝播力」っていうのがあるメディアってことなんですよ、逆手に取ると。あと、これ太田さんもよく話しますが、一番いいのはテレビってあんまり差別しないんですよ。つまり、AV女優と東大教授と漫才師が出て、どれがステータスとかで関係なく、見ている人は「この先生、言ってることは偉そうだけど中身はなさそうだな」とか、「このAV女優はすごく生きることを考えてるな」とかさ。もっと言えば、大学教授の寝癖を見て「この人だらしない人なんじゃないか」と思って、話なんか聞いてないかもしれないじゃない。そういう意味で、人間がすごく出ちゃう場なんです。そういう場で教養とは何かやるのは、伝播力とあいまってね、なんとなくひろがるんじゃないかというところがあるんですよ。

——なるほど。

ただし、僕はテレビが一番すごいとは思ってないから、ネット展開とかも含めてやりたいなと思ってるんですけどね。

——今までのイメージとして教育番組って言ったら「さわやか3組」とか理科の実験番組だったり、大学の授業のレベルのものが全然なかったんです。僕は哲学とか好きだから言うんですけど、そういうレベルの番組っていうのもっと教育テレビとかが作ったりしないんですかね？

これは総合テレビでやってるでしょ？ ニッポンの教養って取って総合の夜で勝負してるってところがあるんですよ。研究だから教育っていうのはちょっと避けて、要するにもっと開けたというか。マジで勝負するときに、教養で勝負するの!? ってところがあるじゃないですか。裏であいのりとかスマップやってるのに（笑）。他にもお笑いとか、セクシーものとか。なのにこっちは解剖学で勝負してるんですよ。そういう面白みは総合のほうがあるよね。教育のほうでやるとまた違う方向になっちゃうかもなあ。いろんなイメージが教育テレビについちゃってるからね。でも変わっていくとはおもいますよ。というか変わらざるをえないんじゃない？ で、ライバルはネットですからね。

——結構ネットを意識してるんですか？

してますしてます、もちろん。違うメディアとは思ってるけども。まだテレビのほうがきつと見られてると思うけど、もうすぐだと思ってるんで。

——今ウェブがすごいことになってますからね。今回の講演の冊子にも本とウェブの闘いみたいな話が出てきます。

ただ、テレビ制作の技術っていうのがまだネットの映像の送り手にまだあまりないからいいんだけど、CMとかネット広告とかはメディア特性を利用していろいろ面白いのがあるんですよ。例えば車のCMなんかでも自分が買おうと思ってる車の内装とかのパーツをネットで選んでいくわけ。選び終わると、美女が出てきて、一緒にドライブしましょうって言って、乗った感じがずっと見れてっていう。そういうやつは、テレビじゃなかなかできないよね。爆問学問もネットでの展開はありえるよね。番組の参考文献がずらりと並ぶネット図書館とか、例えば人間が今作ってる脳の最前線や最速の電気自動車、万能細胞とかロボットがずらりと並ぶバーチャルな世界研究室を作っちゃうとかさ。まあ、思いつきですけど。

——いよいよとんでもないことに。これからの爆問学問が本当に楽しみです。今日はありがとうございました。



## 6 発見のためのリンク集

私たちは、これまで「教養」について考えてきた。結論にはもちろんまだ至っていない。しかし、「教養」が「知る」という行為と不可分な関係にあるのは確かだろう。そして、おそらくこれからの時代において、Web が本や新聞・雑誌に匹敵する重要性を持つようになるのではないだろうか。

私たちがそれぞれの興味のもとに発見した、玉石混淆のうちの「玉」と信じるサイトの一部を掲載してみたいと思う。そこでは本や講義では得られない新鮮な体験を味わわせてくれる独特の世界が展開されている。このリンク集が皆様の興味を惹き、新たな領域について知る端緒となれば幸いである。

### ルーブル美術館

<http://www.louvre.fr/>

基本的な美術館の案内の他、「今日の一枚」と称して、毎日一枚の絵画に関する作者、背景、時代に関する情報を知ることができる。また、“3D”で館内を見学するツアーも体験可能である。一見の価値あり！

### Project Gutenberg

<http://www.gutenberg.org/>

25000冊以上の著作権切れした英語書籍が読めるサイト。英米文学の名作は大抵手に入る。

### 国立国会図書館 近代デジタルライブラリー

<http://kindai.ndl.go.jp/>

明治・大正期の貴重な書籍の画像ファイルを見ることができる。最近、提供数が10万件を超えたようだ。

### 千夜千冊マップ

<http://senya.pictopic.info/>

ご存知“知の巨人”松岡正剛の「千夜千冊」。このページでは、キーワード検索で各々の紹介ページにとべるほか、関連する書物も提示してくれる。まさに知の羅針盤。「跡ラングム」なる機能も粋。

### アナトモグラフィ

<http://lifesciencedb.jp/ag/>

組織によって細かさにはずいぶん差があるものの、かなり詳細な人体解剖図が3Dで見られる／作れるサイト。色などの簡単な編集も可能なうえ、編集した画像はCC（クリエイティブコモンズライセンス）で利用・公開が可能。

### 4D2U

<http://4d2u.nao.ac.jp/>

国立天文台の4D2U (4-Dimensional Digital Universe) プロジェクトのFlash版ページ。特にお勧めなのは、画面左端に現れる4D2U NAVIGATOR。国立天文台三鷹キャンパスの一室にあるパソコンから、宇宙全体まで、実に26桁に及ぶ凄まじいスケールの移動が体感できる。表示は線画だけと非常に簡素だが、それだけにサクサクと縦横無尽に動き回れる。

### Celes Trak

<http://celestrak.com/>

北米航空宇宙防衛司令部 (NAADC. 通称 NORAD) と、米 AGI 社が開設しているサイトで、NORAD が監視している軌道上の物体の軌道要素を、(もちろん公開可能なものに限って) 一般に公開しているサイト。日本の情報収集衛星の軌道が決定的にバレたのは、日本政府側から NORAD に連絡が行っておらず、軌道がこのサイトに公開されてしまったためである。後日慌てて日本政府側が頼んで非公開になったが、後の祭り。

### BOINC

<http://boinc.berkeley.edu/>

カリフォルニア大学バークレイ校が開発した、分散コンピューティングのためのプラットフォームのページ。スクリーンセーバー実行中に使われていない PC の計算能力を、様々な問題 (素数探索・地球外知的生命体探査・粒子加速器のシミュレーション・分子の性質推定等々) に供出する為のソフトウェア。あなたの PC の有り余る計算能力を、人類のために役立ててみませんか？

### New York Times

<http://www.nytimes.com/>

教員向けアンケートに回答してくださった矢口祐人先生ご推薦のサイト。言わずもがな、New York Times の記事を読むことが出来る。

## WIRED VISION

<http://wiredvision.jp/>

アメリカのビジネス、テクノロジー、カルチャーに関する記事と、数人の執筆者によるブログからなるサイト特に先端技術系の記事の充実さは他のニュース系ブログの追随を許さない。記事はアメリカの WIRED というサイトの翻訳なので、最新の情報を得たいならそちらを見るのもいい。ブログも執筆者の個性がよく出ていて面白い。

## JanJan

<http://www.janjan.jp/>

「市民の市民による市民のためのメディア」を掲げ、一定の検閲の下に市民の投稿を記事としてアップしウェブ上に新聞をくみ上げている。コンテンツは多様で毎日更新されている。微に入り、細を穿ったような三面記事も散見され、それはそれで興味を引く。

## ほぼ日刊イトイ新聞

<http://www.1101.com/>

「ほぼ」を冠するも、実際は 98 年の創刊以来更新が止んだことはない。寄稿者は錚々たる面々で目を引く。同じ新聞系のサイトでも JanJan とは異なり、糸井重里氏の雑感に始まり、著名人のインタビューや対談、コラムが中心コンテンツを占める。

## Google scholar

<http://scholar.google.co.jp/>

学術情報を検索するのに非常に便利。通常の検索エンジンでは雑多なサイトに埋もれて発見できないような、学術論文などを発見できる。CiNii<sup>1</sup> の内容もこの検索エンジンに引っ掛かる。

1 国立情報学研究所が提供する約 300 万件の学術論文が読めるサイト。本文の閲覧に対して課金されることが多い。

## 平和のためのリンク集

[http://homepage2.nifty.com/peacecom/link\\_peace.htm](http://homepage2.nifty.com/peacecom/link_peace.htm)

平和を考える上で重要なキーワードから、各種サイトへリンクが貼られている。原爆、核兵器から始まり、ジャーナリストの個人サイトや NPO、高校生のゼミナールまで網羅されている。私たち人間にとって永久のテーマを考えるきっかけとなれば。

### Oxford University

<http://www.ox.ac.uk/>

通常の大学情報のみならず、各学部ごとに特徴あるページを持つ。例を挙げれば哲学のページでは教授によるブログを見ることができ、Podcast<sup>2</sup>も配信している。

<sup>2</sup> テレビ番組やラジオ番組などを収録した無料のオーディオやビデオのデータ配信サービス。iTunes というソフトウェアを通じて利用できる。

この他にも、見聞伝「教養と教育」企画の Web ページ (<http://kenbunden.net/culture>) で、多くのサイトをご紹介する予定である。ぜひ訪れてみてほしい。

## 7 南原繁にとっての「教養教育」

『南原繁<sup>1</sup> 回顧録』より

聞き手：相原茂

<sup>1</sup>南原 繁：戦後最初の東京大学総長として、矢内原忠雄らとともに現在の東京大学の基礎を築いた。

**南原** 一般教育（リベラル・アーツ）というのは、戦後の新しい傾向としてアメリカの大学が言い出したことで、ハーヴァードのコナントの提唱ですね。こちらの旧制高等学校というのは数は少ないし、十八世紀のイギリスの紳士教育ですね。それはそれでいいのですが、正直な話、あの三年間というのは僕も知ってるけど、遊んだものですよ。やる内容と言えば、中学校で習ったものを少し手直したような——国語にしても、歴史にしても、漢文にしても。遊んだんですよ。余裕をもったということです。そうすると自ずとそこから人間が伸びたという気になった。いい点もあったろうし、悪い点もあったでしょう。ただ、どっちにしても人間をつくる。単位なんかにとらわれずに、もっと自由に人間をつくる。それが教養の目的だと思います。

それを三年というような呑気なことをせずに、一年か二年くらいでやろうというのが新しい大学の教養部です。のちに学部との関係で年限のことが問題になりますが。それを昔の十八世紀の紳士教育でなく、市民の、多数の大学生というのはなにも指導者になるというのではなく、市民としての教養を身につける、そういう意味で、大学というのを従来の高等学校のように制限せずに各地につくった。そういう意味では新しくできた二十世紀の教養——市民たる民衆の教養に発展してきたわけです。そこに理念がある、だから時間数とか単位とか、あまりこまかいことをせず、もう少し自由にやってもらいたい。

——特に大学において人間性の復興なり、完成なり、これはすべて専門の学問に置いてそうだと思うんですが、かなり直接的にそういう役割を持っている教養課程なり、一般教育について、当時のこれを導入された先生方は内容を具体的に考えられていたと思うんです。それは今行われているものと大分違うんじゃないかと私は疑っているんです。（中略）その辺のことを……。

**南原** 実際にはいろいろ難しいでしょうね。各科目について具体的にどうしてゆくかということになると、我々が考えたようにはゆかないでしょうが、要するに「普遍的な知性」というのが、一番の根本になると思うんです。それを踏まえての自由な教育ということなんでしょうね、理想的には。それを個々の歴史をやったり、政治をやったりするところにあてるといっていいでしょう。

——（中略）科目の方も、専門課程の前段みたいになってきた。それに我々昔の教育をうけたものはそれからなかなか抜けきれない。大学における一般教育を受けてこなかった、といって昔の高等学校的なものでは意味をなさんでしょう。語学関係では比較的その悩みは少ないが、人文系、社会系、自然系は二十年たってまだとまどってる。

**南原** それは実際難しいでしょう。けれども、語学でも教科書の選び方によっては今のような意味を持ってやれるでしょう。一般教育には自然科学もあるんだから、全行程というわけにはいかないから、自然史を教えるなり、発達の段階をもってくるなり、それはそれでいいと思うんです。

——僕は先生が先程「自由」とおっしゃったのにわが意を得たんですが。

**南原** 特別の方法があって特別の科目を教えるわけでないで、それぞれを通して、いかにして各々の知性を引っぱり出してくるかにあるわけなんで、だから、教え方にあるでしょう。同じものを教えるにも。

——何をやったっていいと私は言うんですが。

**南原** 私はそう思いますよ。特別の科目があるわけではないのだから、一般的なものを持ちながら、講義外のものをどこか学生に訴えたり、学生から引き出したりすればいいんじゃないかな。

——本郷では、例えば、政治史ではここまでは教えておかねばというようなものがあると思うんですが、教養課程では……。

**南原** 卒業生も言うし、私もいうんですが、「学校で習ったことは本当に役に立たん」と。僕は卒業してノート全部焼いちゃった。それで講義の間に、先生がおもしろく話するでしょ、それは憶えていますね。それが将来役に立つんだなあ。あとは専門のことは、本をみればいいわけでしょう。ノート以外の、行間の、人間と人間とのふれあいだな。

## 8 「教養教育」の沿革

戦後の教育改革で、教養教育を担っていた旧制高校が解体され、その役割を引き継ぐ形で、全国の大学に一般教養課程が設けられた。しかし、その地位は専門課程と比べて低く、俗に“パンキョウ”と呼ばれ、専門課程を受けるために仕方なく取っておかなければならない必修科目群という扱いを受けていた。さらに、教養課程をもつばら行う機関が存在しなかったために、教養教育を行う際さまざまな困難が生じていた。

このような状況を改善するため、昭和38年、中央教育審議会答申「大学教育の改善について」に基づき、全国の大学で教養部の整備が進み、昭和43年までに全国32大学で教養部が設置された。これにより、それまで不明瞭だった各大学における教養教育の責任の所在が明らかになり、教養課程の地位向上が図られた。

---

### 中央教育審議会答申「大学教育の改善について」

(昭和38年1月28日)

#### II. 大学の設置及び組織編成について / 2. 組織編成 / (2) 教養課程の教育を行なう組織

いわゆる教養課程における教育を行なうにあつては、そのための組織が制度上確立していないため、現在、さまざまな困難が生じている。教養課程における教育を行なう組織は、必ずしも各大学において一様でなく、将来も、画一的な組織とすることは適当でない。ただし、多くの学部を有する大学においては、教養課程における教育を効果的に行なうため、必要に応じて責任者を置き、担当教員間の連絡協力を密にするための機関を設けるなど、自主性と責任をもつ組織を置くことが望ましい。このような組織を教養部として制度的に認めうるようにする必要があろう。

教養部の組織については、たとえば

(ア) 教養課程を主として担当する教員は、教養部の専任とするとともに、教養部に教授会を置くことができるようにすること

(イ) 教養部の長の責任と権限を明確にすること

(ウ) 教養部と各学部との連絡を緊密にするための組織を作ること

などを考慮する必要がある。

なお、教養部については、必要に応じ教員の充実に他の措置を講ずべきである。

---

しかし、昭和46年の同審議会の答申「今後における学校教育の総合的な拡充整備のための基本的施策について」では、一般教育と専門教育を積み重ねる従来の方法では、両者が遊離してしまい、十分な教育的効果が得られないという危惧が示され、その改善が重要な課題として挙げられるなど、一般教育と専門教育の乖離とそれによってもたらされる弊

害が社会的に問題とされるようになった。

## 今後における学校教育の総合的な拡充整備のための 基本的施策について

(昭和46年)

第3章/第1/2. 高等教育の内容に対する専門化と総合化の要請

これからの高等教育は、中等教育と緊密な関連を保ちながら、将来の社会的進路に応じた高度の専門性を身につけるのに役立つとともに、時代の進展に即応して複雑な課題の解決に取り組む総合的な能力と基礎的な教養を養うものでなければならない。

他方、科学技術の急速な進歩と経済の高度成長によって急激に変化し、複雑高度化していく今後の社会においては、さまざまな知識を人間の進歩に役だてるために、専門的な深さとともに、それらの研究成果を広く総合する力が必要とされる。また、このような時代にみずから生きる目標を正しく選び、すぐれた社会人として充実した人生を送るためには、人間観・価値観にかかわる基礎的な教養がとくに重視されなければならない。

これまでの大学教育では、一般教育と専門教育とを積み重ねる方法をとってきたが、ともすれば、両者が遊離して専門化にも総合化にもじゅうぶんの効果を収めていない。その欠陥を改めるとともに、多様な進路に応じた新しい教育課程を設計することが、これからの重要な課題である。

そして、平成3年には大学審議会答申「大学教育の改善について」に基づき、文部省は大学設置基準を改正し、一般教育と専門教育の科目区分を廃止するなど、大幅に簡素化、大綱化した。これは戦後の大学制度改革の中でも最も大きな改革であり、大学審議会はこれによって、教養教育と専門教育の有機的連携を図って、激変する社会に対応する力をつけさせようとする狙いがあったが、実際は、専門教育を担当する教員、もしくは教養教育を担当する教員内でも、教養教育を軽視する風潮があったことと相まって、全国の大学の教養部や一般教養課程は次々と改組・解体され、全国に32存在した教養部も、現在は東京医科歯科大学の一つを残すのみとなっている。

## 答申「大学教育の改善について」

(平成3年2月8日)

### 大学設置基準の大綱化・簡素化等

各大学で、多様で特色あるカリキュラム設計が可能となるよう、授業科目、卒業要件、教員組織等に関する大学設置基準の規定を弾力化する。

- ・ 開設授業科目の科目区分（一般教育、専門教育、外国語、保健体育）を廃止
- ・ 科目区分別の最低修得単位数を廃止し、卒業に必要な総単位数のみ規定
- ・ 必要専任教員数に係る科目区分を廃止。教員の専兼比率の制限を廃止

- ・ 単位の計算方法の合理化を図り、演習等の授業を行い易くする
- ・ 学士を学位に位置付けるとともに、学士の種類を廃止

### 大学の自己点検・評価システムの導入

各大学が、自らの責任において教育研究の不断の改善を図るよう促すため、自己点検・評価システムを導入する。

- ・ 生涯学習等に対応した履修形態の柔軟化
- ・ 科目登録制・コース登録制の導入
- ・ 昼夜開講制の制度化
- ・ 大学以外の教育施設等における学習成果の単位認定
- ・ 編入学定員の設定

## 中央教育審議会 大学分科会 議事録

第 1 回／資料 6 / 1. 国立大学の教養部改組の状況

### 年度大学改組後の形態

※昭和 38 年～昭和 43 年: 32 大学: に教養部を設置。

S49. 広島大学: 新学部 (総合科学部) へ

S52. 岩手大学: 新学部 (人文社会科学部) へ

※平成 3 年: 大学: 設置基準の大綱化

(一般教育科目, 専門教育科目等の科目区分の廃止)

H4. . 京都大学: 新学部 (総合人間学部) へ

H4. 神戸大学: 教育学部改組とあわせて新学部 (国際文化学部, 発達科学部) へ

H5. 東北大学: 大学院充実 (国際文化研究科, 情報科学研究科) へ

H5. 群馬大学: 新学部 (社会情報学部) へ

H5. 富山大学: 既設学部の充実 (人文学部, 理学部) へ

H5. 名古屋大学: 新学部 (情報文化学部) と大学院充実 (人間情報学研究科社会情報学専攻) へ

H5. 徳島大学: 既設学部の充実 (総合科学部) へ

H6. 宇都宮大学: 新学部 (国際学部) へ

H6. 千葉大学: 既設学部の充実 (文学部, 理学部) と大学院充実 (自然科学研究科情報システム科学専攻) へ

H6. 新潟大学: 既設学部の充実 (人文学部, 理学部, 工学部) へ

H6. 大阪大学: 大学院充実 (国際公共政策研究科) へ

H6. 岡山大学: 新学部 (環境理工学部) へ

H6. 九州大学: 既設学部の充実 (文学部) と大学院充実 (比較社会文化研究科, 数理学研究科) へ

H7. 埼玉大学: 既設学部の充実 (教養学部, 経済学部, 理学部, 工学部) と大学院充実 (理工学研究科環境制御工学専攻) へ

H7. 信州大学: 既設学部の充実 (人文学部, 教育学部, 経済学部, 理学部, 繊維

学部)へ

H7. 静岡大学: 新学部 (情報学部)へ

H7. 鳥取大学: 既設学部の充実 (教育学部, 工学部)へ

だが最近になって、教養教育の重要性が見直され始め、各大学は教養教育を担当する教員を増やす傾向にある。また、昨今の国際化の進展と重なる形で、国際教養学部を設置する大学が増えている。

#### ■教養学部を置く大学

**国立大学** 東京大学, 埼玉大学

**私立大学** 国際基督教大学, 放送大学, 東海大学, 東北学院大学

#### ■国際教養学部・国際教養学科を置く大学

**公立大学** 国際教養大学

**私立大学** 獨協大学, 上智大学, 東京女子館大学, 法政大学, 明治大学 (国際日本学部), 早稲田大学, 中京大学, 富山国際大学, 追手門学院大学, 桃山学院大学, 神戸女子大学, 倉敷芸術科学大学, 宮崎国際大学, 仙台白百合女子大学 (人間学部/国際教養学科), 名古屋商科大学 (外国語学部/国際教養学科) など

しかし、多くの大学では教養部の解体で責任の所在があいまいになり、教養部に代わる新たな教養教育のための機関が作られたところもあるが、それがうまく機能しているとは言い難い。また授業選択の幅も広がり、自分の専門領域に関係しているもののみを選択していても、必要単位を取得できてしまうという弊害も起こっている。

## 9 学校系統図

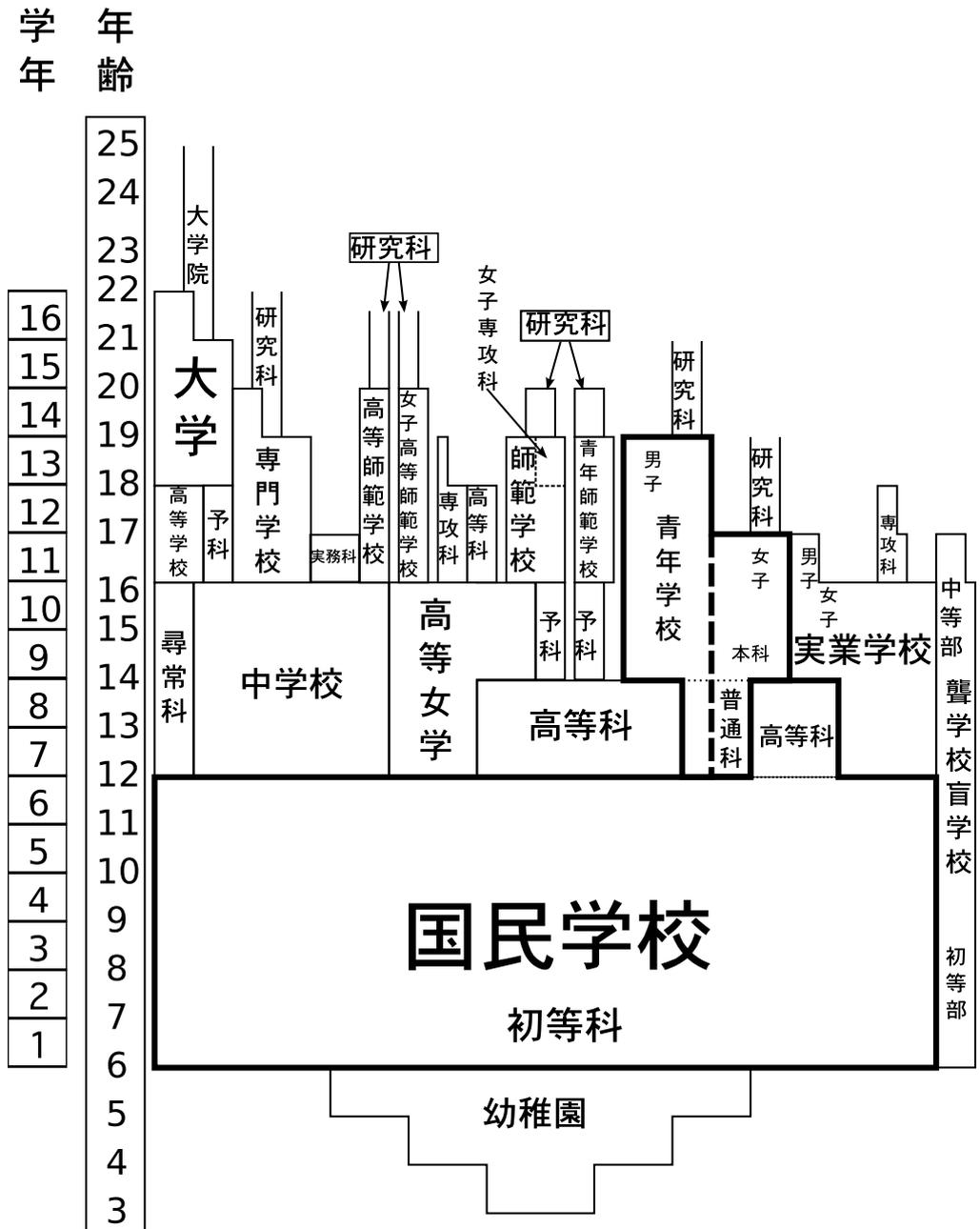
文部科学省 Web ページより

次頁の図は、明治5年学制頒布以後のわが国の学校制度上重要な改革の行なわれた時期における学校系統を示したものである<sup>1</sup>。

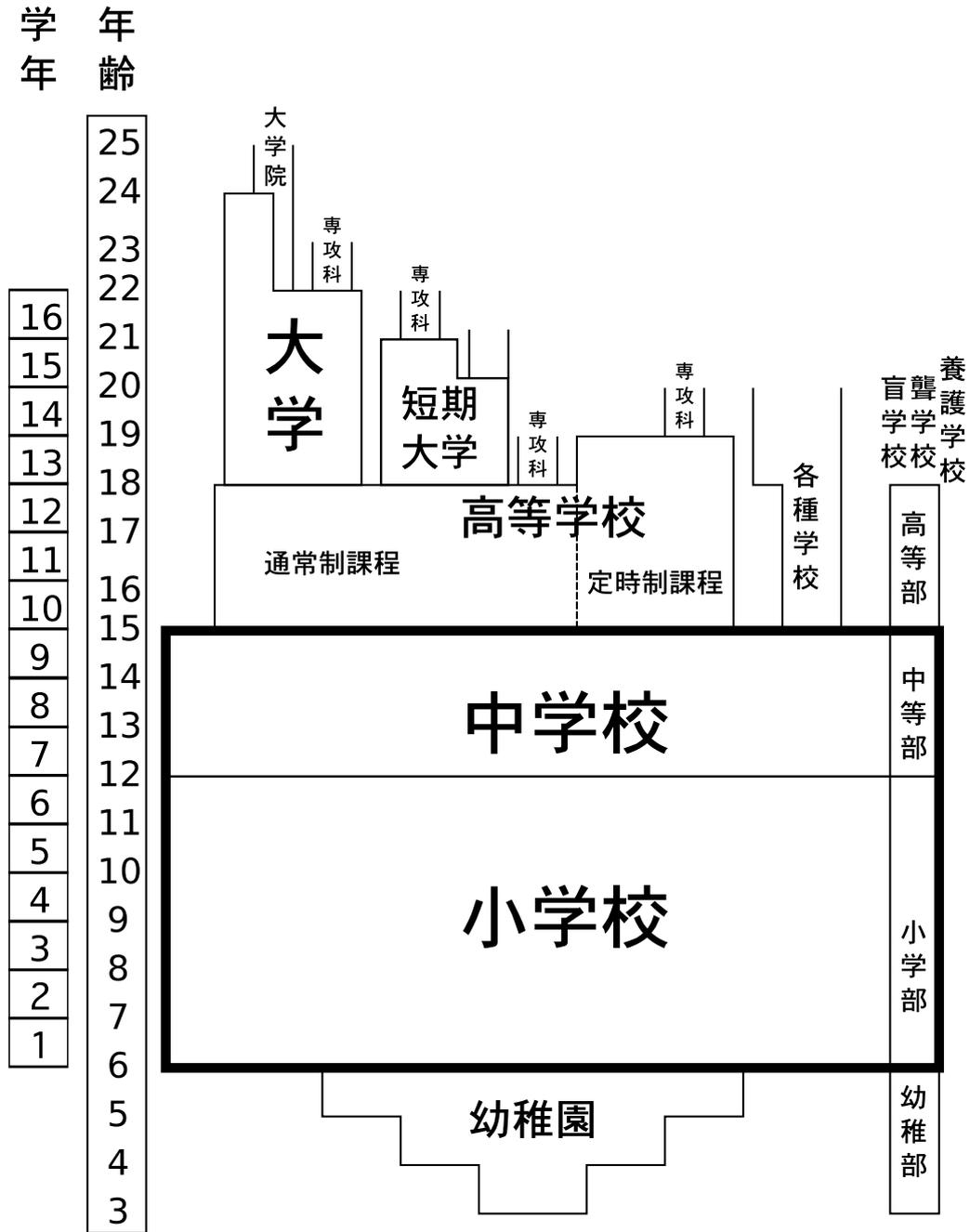
- ・ 年齢は満計算による。
- ・ 修業年限・入学資格のはっきりしないもの（各種学校を含む。）は原則として省略した。
- ・ 修業年限の限定されていないものは図の上部をあけた。
- ・ 研究科・専攻科は原則として記載したが、別科・選科等は省略した。
- ・ 同一の学校の中の予科・本科等の区別は点線によって示した。
- ・ 義務教育とされているものは太線で囲んだ。
- ・ 図に示した各学校の幅はその規模（学校数・児童生徒学生数）に比例しない。
- ・ 使用した資料は、文部省年報・明治以降教育制度発達史・（諸）学校関係法令の沿革等である。

1 このうち1944年（昭和19年）及び1949年（昭和24年）の分のみ転載した。

# 1944 年



1949 年





# 10 年表

文部科学省 Web サイト『学制百年史』より

1945 年から 1947 年にかけての学制に関する出来事を簡単にまとめ、解説を加えた。

## 1945 年

8/15	終戦の詔書録音放送（太平洋戦争終わる）
8/15	文部省，終戦の詔書に関して訓令し，教学の再建を要望
8/21	戦時教育令廃止決定（以後，この方針に基づく各種通達を出す）
9/10	連合国軍最高司令官マッカーサー，日本管理方針を表明
10/11	マッカーサー，新任挨拶の幣原総理大臣に，婦人解放，労働組合結成奨励，学校教育民主化，秘密審問司法制度撤廃，経済機構民主化の五大改革を要求
10/30	GHQ，「教員及び教育関係官ノ調査，除外，認可ニ関スル件」を指令 （軍国主義者，極端な国家主義者を追放，復員軍人の教務従事停止。教職適格審査機関の設置等）

## 1946 年

1/9	GHQ，米国教育使節団に協力する日本側委員会 <sup>*1</sup> 設置について指令（2/7 同委員会および事務局成立）
3/6	アメリカ教育使節団 <sup>*2</sup> 来日
3/30	アメリカ教育使節団，報告書を最高司令官に提出
4/7	GHQ，アメリカ教育使節団報告書を発表（戦後教育改革の基本方向を明示）
8/10	総理大臣の諮問機関として，「教育刷新委員会」 <sup>*3</sup> 設置（昭和 24 年 6 「教育刷新審議会」と改称）
10/16	教育刷新委員会，6・3 制（義務教育 9 年）の原案を決定
11/29	教育刷新委員会，教育基本法の要綱を決定
12/27	教育刷新委員会，第 1 回建議 <sup>*4</sup> （新学制を含め教育全般にわたる改革案に関すること）

## 1947 年

3/31	教育基本法・学校教育法 <sup>*5</sup> が公布。
------	--------------------------------

## 《解説》

### \*1 日本側委員会

日本側教育家委員会ともよばれ、委員長は南原繁が努めた。後述の米国教育使節団と協力・連携して活動したと見られ、後に6・3・3・4制や6・2・4・4制の提案を行っている。これらの提案は年数に若干の違いはあるがいずれも単線型の学校系統であり、戦前の複線型の学校系統は否定されることとなった。(複線型とは、「ある学校に進学すると上級学校に入れない」ということで、例えば戦前の学校系統では小学校高等科に進むと専門学校や旧制高校には進めなかった。「学校系統図」の章を参照。こういった複線型の制度は、エリート主義・階層主義の温床として批判された。)

### \*2 アメリカ教育使節団 United States Education Mission to Japan

GHQの指令のもと来日。ひと月ほどの滞在の後、3月30日に報告書(アメリカ教育使節団報告書)をまとめる。この報告書は、占領期の教育改革において、最も明確に改革の方向性を示した重要なものである。この報告書の中で新しい学制は6・3・3制とする、という内容の提言がされている。ただし大学の終業年数に関しては未定であった。日本側教育家委員会との討議の末、この頃までには6・3・3制の構想はかなり固まっていたようだ。(注:アメリカ教育使節団は正確には2度来日している。第一次は1946年3月、第二次は1950年8月である。報告書もその2度にわたり提出されているが、その重要性からここでは第一次に関してのみ言及し、第一次、第二次の表記は省略した。)現在、この報告書は講談社学術文庫として一般に入手可能である。

### \*3 教育刷新委員会

アメリカ教育使節団報告書を受けて設置された。「教育に関する重要事項の調査審議を行う」ための日本の委員会であり、内閣総理大臣の所轄とされた。初代委員長は安倍能成、のち南原繁に交替。教育刷新委員会については詳細な会議録が出版されており、駒場図書館でも閲覧可能である。

### \*4 第1回建議

教育刷新委員会が行なった重要な建議。6・3・3制を明確に提言し、大学については原則4年(3年または5年も可)としている。また「教育に関する根本法」(教育基本法)の制定も提案している。

### \*5 教育基本法・学校教育法

6・3・3・4制を具体的に規定する。

## 11 ゼミ生による「私の教養観」

わき た よしゆき  
脇田 佳幸

教養学部文科三類 2 年

私が思うに「教養」とは、知や学問といった範囲に限定されることのない、一人の人間の生き方そのものの問題である。もちろん今まで言われてきた通り知識や好奇心は必要だと思うが、それだけでは不十分だろう。自分を客観視する能力や、歴史の流れの中でいまだのような時代に生きているのかを捉える力、自分の言葉で相手に想いを伝える表現力など全てを備えた人を「教養人」と呼びたい。実際にはそれら全てを備えた人はそういないのかもしれないが、少なくとも「そうになりたい」というベクトルを持って生きている人が、私にとっての「教養人」である。そのような「教養人」に出逢うたび、私は「この人生きてるなあ…」と心から感じ、自分もそうになりたいと強く想うのである。

今回の講演や冊子でもテーマとなっている「教養をどう身につけるか」という問題に関して言えば、「これで教養を身につけよう」と意気込んで何かを行ったことは無いし、そんな必要は無いと思う。自らの興味の赴くままに、本を読んだりアルバイトをしたり、大学での活動をしてみたりするうちに自然と「教養」というものはついてくるのではないだろうか。少なくともそういう考えで生活を送っている自身の一年間を振り返ると、一年前よりはほんの少しだけ「教養人」に近づけているのでは、と思うのである。

ただこれは全く個人的な意見であって、別の捉え方で「教養」を考える人もいるだろうし、そもそも「教養」なんかいらないと考える人もいるだろう。実際、他のメンバーの意見を読んでもらえればわかる通り、このメンバーの中でさえ考えが統一されていないのである。もちろん勉強不足・議論不足というのは承知の上だが、結局「教養」というのは各々の捉え方次第でどうにでも変わりうるものなのではないだろうか。普遍的な「教養」というものは無く、ただその人その人にとっての「教養」が有る。それならば、今回私たちが「教養」について考えたことも全くの見当違いということは無い。今日の講演やこの冊子が、そしてこれから継続されるであろう立花ゼミ教養班の活動が、誰かの「教養」に対するイメージに、少しでも刺激を与えることが出来たら、嬉しい。

ないとう たくま  
内藤 拓真

教養学部文科三類1年

ここ駒場で何を学んだらいいのであろうか。この問いかけに答えることこそ「教養って何だ？」を考えることに他ならない。

パシブに考えるなら、その答えは履修の手引きの中に書いてある。東大という三ツ星レストランが広げるメニューに従い、バランスのとれた履修をする。必要最低単位表で提示された通りの割合で各分野の知を消化する。教養課程を通じて取得すべき単位がそのまま身につけるべき教養と同値なら話は早い。

だが、あくまでそれは、東大が私たちにどんな人材に育てて欲しいかであり、そこに私たちの主体性は存在しない。たとえそれがフルコースであっても、出されたものを漫然と食べて満足するようであってはならない。メニューなど読むものか、という気骨が学生にはあるべきだ。無論、ミシュランガイドだって読むべきではない。

メニューにはある程度の選択性があり、文理を超えた様々な知に触れられると言う。幅広い学問分野を味見できる、と。しかし、「食べたことがある」というのは果たして教養だろうか。否、そんな浅はかな経験を束ねて「教養」というラベルを貼ることはできない。もちろん、提供される料理は当代一流のシェフがこさえた最高級品なわけで、そこを批判するつもりはない（と言ってプレッシャーをかけてみる）。味わう側の問題だと思うのだ。

一流のレストランに毎日足を運ぶ一流の客として、私たち学生がとるべき姿勢とは。私は「見つけること、咀嚼し味わうこと、表現すること」だと思う。まずは、未知のものに興味を持つ。「教養がない」という批判の大抵は「常識がない」の換言だ。味わったことのないものには食欲になろう。そして出された料理を味わう。消化しやすいようによく噛み砕き、一つのスパイスも見逃さないように味を確かめながら、胃の腑に落とし込んでゆく。既存の表現によるバイアスを批判し、料理が私に与えるそのままの味を理解する。最後に、表現する。言葉にしなければ理解しているということも理解されない。甘いのか辛いのか、持ち得る限りの語彙を尽くし、他の誰でもない私の言葉で表現する。

教養とは、知識や常識ではなく、それらを咀嚼・消化し、自分のものとして使いこなせる、そんな力だと思う。そうしてこそ身につくものだと思う。

えんどう しゅん  
遠藤 駿

教養学部文科一類 1 年

この冊子は少し不思議な性格を有している。教養学部<sup>1</sup>に在学しながら教養のなんたるかも知らぬ1・2年生が、教養学部<sup>2</sup>に設けられた立花隆先生のゼミを隠れ蓑に、教養のひとかけらを必死に掴もうとする、その活動の一環として、教養について考えてみたものだからだ。

そして、私たちの企画は常に、「教養」という言葉に翻弄されてきた。Liberal Arts や Culture の訳語としての意味の混乱と、度重なる誤用・乱用の果てに、本来持っていたのであろう輪郭が霧散してしまったこの言葉をとらえ直そうという試みは困難を極めた。座談会でも学生・教官アンケートでも、インタビューでも、いたるところでこの言葉の意味・定義との格闘を繰り広げてきたのだ。

では、結局、教養とはどのようなものなのだろうか。幅広い知識では甘い気がする。人間的な成長ではずいぶん話はずれるだろう。「生きる力」の涵養<sup>3</sup>だったらゆとり教育の使者みたいだ。

私は、この企画を通してのとりあえずの結論として、教養とは成長を志向する意志そのものなのではないか、と考えるようになった。

好奇心の赴くまま浩瀚なる書物に挑むもよし。人間的成長を望んでバイトに精を出すもよし。ゼミに入って同志と議論を重ねるもよし。とにかくすべてから何かを吸収することで、自らのマインドを広げていくことを不断に志向する。これこそが教養なのではないか。

もちろん一つ一つの言葉に定義を与えながら正確な議論を組み立てることはできないため、最終的には自らの経験やイメージによるところが大きくなってしまおうのだが、今の私は、少なくともこのように思っている。

そして、自分が興味をもった分野について徹底的に調べ、その分野における有識者や権威の方々にお話を伺い、同じような興味を持った仲間と議論を繰り返し、自分と異質の人間との接触を重ね深めながら、一つのものを形作っていく。今回私たちが行ったこのような活動にも、教養の一片は宿っていたのではないかと期待している。

い て ひ  
李 太喜

教養学部文科三類 1 年

東京大学に入学したての4月。僕は立花隆の主催する立花ゼミを覗いてみた。立花隆って聞いたことあるな。…「見聞伝」。なんだこれ。けど、自分で興味のあることを調べられるのか。なんか楽しそう。

これが僕の立花ゼミに入ったきっかけだ。

そして教養企画は始まった。教養ってなに？ 答えは見つからない。けど、自分の中で一つ、これじゃないかって思うものは見つけた。

教養って、「見聞伝」じゃないか！ って。

初め、漫然な知識が教養とどう違うのか、僕は分からなかった。だって、いろんな知識を広く知ることでもいいのか？ じゃ、雑学王は教養人として一番か？ って。

だけど、篠原先生とのインタビュー、NHKでのインタビュー、僕らの座談会。各々の場所で僕の考えは、揺らぎ、膨らみ、転がり落ちて。その過程で、自身で学ぶ姿勢というものに教養を強く感じるようになった。

そう言われれば高校までの教育に教養教育って感じたことはなかったし、授業で教えられるだけだった。だけど大学に入って、嫌な必修の授業を受けつつも、興味があった哲学の本を読み、あれこれ考えるようになった。自分が自分の意思で勉強を始めた。これって少なからず教養と関係あるんじゃないか。

ふんわりと、自分のなかの教養に関するイメージを呼び起こし、繋げてみる。すると見つかったのが「見聞伝」という言葉だった。

自分の興味の赴くままに見て、聞いて、それを伝える。もちろん、そのままただ伝えるだけじゃだめだ。見るとき、聞くとき、自分はどんな意見を持っていたらう。納得できないところもあるだろうし、物足りないところもあったかもしれない。そんな思いを込めて伝える。それは相手に。そして自分に。

そうやっているうちに、新たな知識に惹かれるかもしれない。衝撃的な出会いが、僕の今を変えるのかもしれない。そう、哲学から量子論に飛んだりして。

インタビューの中で僕は言っていた。「好きなこと勉強して、広い知識も得るなんて無理じゃないか。」って。その通りなのかもしれない。だけどそんなこと言って、もしそんな大切な発見に鈍くなるんじゃないよなあ、と今はそう思う。

今の結論として、この姿勢が教養なんじゃないかと思う。水面に広がる波紋のように、一つの興味が広がっていく。これは初め持っていた、知識の広さというイメージにも少しは繋がっているだろうし、今の自分にとってはすごく大事なことで、また欠けていることだ。

そんな「教養」、是非身に付けてみたい。

まるで自分のゼミを宣伝するみたいで恐縮だけど、自分の教養観に僕はこの言葉を挙げたい。

くぼた ふみあき  
窪田 史朗

教養学部理科一類 1 年

この企画に参加してから考える機会は何度もあったが、「教養とは何なのか」について、結局のところ確固とした意見を持つには至っていない。冒頭から答える気がなさそうだが、決してそんなことはないのだ。とは言え幾らなんでもお話にならないので、何とかこれから捻り出してみよう。

座談会の中では「教養は結局非明示的にしか（教養自体ではなく無教養しか）定義できない」というフレーズが出てくる。しかし普通に（？）考えれば、非 A が定義できるのなら、A の輪郭はかなり見えてくる。実のところ教養の定義はもっと曖昧模糊としたものではないか。つまり、無教養の定義すら困難だと言いたいのである。これは「教養」に限らず、よく 2 値に分けられる様々な性質は、実際には連続的で、どこかで上手く切り分けられるケースは寧ろ希であると感じている。例えば、異常と正常、知性があるない、などの間は、実際にはグレーゾーンで、そのどこに線を引くかは常に悩ましい問題であり、場合によっては線をきっちり引くこと自体が放棄（？）されている。例えば知的障害者と健常者の境界は非常に曖昧で、様々な症状の程度を並べて、人工的に区分を定義しているのが実態である。

この様な例でどう区分を定義するかといえば、提案と承認という形で、誰かの提案が多くの人に認められると、それが採用されるのである。

大分脱線しているがやっと戻ってきて、教養についても何らかの共通認識らしきものを抽出してみたい。とは言え以下述べることは結局「私が共通認識だと思っていること」でしかない。はなはだ怪しいが、これを「私の教養観」だと思っ欲しい。

まずは取り敢えず、教養と近い概念を挙げてみる。一番に思いつくのは「常識」である。常識なんて、これぞ「（誰かが）共通認識だと思っていること」そのものの様な気がするが、強引に進む。まず第一に、常識がない人は教養についても「ない」と言われそうである。第二に、常識であっても教養でないもの、及びその逆がある。理系的偏見かもしれないが「文学作品を読む」と教養は結びつきそうだが、常識とはあまり結びつきそうにないし、「話題のドラマの主演の名前」は常識であっても、教養ではない気がする。常識の方が「日常」に密着している概念なのに対して、教養の方は「学問」に近い、とでも表現できようか。学問との関連で言えば、教養は歴史的には学問を学ぶ者の身に着けておくべきこととして成立したようであるし、「学がある」と「教養がある」もかなり近い使われ方をしているようにも感じる。

二番目に「知識」と比較してみよう。多くの場合、教養は何らかの知識体系であるかの様に扱われる。しかし只の知識と教養を分けるのは何だろうか。明らかに、知識の全てが教養とは言えない。例えば時刻表を暗記していても、それを教養とは言わないだろう。或いは自然対数の底を 1 万桁暗唱できる人をそれだけで教養のある人とは言わない。一方で語彙の多寡等は、全てではないが教養に含まれているようだ。つまり知識の実用性は必ずしも知識から教養を切り分ける基準ではないようである。ここでもやはり教養は常識と似

て、「他者との接触」に関わるものであるらしい。

さてここまで書いてきたことをまとも強引にまとめると、「教養」とは、「他者と学問的な会話をする上で必要な知識や技能の総体」と言った所か。なんだかよく分からない定義な上に、これだと「教養がある」という表現の使われ方に、はまり込んでいない気がする。しかも形だけは定義は出来ているが、これでは会話する相手毎に教養は姿を変えるわけで、なんだか結局最初の「教養って何なのか分からん」という所に戻ってきてしまったが、これも私の教養不足ということでお茶を濁したい。

やまもと りょう  
山本 遼

教養学部理科一類1年

「そもそも、教養って何だ？」と問うてみる。とりあえず、国語辞典を引いてみよう。

1 教育てること。「君の子として之を——して呉れ給え」〈木下尚江・良人の自白〉

2 ㊦ 学問、幅広い知識、精神の修養などを通して得られる創造的活力や心の豊かさ、物事に対する理解力。また、その手段としての学問・芸術・宗教などの精神活動。

㊧ 社会生活を営む上で必要な文化に関する広い知識。「高い——のある人」「——が深い」「——を積む」「一般——」 『大辞泉』より

東大教養学部では、「幅広い教養」を身につけることを目的としたカリキュラムが組まれているらしい（これに憧れて東大を受験する高校生は少なくない）。ここで言われている「教養」とは、上の語義で言うと、(1)は措くとして2の㊦と㊧では、㊧にものすごく偏っている、という実感がある。ここ駒場でも、大学受験までと同様、学生を篩にかけるための試験がある。高い点数を叩き出すことを専らの安楽とする人がウヨウヨしている。短期間でそれを実現するためか、「暗記」中心のお勉強がしっかり流行っている。その先に何があるかは知らないが、世渡りのためには仕方がないらしい。

期待と現実の、このギャップの原因はどこにあるのか？ 上に挙げた語義に基づいて考えてみた。「精神的豊さを教える」などという技術はついぞ知らないし、あると言われたところで真っ先に疑ってしまうだろう。「社会生活」の成立が、人間の、互いに合意し合う（あるいは馴れ合う）という側面の表れだとするなら、「個性」はその反対と捉えられそう。第一に、「個性」は伝播することはあっても、伝授されるものではない、という印象がある。つまり、㊦をいくら求めたところで、(物理的な意味での) 大学の環境や書物には㊧くらいしか出せない。㊦は自分で考え、獲得するものであり、他人に評価を仰げるものとは必ずしも言えない、というのが僕の考えである（書物にしても何にしても、思考の機会を与えることを主眼にしているものならよいのだが）。

もう少しだけ具体的に見てみると、㊦に近そうなのは、どうも「趣味」と名のつくものではないかという気がしてきた。何に対しても、「これは好きだ（興味がある）が、あれは好きではない（興味がない）」という偏りが、一人ひとりを際立たせているのではないだろうか。そして、「分野」や「専門」は、自分の好きな対象を指し示す上で非常に便利な言葉で、逆に言うともそれ以上の深い意味が感じられない。「遊ぶも好きずき、学ぶも好きずき」。いったい、「偏らない」人って、どんな人なのだろう。

## 12 文献一覧

### 単行本・雑誌

- 東京大学百年史編集委員会『東京大学百年史 通史第三巻』（東京大学出版会，1986/03）  
 東京大学百年史編集委員会『東京大学百年史 部局史第四巻』（東京大学出版会，1987/05）  
 立花隆『東大生はバカになったか』（文藝春秋，2001/10）  
 立花隆『脳を鍛える』（新潮社，2000/03）  
 佐藤優，立花隆『21世紀図書館 必読の教養書 200冊』（文藝春秋 2008年12月号）  
 （文藝春秋，2008/11）  
 アメリカ教育使節団『アメリカ教育使節団報告書』（講談社，1979/01）  
 『2008 東京大学入学記念アルバム』（東京大学新聞社，2008/08）  
 『履修の手引き』（東京大学教養学部前期課程，2008/04）  
 『平成 20 年度 夏学期 科目紹介・時間割表』（東京大学教養学部前期課程，2008/04）  
 『平成 20 年度 冬学期 科目紹介・時間割表』（東京大学教養学部前期課程，2008/10）  
 南原繁，丸山眞男，福田欲一『聞き書 南原繁回顧録』（東京大学出版会，1989/09）  
 南原繁，丸山眞男，福田欲一『南原繁著作集 第七巻』（岩波書店，1973/02）  
 南原繁，丸山眞男，福田欲一『南原繁著作集 第八巻』（岩波書店，1973/04）

### 文部科学省 Web サイトの項目 .....<http://www.mext.go.jp/>

- 学制百年史（本編・資料編）  
 中央教育審議会答申  
     「大学教育の改善について」  
     「今後における学校教育の総合的な拡充整備のための基本的施策について」  
 大学審議会答申「大学教育の改善について」  
 中央教育審議会大学分科会（第1回議事録 資料6）「国立大学教養部改組の状況」

### Wikipedia の項目 .....<http://ja.wikipedia.org/>

- 教養  
 教養学部  
 一般教育と専門教育  
 教養課程と専門課程  
 リベラル・アーツ  
 リベラル・アーツ・カレッジ  
 旧制高等学校  
 旧制第一高等学校

（上記 Web サイトについては，2008 年 12 月 4 日時点で確認済み）



## 「KEN BUN DEN」は「見聞伝」 立花 隆

第一次立花ゼミ（'96年）のタイトルは「調べて書く」だった。調べて書いたものは、インターネットのページを通じてどんどん発信した。調べて書くだけでは自己満足に終わってしまうが、読者にメッセージが伝わり共感してもらえれば、書いたものが生きてくる。そこで、翌年ゼミのタイトルを「調べて書く、発信する」に変えた。

第二次立花ゼミ（'06年）も、基本的にやっていることは同じである。「調べて書く、発信する」を続けているわけだ。発信するメディアとして、インターネットに科学メディアサイト「サイ」を構築した。一昨年からは駒場に新しく生まれた大学院総合文化研究科の「科学技術インタープリター養成プログラム」の特任教授というポジションについてので、発信する内容も科学と技術に絞ったわけだ。

今の日本では科学技術の現状と未来を一般社会に伝えるメディアがあまりに弱体化している。OECDの調査でも日本は科学技術に対する関心も理解も世界で一番低いグループに属するという結果が出ている。

そういう状況を少しでも変えられないかということで、学生たちが関心を持ったさまざまな研究現場を片っ端から訪問しては、そこで見聞したことを伝えるページを作っていたわけだ。「サイ」のページは私がNHKで作ったドキュメンタリー番組「サイボーグ技術が人類を変える」と連動させたので、最初の1ヶ月で100万ヒット、その後半年間で累計1000万ヒットを記録するという大ブレイクを果たした。

その後私は、大学院総合文化研究科から大学院情報学環に身を移したが、駒場の全学自由ゼミナールはそのまま継続した。

しかし、今度は、コンテンツを科学技術に限らないことにした。どんなものでも、学生が興味を持つもの全体を対象とすることにした。そこで、インターネットの発信サイトの名前も「KEN BUN DEN（見聞伝）」とした。「見聞伝」とは、「見たい聞きたい伝えたい」の略で、要するに、「調べて書く、発信する」と同じ意味なのだ。

とにかく、参加する学生たちが、知的好奇心のおもむくままに、あらゆる対象に迫って、質問攻めにする。そしてそこで見たこと聞いたこと、取材しながら考えたことをどしどし発表していこうというページである。

若い世代の知的エネルギーとみずみずしい感性があふれたページを作っていきたい。

